# M-Class

取扱説明書

## お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを **(3-50)** のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

**メルセデス・ベンツ日本株式会社**

## 表記と記載内容について

**警　告** 

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

**注　意　！**

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

**知　識**

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

**環　境** 

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

## 環境保護について

ダイムラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

**環　境** 

ダイムラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

**警　告** 

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

## オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意

### セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

### セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（5-6）をご覧ください。

## 1.安全のために



## 2.安全装備



## 3.運転する前に



## 4.マルチファンクションディスプレイ

## 5.運転するとき



## 6.快適・室内装備

## 7.万一のとき



## 8.点検と整備



## 9.サービスデータ



## 10.こんなときは



## 11.さくいん

## 走行する前に

### 点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

### 夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

### 日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

### ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

### タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

### シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

### 運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

### 車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込むおそれがあります。

### ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

### 燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。
  - ◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
  - ◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
  - ◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
  - ◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

    身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  - ◇ 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
  - ◇ キャップの取り外し / 取り付け（3-59）は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
  - ◇ 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。

◇ 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。

◇ 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

◇ 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。

◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

**荷物を積むとき**

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、セーフティネット **(3-49)** を使用してください。また、荷物固定用リング **(3-53)** を使用して、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をラゲッジルーム左右のウインドウの下端、またはリアドアウインドウの下端よりも高く積み上げないでください。

**燃えるものは積まない**

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

## 子供を乗せるとき

### 子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

### 小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（2-17）を使用することが法律で義務付けられています。

### 子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

## 子供を乗せるとき

### 子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアのチャイルドプルーフロック（**3-39**）やドアウインドウのセーフティスイッチ（**3-68**）を活用してください。

### ドアウインドウやスライディングルーフ＊の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

### 車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になるおそれがあります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

**知　識**

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ティップシフト位置 D3、D2、D1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

**知　識**

- ML 63 AMGは以下の注意事項を守ってください。
  - ◇ 走行速度が140km/hを超えないようにしてください。
  - ◇ エンジン回転数が4,500回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

## 走行するとき

### アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

### 横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

### トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

### エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

**知 識**

**エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

### 滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

### 水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

### スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、オフロードでの走行 **(5-50)** もご覧ください。

### 道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は、約50cmです。

  また、レベルコントロール装備車で車高をオフロードレベル3 **（5-74）**に設定したときは、最大約60cmです。
- 河川などを渡るときは **（5-54）**をご覧ください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

## 走行中に異常を感じたら

### 警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

### ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

### 走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

## 駐停車するとき

### 駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやシートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウ周辺やボンネットの吸排気口に枯れ葉や異物がある場合は必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、室内に水が侵入するおそれがあります。

### 雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

### 急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

### 仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

### 後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

## 雨降りや濃霧時の運転

### 雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

## オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(5-17)。

### オートマチック車の特性

**クリープ現象：**エンジンがかかっているとき、セレクターレバーがP、N以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

**キックダウン：**走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

### エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

### エンジンの始動

シフトポジションがPになっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

### 発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションをD、Rにするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

### 走行中

- シフトポジションを N にしたままで走行し続けないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで車速を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

### 停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

### 駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。 R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

## こんなことにも注意

### 運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

### 違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になるおそれがあります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

### 自動車電話、携帯電話

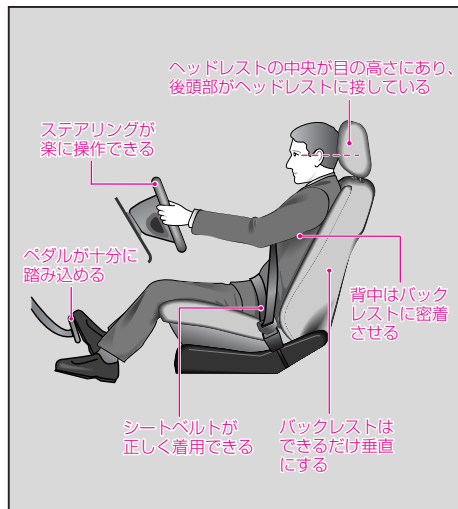
運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

### ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

### きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

# 正しい運転姿勢

## 正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

### 警　告

- 運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

### 注　意　！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

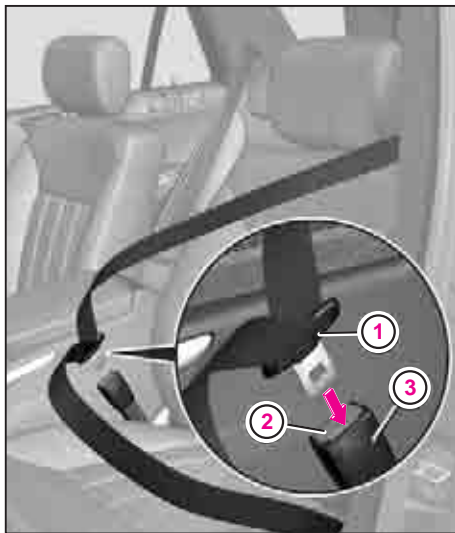
## シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置です。

急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

## シートベルトの着用

① プレート
② 解除ボタン
③ バックル

### シートベルトを着用する

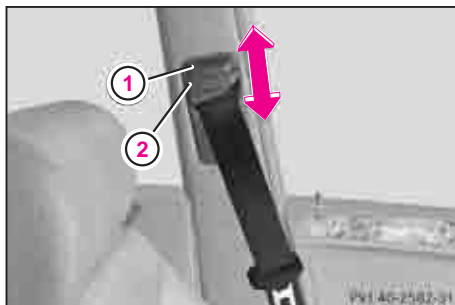
- ▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。

  シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

- ▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート①の先端をバックル③に差し込みます。
- ▶ 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。
- ▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

### シートベルトを外す

- ▶ 手でプレート①を持ち、バックル③の解除ボタン②を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

## フロントシートベルトの高さ調整

① ロック解除ボタン
② アンカー

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは4段階に調整できます。

### フロントシートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー②をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン①を押しながらアンカー②を下げます。

調整後はアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

**警　告** 

- すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれていないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。
  ◇ バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。
  ◇ コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
  ◇ シートに深く腰かけてください。
  ◇ 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに強い衝撃を受けます。
  ◇ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。
  ◇ シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
  ◇ 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
  ◇ シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
  ◇ 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
  ◇ 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
  ◇ 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。

**注　意　!**

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ 着用時は胸ポケットにペンや眼鏡などを入れない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

## シートベルト着用警告

### シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

### シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

### 走行中のシートベルト警告

走行速度が約25km/h以上になったときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないか、シートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約60秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みますが、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約25km/h以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

**知　識**

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

### シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

フロントシートと左右リアシートのシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーは、エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

フロントシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトがバックルに確実に差し込まれているときに作動します。

また、車が横転したときもシートベルトテンショナーは作動することがあります。

### ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

フロントシートと左右リアシートのシートベルトに装備されています。

**注　意　!**

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- 助手席に人が乗っていないときは、シートベルトをバックルに差し込まないでください。事故などのときに、シートベルトテンショナーが作動するおそれがあります。

**知　識**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- シートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

## PRE-SAFE（プレセーフ）

PRE-SAFEは、緊急ブレーキや横滑りなどにより車が不安定な状態にあることを感知したときに、万一の衝突や横転に備えて乗員保護機能を高める装置です。

## PRE-SAFEの作動

PRE-SAFEは、約35km/h以上で走行しているとき、以下のように作動します。

◇ 衝突に備え、PRE-SAFE用の電動式シートベルトテンショナーが前席シートベルトを引き込み、シートベルトテンショナーの効果を高めます。

◇ メモリー付パワーシート装備車は、助手席が、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、シートを適正な位置に自動的に調整します。

◇ 車の横滑りを感知すると、万一の横転時に乗員が車外に放出されることを防ぐため、ドアウインドウとスライディングルーフ＊が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が不安定な状態から脱したときは、助手席の位置＊、ドアウインドウやスライディングルーフの開き具合を再度調整してください。

**注　意　！**

助手席の位置を調整するときは、シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

**知　識**

- 車が不安定な状態から脱すると、電動式シートベルトテンショナーの張力が緩みます。
- 電動式シートベルトテンショナーが解除されてもシートベルトが緩まないときは、シートの前後位置やバックレストの角度を少し後方に移動させると、シートベルトが緩みます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

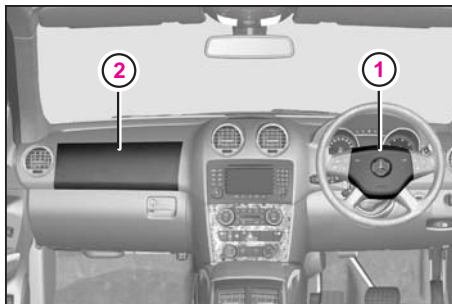
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

**知　識**

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

## 運転席 / 助手席エアバッグ

① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部
② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときも、運転席 / 助手席エアバッグは作動することがあります。

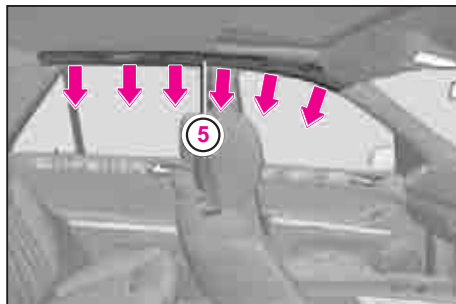
運転席 / 助手席エアバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

### フロント / リアサイドバッグ

③ フロントサイドバッグ
運転席 / 助手席のバックレスト側面
④ リアサイドバッグ
リアシートの左右側面

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、上体への衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときもサイドバッグは作動することがあります。

### ウインドウバッグ

⑤ ウインドウバッグ
フロントピラーからリアピラー間のルーフライニング部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときもウインドウバッグは作動することがあります。

### SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないとき、走行中に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナーの故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

**知　識**

エアバッグやシートベルトテンショナーが作動したときは、エアバッグシステム警告灯が点灯します。

**警　告** 

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれがあります。また、不意に作動するおそれもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席は正しい位置に調整し、助手席はできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- 市販のシートカバーを使用しないでください。フロントサイドバッグやリアサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上にペットや荷物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

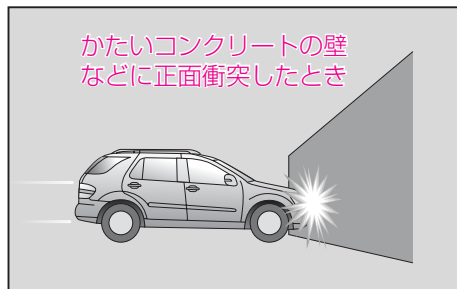
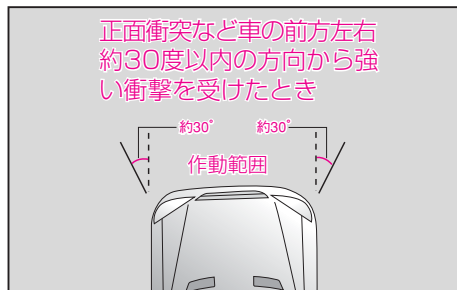
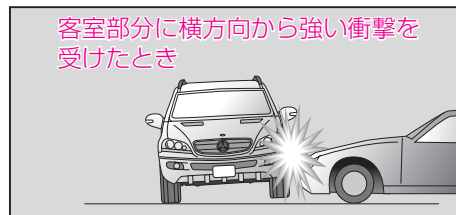
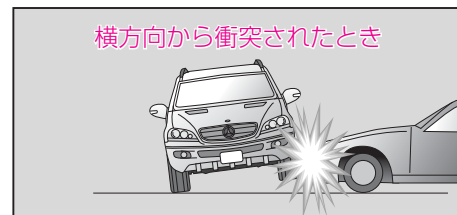
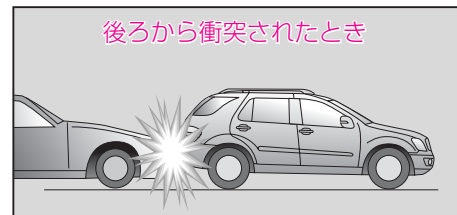
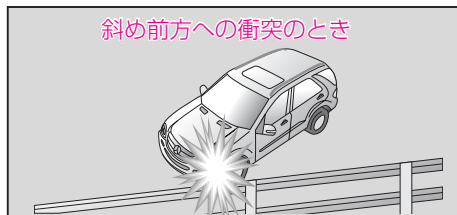
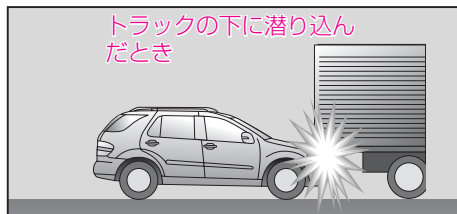
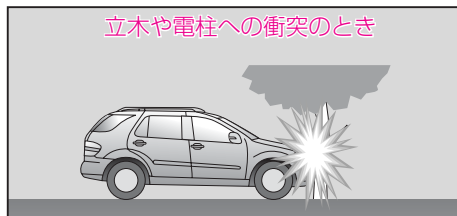
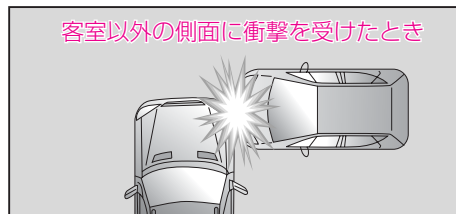
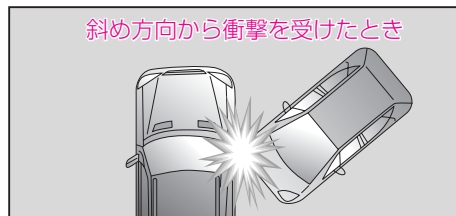
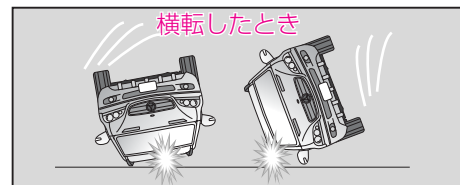
**注　意　!**

- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。正しく作動しなくなったり、誤作動でけがをするおそれがあります。

**知　識**

- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、エアバッグは作動しないことがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- エアバッグが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

### 運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

### サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

### 運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

**運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき**

**サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき**

**いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき**

## チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

**警　告** 

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席をもっとも後ろの位置にしてください。

**警　告** 

- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。またタイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、サンバイザーに貼付されています。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 重い荷物やかたい物を積むときは、必ず荷物を固定してください。急ブレーキや事故のときなどに荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。

  ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

  ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になることがあります。

  ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

  ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

## 純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー社では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

### 選択の目安

| シート名 | 体　重 | 年　齢 |
|---|---|---|
| ベビーセーフプラス | 約10kg以下 | 新生児~9カ月位 |
| デュオ プラス | 9~18kg | 8カ月~4歳位 |
| キッド | 15~36kg | 3歳半~12歳位 |

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

## 助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車のための表示灯で、日本仕様には設定のない装備のため、表示灯としては機能しません。

エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

## チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートをシートベルトで固定するとき、シートベルトが引き出されないようにロックしてチャイルドセーフティシートを確実に固定するシステムです。

リアシートのシートベルトに装備されています。

**警　告**

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

### 固定機構を使用する

▶ チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく装着します。

▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ状態でシートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

**注　意　！**

チャイルドセーフティシートを固定した後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

### 固定機構を解除する

▶ シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

**注　意　！**

シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

## ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

① カバー

左右のリアシートに、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

**チャイルドセーフティシートを装着する**

▶ カバー①を取り外します。

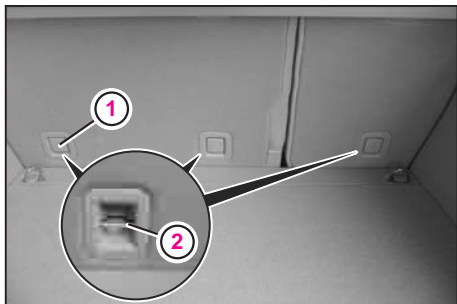
② 固定装置

▶ 固定装置②にチャイルドセーフティシートを装着します。

**注 意 !**

チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央の席のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

**警 告** 

- この固定装置は、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、新品に交換してください。

## テザーアンカー

① カバー
② テザーアンカー

リアシートの背面にテザーアンカー②を装備しています。

それぞれのテザーアンカーには、テザーベルトを使用して、テザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを装着することができます。

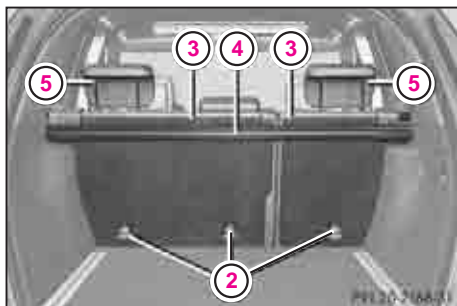
チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のとき、チャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

カバー①を取り外して使用してください。

**警　告** 

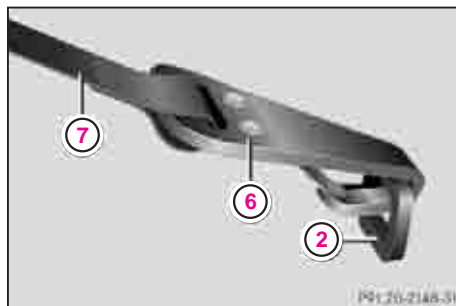
- テザーベルトは、チャイルドセーフティシートの位置に対応したテザーアンカーに取り付けてください。
- テザーベルトがねじれたり、複数のテザーベルトが交差しないことを確認してください。
- テザーアンカーに、テザーベルトが確実に固定されていることを確認してください。

**知　識**

純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

② テザーアンカー
③ バックレスト
④ ラゲッジルームカバー収納リール
⑤ ヘッドレスト

## テザーフックを取り付ける

▶ テザーアンカー②のカバーを取り外します（2-22）。

▶ ヘッドレスト⑤を上げます。

② テザーアンカー
⑥ テザーフック
⑦ テザーベルト

▶ ヘッドレストの2本の支柱の間にテザーベルトを通します。

シート背後にラゲッジルームカバー収納リール（3-48）を取り付けてあるときは、テザーベルトがバックレスト③とラゲッジルームカバー収納リール④の間を通るようにします。

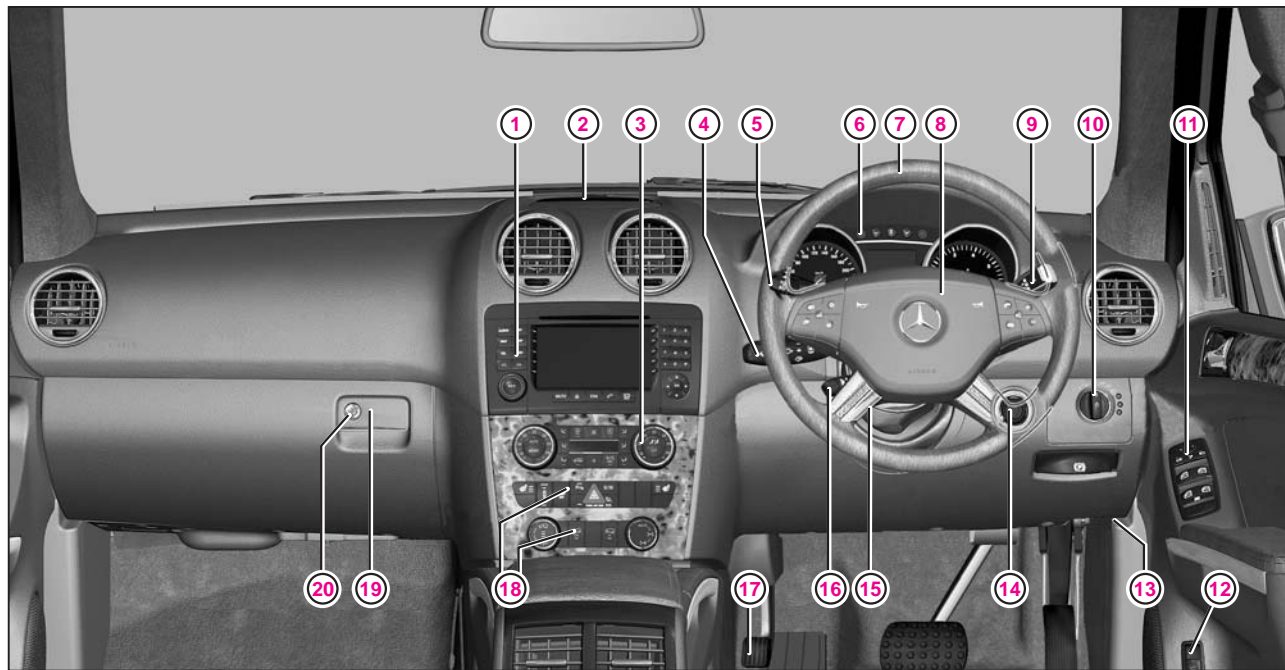
▶ テザーフック⑥をテザーアンカー②にかけます。

▶ テザーベルト⑦を締めます。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを少し下げます。

テザーベルトの動きが妨げられていないことを確認してください。

# インストルメントパネル

## インストルメントパネル

オフロードパッケージ装備車

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と異なることがあります。

| | 名称 | ページ |
|---|---|---|
| ① | マルチファンクションコントローラー<br>サイドビューカメラ / パーキングアシストリアビューカメラ表示 | 別冊<br>5-106<br>5-115 |
| ② | パークトロニックインジケーター / 作動表示灯＊ | 5-101 |
| ③ | エアコンディショナーコントロールパネル | 6-3<br>6-19 |
| ④ | コンビネーションレバー（ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー / リアワイパー） | 5-25<br>5-29<br>5-31<br>5-34 |
| ⑤ | DSR / クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバー | 5-62<br>5-91<br>5-97 |
| ⑥ | メーターパネル | 3-83 |

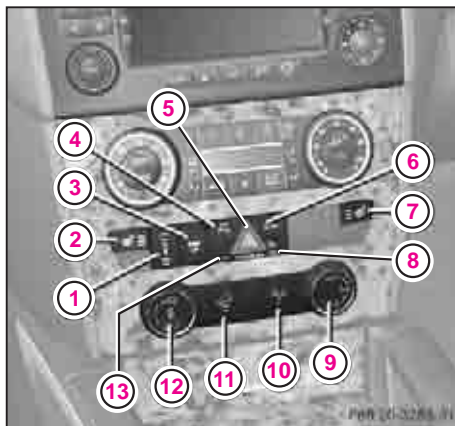
| | 名称 | ページ |
|---|---|---|
| ⑦ | ステアリング | 3-81 |
| ⑧ | ホーン / 運転席エアバッグ | 2-11 |
| ⑨ | セレクターレバー | 5-6 |
| ⑩ | ランプスイッチ | 5-23 |
| ⑪ | ドアミラー調整スイッチ<br>ドアミラー選択ボタン<br>ドアミラー格納 / 展開スイッチ<br>ドアウインドウスイッチ<br>セーフティスイッチ | 3-77<br>3-77<br>3-80<br>3-66<br>3-68 |
| ⑫ | テールゲートスイッチ＊ | 3-44 |
| ⑬ | ボンネットロック解除レバー | 3-56 |
| ⑭ | エンジンスイッチ | 5-2 |

| | 名称 | ページ |
|---|---|---|
| ⑮ | ステアリングロック解除ハンドル＊ | 3-81 |
| ⑯ | ステアリング調整レバー＊ | 3-82 |
| ⑰ | パーキングブレーキペダル | 5-36 |
| ⑱ | センターコンソール操作部 | 3-4<br>3-5<br>3-6 |
| ⑲ | グローブボックスハンドル | 6-44 |
| ⑳ | グローブボックスキーシリンダー | 6-44 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

# センターコンソール

## センターコンソール

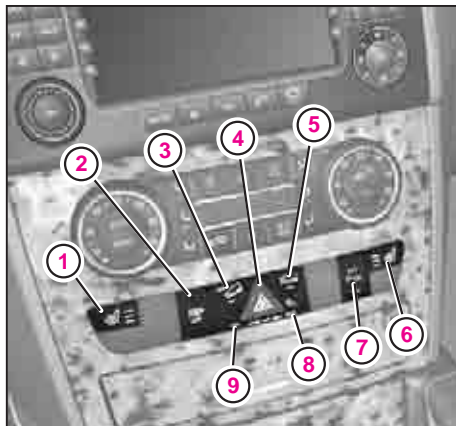
### オフロードパッケージ装備車

| | 名称 | ページ |
|---|---|---|
| ① | サスペンションモード選択スイッチ | 5-68 |
| ② | シートヒータースイッチ（助手席） | 3-25 |
| ③ | ESPオフスイッチ | 5-47 |
| ④ | パークトロニックオフスイッチ | 5-105 |
| ⑤ | 非常点滅灯スイッチ | 5-30 |
| ⑥ | 走行モード選択スイッチ | 5-9 |
| ⑦ | シートヒータースイッチ（運転席） | 3-25 |
| ⑧ | 助手席エアバッグオフ表示灯 | 2-19 |
| ⑨ | ディファレンシャルロックダイヤル | 5-86 |
| ⑩ | ローレンジスイッチ | 5-83 |
| ⑪ | DSRスイッチ | 5-60 |
| ⑫ | 車高調整ダイヤル | 5-69 |
| ⑬ | 盗難防止警報システム表示灯＊ | 3-62 |

**警　告** 

エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき、助手席エアバッグオフ表示灯⑧が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。詳しくは**（2-19）**をご覧ください。

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの配置や形状が実際の車両と異なることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オフロードパッケージ非装備車

| | 名称 | ページ |
|---|---|---|
| ① | シートヒータースイッチ（助手席） | 3-25 |
| ② | ESPオフスイッチ | 5-47 |
| ③ | DSRスイッチ | 5-60 |
| ④ | 非常点滅灯スイッチ | 5-30 |
| ⑤ | オフロード・ドライブ・プログラムスイッチ | 5-65 |

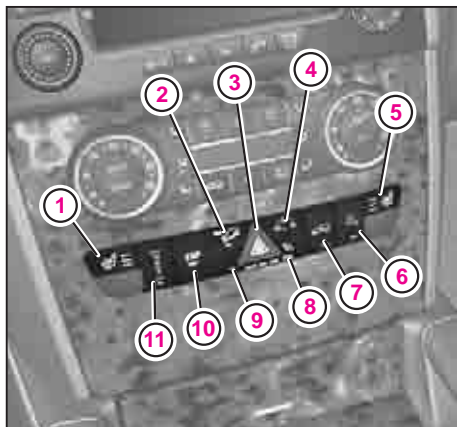
| | 名称 | ページ |
|---|---|---|
| ⑥ | シートヒータースイッチ（運転席） | 3-25 |
| ⑦ | パークトロニックオフスイッチ＊ | 5-105 |
| ⑧ | 助手席エアバッグオフ表示灯 | 2-19 |
| ⑨ | 盗難防止警報システム表示灯＊ | 3-62 |

**警　告** 

エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき、助手席エアバッグオフ表示灯⑧が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。詳しくは**（2-19）**をご覧ください。

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの配置や形状が実際の車両と異なることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## センターコンソール

ML 63 AMG

|  | 名称 | ページ |
|---|---|---|
| ① | シートヒータースイッチ（助手席） | 3-25 |
| ② | DSRスイッチ | 5-60 |
| ③ | 非常点滅灯スイッチ | 5-30 |
| ④ | 走行モード選択スイッチ | 5-9 |
| ⑤ | シートヒータースイッチ（運転席） | 3-25 |
| ⑥ | パークトロニックオフスイッチ | 5-105 |
| ⑦ | 車高調整スイッチ | 5-80 |
| ⑧ | 助手席エアバッグオフ表示灯 | 2-19 |
| ⑨ | 盗難防止警報システム表示灯 | 3-62 |
| ⑩ | ESPオフスイッチ | 5-47 |
| ⑪ | サスペンションモード選択スイッチ | 5-78 |

**警　告** 

エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき、助手席エアバッグオフ表示灯⑧が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。詳しくは**（2-19）**をご覧ください。

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの配置や形状が実際の車両と異なることがあります。

## キー

リモコン機能付きのキーが2本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

**知 識**

- 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。
- 2つのキーを見わけるため、キーのストッパーの色は異なります。

**警 告**

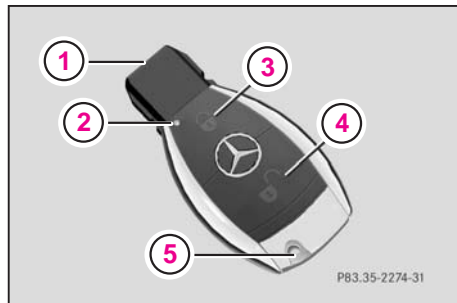
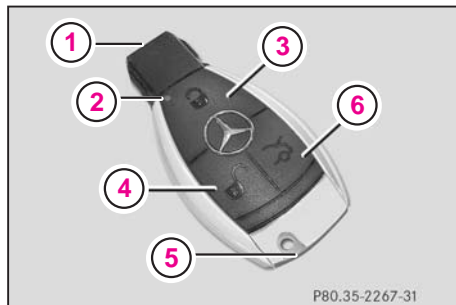
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり、運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- 重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

**注 意！**

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

# キー

## リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ エマージェンシーキー

EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車
① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ エマージェンシーキー
⑥ テールゲート開閉ボタン

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- テールゲートの開閉＊
- ドアウインドウとスライディングルーフ＊の開閉（3-13､14）

操作時に表示灯②が1回点滅します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

### 施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

### テールゲートを開く＊

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲート開閉ボタン⑥を押し続けます。

警告音が鳴りながら、テールゲートが自動で開きます。

### テールゲートを閉じる＊

▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲート開閉ボタン⑥を押し続けます。

警告音が鳴りながら、テールゲートが自動で閉じます。

**知　識**

車が施錠されているときにテールゲート開閉ボタン⑥を押すと、テールゲートだけが解錠され、開きます。その状態でテールゲート開閉ボタンを押すと、テールゲートが閉じ、施錠されます。

**注　意　！**

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠されたことを確認してください。
- リモコン操作でテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。
- リモコン操作でテールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定できます。

### リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約5秒間押し続けます。

キーの表示灯②が2回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を1回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。
- 続けて約40秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

### リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約5秒間押し続けます。

キーの表示灯②が2回点滅し、元の設定に戻ります。

### 知 識

- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。
- リモコン操作での解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。
  ◇ ドアを開く
  ◇ テールゲートを開く
  ◇ エンジンスイッチにキーを差し込む
  ◇ ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- 車がバッテリーあがりを起こしたときは、リモコンの電池が正常でもリモコン操作での解錠 / 施錠はできません。
- リモコンの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

### 施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、解錠した後にフロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については**（4-48）**をご覧ください。

**知　識**

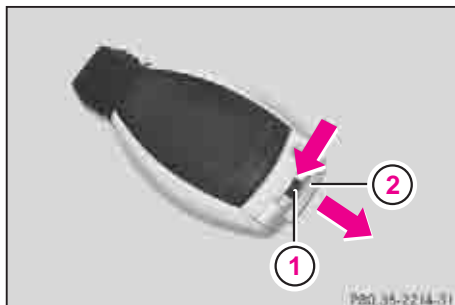
ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

### ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- 点灯してから約40秒経過したとき

この機能の設定と解除については**（4-38）**をご覧ください。

## エマージェンシーキー

① ストッパー
② エマージェンシーキー

キーに収納されています。

グローブボックスを施錠 / 解錠する（6-44）ときに使用します。

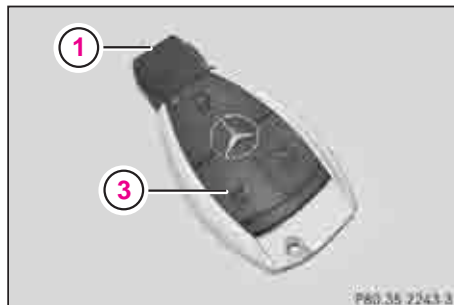
また、リモコンが作動しないときに、運転席ドアを解錠する（3-37）ときに使用します。

**エマージェンシーキーを使用する**

▶ ストッパー①を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー②を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

## サマーオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフ＊を開くことができます。

EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車
① 発信部
③ 解錠ボタン

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて、解錠ボタン③を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

**注 意 ！**

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

**知 識**

- リモコンを操作するときは、キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## コンビニエンスクロージング機能

車から降りた後に、リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフ＊を閉じることができます。

**注 意 !**

リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンから手を放し、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとスライディングルーフを開いてください。

EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車
① 発信部
② 施錠ボタン

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて、施錠ボタン②を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

施錠ボタンから手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

**注 意 !**

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。
- リモコン操作で施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

**知 識**

- リモコンを操作するときは、キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 電池の交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり、いずれかのボタンを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

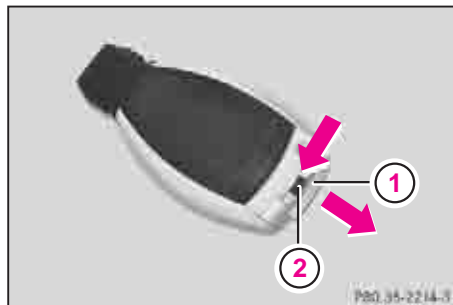
電池の交換は指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

**警　告** 

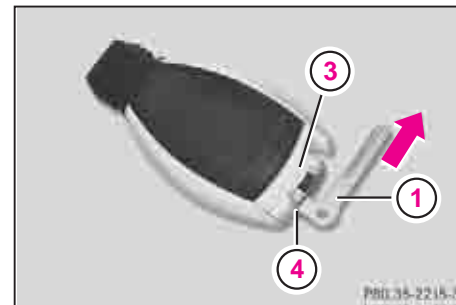
電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

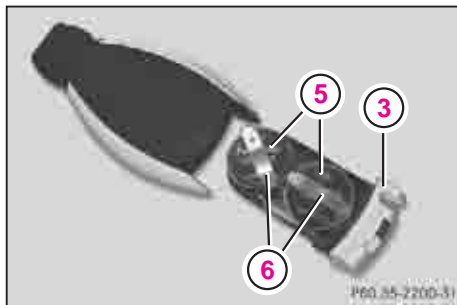
もし電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

**知　識**

キーのいずれかのボタンを押したときにキーの表示灯が1回点滅すれば電池は正常です。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

### 電池の交換手順

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜き取ります。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①を凹部④にかけて矢印の方向に押しながら、電池ケース③を引きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を外し、新しい電池と交換します。

電池は2個とも⊕を上にして、電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

**知　識**

- リチウム電池（CR2025）を2個使用しています。
- 電池を交換するときは2個同時に交換してください。
- 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

**環　境** 

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分を依頼してください。

## フロントシート

フロントシートには以下の3種類があります。

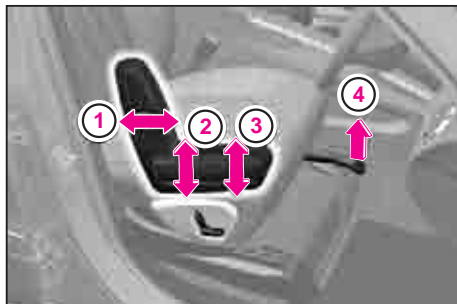


**警　告**

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

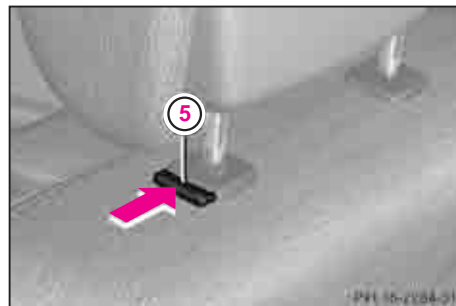
**注　意！**

- シートの調整をするときは身体や物などが挟まれないように注意してください。
- シートを前方に移動するときは、ダッシュボードとシートの間に身体を挟まれないように注意してください。
- リアシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、リアシートに接触しないように注意してください。フロントシート背面の収納ネットに収納している物やシートを損傷するおそれがあります。
- バックレストの角度やヘッドレストの高さを調整するときは、サンバイザーを収納してください。ヘッドレストが最も高い位置にあるときは、サンバイザーとヘッドレストが接触するおそれがあります。

## 4ウェイパワーシート＊の調整

### シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①〜③の方向に操作します。

シートの前後位置は、レバーを④の方向に引いたままシートを前後に動かして調整します。

| 矢印の方向 | 調整内容 |
|---|---|
| ① | バックレストの角度 |
| ② | シートの高さ |
| ③ | シートクッションの角度 |
| ④ | シートの前後位置 |

⑤ ロック解除ボタン

### ヘッドレストの高さを調整する

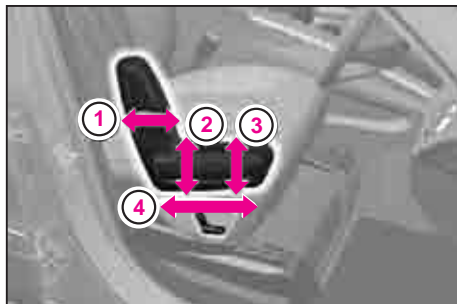
▶ 上げるときは、ヘッドレストを引き上げます。

下げるときはロック解除ボタン⑤を押しながらヘッドレストを下げます。

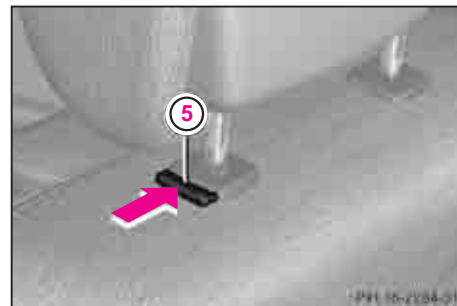
**注　意　！**

乗車するときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## パワーシート＊の調整

### シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①〜④の方向に操作します。

| 矢印の方向 | 調整内容 |
|---|---|
| ① | バックレストの角度 |
| ② | シートの高さ |
| ③ | シートクッションの角度 |
| ④ | シートの前後位置 |

⑤ ロック解除ボタン

### ヘッドレストの高さを調整する

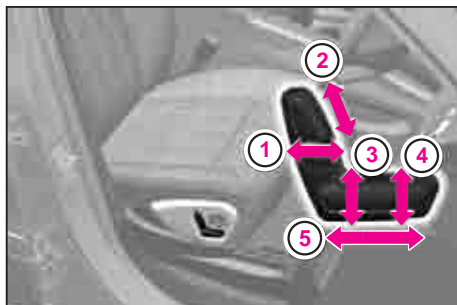
▶ 上げるときは、ヘッドレストを引き上げます。

下げるときはロック解除ボタン⑤を押しながらヘッドレストを下げます。

**注　意　！**

乗車するときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## メモリー付パワーシート＊の調整

### シートを調整する

▶ シート調整スイッチを①～⑤の方向に操作します。

| 矢印の方向 | 調整内容 |
|---|---|
| ① | バックレストの角度 |
| ② | ヘッドレストの高さ |
| ③ | シートの高さ |
| ④ | シートクッションの角度 |
| ⑤ | シートの前後位置 |

**知　識**

車種や仕様により、シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストの高さも連動して上下します。

**注　意　！**

乗車するときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。必要に応じてヘッドレストの高さを調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ヘッドレストの調整

ヘッドレストには以下の2種類があります。

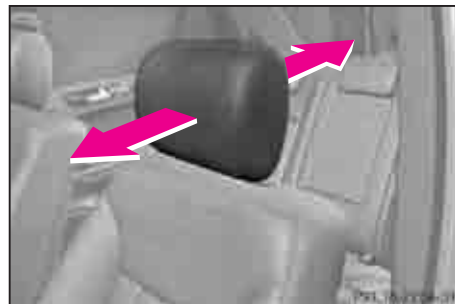
- ヘッドレスト下部を前後に動かして、ヘッドレスト角度を調整するタイプ
- ヘッドレスト全体を前後に動かして調整するタイプ

### 角度を調整するヘッドレスト

**角度を調整する**

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

### 前後位置を調整するヘッドレスト

**前後位置を調整する**

▶ ヘッドレストを矢印の方向に動かします。

ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

## ランバーサポート＊

① 調整レバー

腰部のサポートを調整できます。

**サポートを増加させる**

▶ 調整レバー①を前方に操作します。

**サポートを減少させる**

▶ 調整レバー①を後方に操作します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## NECK PROアクティブヘッドレスト

NECK PROアクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方に動くことにより、乗員の頭部をより効果的に支持します。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PROアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

**警　告** 

フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。NECK PROアクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

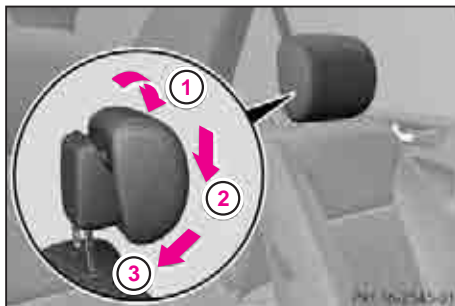
**注　意！**

安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、NECK PROアクティブヘッドレストの点検を受けてください。

### 作動したNECK PROアクティブヘッドレストをリセットする

事故などのときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

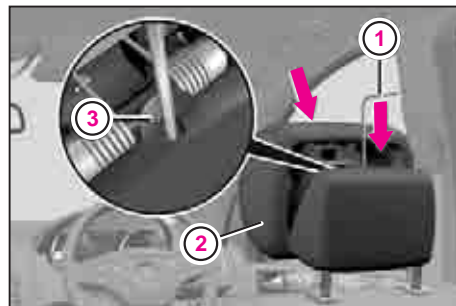
このリセット作業は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

ヘッドレストの種類により、リセット方法が異なります。

**角度を調整するヘッドレスト**

▶ ヘッドレストの上部を①の方向に押します。

▶ ヘッドレストを②の方向にいっぱいまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを③の方向に押して、確実にロックさせます。

もう一方のヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

① リセットツール
② ヘッドレスト
③ ガイド

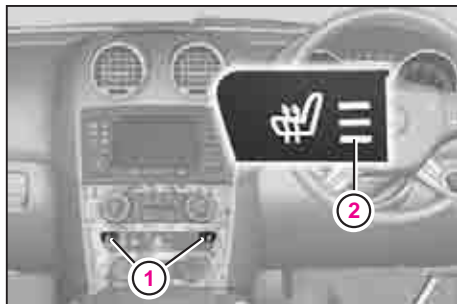
**前後位置を調整するヘッドレスト**

▶ ヘッドレスト②上部中央にある穴に、ガイド③に沿って車載のリセットツール①を差し込みます。

▶ リセットツール①を、ロックする音が聞こえるまで矢印の方向に押し下げます。

▶ リセットツールを抜き、ヘッドレストを後方および下方に強く押し戻して確実にロックさせます。

もう一方のヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

## シートヒーター

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。

### シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

### シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

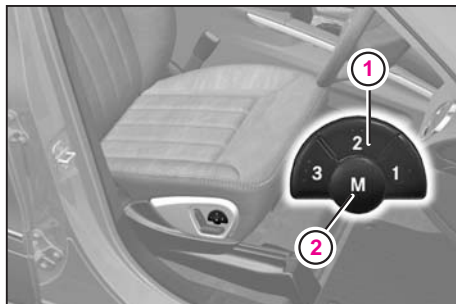
| 点灯している表示灯の数 | 作動内容 |
|---|---|
| 3 | シートヒーターが強で作動します。<br>約5分後に自動的に中に切り替わります。 |
| 2 | シートヒーターが中で作動します。<br>約10分後に自動的に弱に切り替わります。 |
| 1 | シートヒーターが弱で作動します。<br>約20分後に自動的に停止します。 |
| 0 | 停止しています。 |

**注 意 !**

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用したり、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。
- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。
  ◇ 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
  ◇ 皮膚の弱い方
  ◇ 疲労の激しい方
  ◇ 眠気をさそう薬を服用された方
  ◇ 飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

**知 識**

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

## シート位置のメモリー機能＊

運転席シートのスイッチ
① ポジションスイッチ
② メモリースイッチ

シート位置を記憶させることができます。運転席シートでは、ステアリングの位置やドアミラーの角度も記憶させることができます。

### 記憶させたシート位置を呼び出す

▶ 呼び出したいポジションスイッチ①の1～3のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

**知 識**

安全のため、ポジションスイッチから手を放すとシートなどは停止します。

**注 意 ！**

バックレストを大きく後方に傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

### シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしてください。

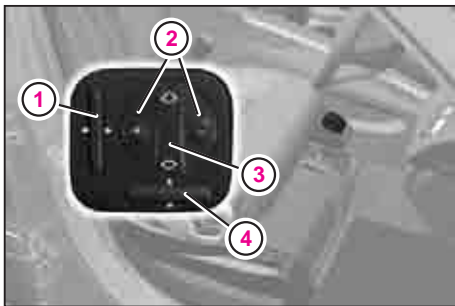
▶ メモリースイッチ②を押します。

▶ 約3秒以内にポジションスイッチ①の1～3のいずれかを押します。

確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## マルチコントロールシートバック＊

① バックレスト横方向のサポート調整
② ランバーサポートの調整
③ ランバーサポートの位置の調整
④ シートクッション前部のサポート調整

シートのサポートを調整します。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

スイッチは運転席 / 助手席のシート下部にあります。

**シートクッション前部のサポートを調整する**

▶ スイッチ④を前方または後方に操作します。

**ランバーサポートを調整する**

腰部のサポートを調整できます。

▶ スイッチ③を押して、サポートの位置を調整します。

▶ スイッチ②を押して、サポートの強さを調整します。

**バックレスト横方向のサポートを調整する**

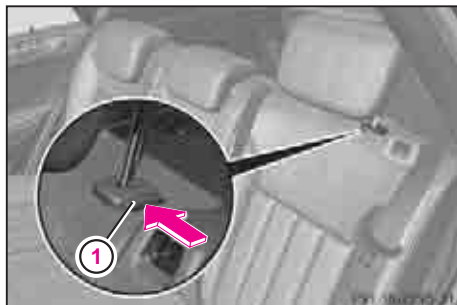
▶ スイッチ①を左右に操作します。

**知 識**

スイッチを操作しても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## リアシート

### ヘッドレストの高さを調整する

① ロック解除ボタン

#### ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

#### ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、押し下げます。

**注　意！**

乗車するときは、ヘッドレストの中心が目の高さになっていることを確認してください。

### ヘッドレストの脱着

#### ヘッドレストを取り外す

▶ バックレストを前方に傾けます(3-31)。

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを引き抜きます。

#### ヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストを前方に傾けます(3-31)。

▶ 切り欠きのある支柱が左側の取り付け穴に入るようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

**警　告** 

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

## リアシート

### 分割可倒式リアシート

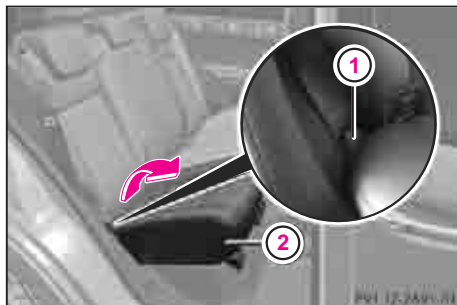
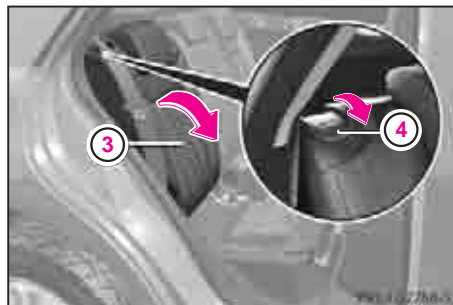
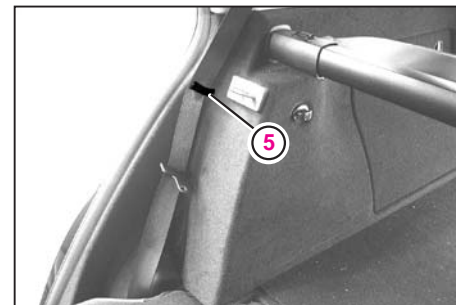
左右いずれか一方、または両方のリアシートを折りたたむことができます。

**警　告** 

- 大きな荷物を積まないときは、バックレストを起こしてください。ラゲッジルームの荷物などが前方に放り出され、けがをするおそれがあります。
- リアシートに乗車するときは、必ずバックレストを起こして確実にロックしてください。事故や急ブレーキのときなどに、けがをするおそれがあります。

**注　意！**

リアシートクッションを引き起こしたり、元の位置に戻すときは、ヒンジ周辺の部分（図中の×印のところ）などに身体や物が挟まれないように注意してください。

- リアシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、リアシートに接触しないように注意してください。フロントシート背面の収納ネットに収納している物やシートを損傷するおそれがあります。
- バックレストは非常に重量があります。倒すときは身体を挟まないように注意してください。

① ストラップ
② シートクッション

**リアシートを折りたたむ**

▶ 折りたたむリアシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ シートクッション横にあるストラップ①を引きます。

シートクッション②のロックが解除されます。

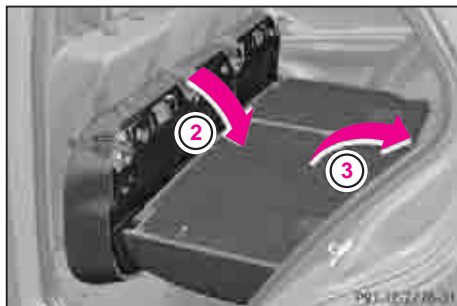
▶ シートクッション②を前方に引き起こします。

③ バックレスト
④ リリースハンドル

▶ リリースハンドル④を引いてロックを解除します。

▶ バックレスト③を前方に倒します。

⑤ フック

▶ シートベルトをフック⑤にかけます。

② シートクッション
③ バックレスト

バックレストがロックされていない状態
⑥ ロックインジケーター

**リアシートを元に戻す**

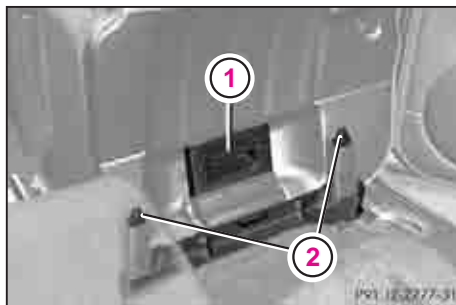
▶ バックレスト③を元の位置に戻し、確実にロックします。

▶ シートクッション②を元の位置に戻し、確実にロックします。

▶ ロックインジケーター⑥が見えない状態になっていることを確認します。

**注　意　！**

ロックインジケーター⑥が見えているときはバックレストがロックされていません。ロックインジケーターが見えなくなるまで、バックレストを確実にロックしてください。

## シートクッションの脱着＊

① レバー
② シートクッション取り付け部

左右いずれか一方、または両方のシートクッションを取り外すことができます。

### シートクッションを取り外す

▶ シートクッションを前方に引き起こします（3-31）。

▶ シートクッション裏のレバー①を引きながら、シートクッションを上方に取り外します。

**注　意！**

シートクッションを取り外したときは、シートクッション取り付け部②を後方に倒さないでください。

シートクッション取り付け部②を後方に倒した状態でバックレストを倒すと、シートクッション取り付け部とバックレストが接触して、バックレストを損傷するおそれがあります。

### シートクッションを取り付ける

▶ シートクッション取り付け部②にシートクッションを差し込みます。

シートクッションが確実にロックされていることを確認します。

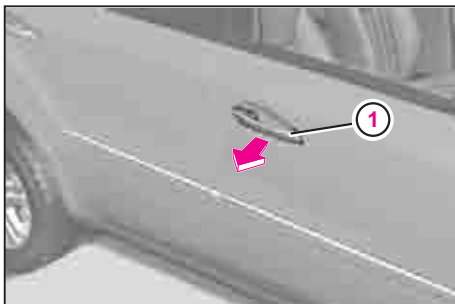
▶ シートクッションを後方に倒して、ロックさせせます。

**注　意！**

シートクッションを取り付けたときは、シートクッションが確実にロックされていることを確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

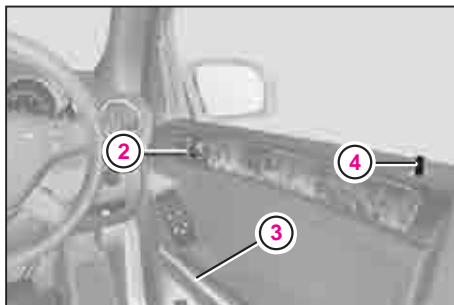
## ドア

### ドアの開閉

① ドアハンドル

#### 車外から開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

#### 車外から閉じる

▶ ドアハンドル①をもって確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

#### 車内から開く

▶ ドアレバー②を引きます。

ドアが施錠されているときはロックノブ④が上がり、解錠されます。

#### 車内から閉じる

▶ インナーグリップ③をもって確実に閉じます。

**警　告** 

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

**注　意　！**

- 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
- ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

**知　識**

- 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。
- ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（10-7）。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、自動的に解錠されます。

## イージーエントリー＊

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが0か1の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- エンジンスイッチが0の位置のときは、運転席ドアを閉じてから1の位置にする
- エンジンスイッチが1の位置のときは、運転席ドアを閉じて、2の位置にする

この機能の設定と解除については（4-47）をご覧ください。

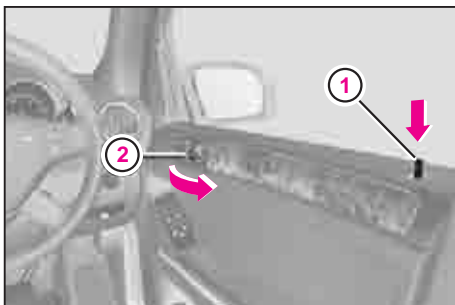
**注　意！**

- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開いたときにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。
- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

**知　識**

- イージーエントリーの作動を停止するときは、運転席のメモリースイッチかポジションスイッチ、ステアリング調整レバーのいずれかを操作してください。
- ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ドアごとに解錠 / 施錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

### 解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

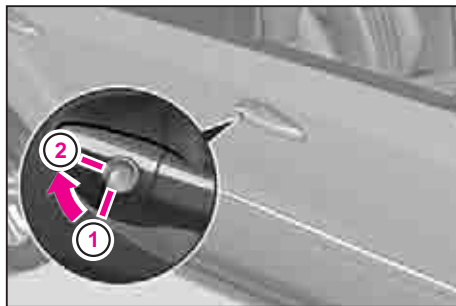
このとき、ドアも開きます。

### 施錠する

▶ ロックノブ①を押し込みます。

**注 意 !**

- 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

## エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠する

① エマージェンシーキーを抜く / 差し込む位置
② 解錠の位置

リモコン操作で車を解錠できないときは、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠できます。

**知　識**

助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

### 運転席ドアを解錠する

▶ エマージェンシーキー（3-12）を運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②にまわします。

▶ ドアハンドルをいっぱいに引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

**注　意　!**

- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。
- 盗難防止警報システム装備車では、リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

## 非常時の車の施錠

リモコン操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

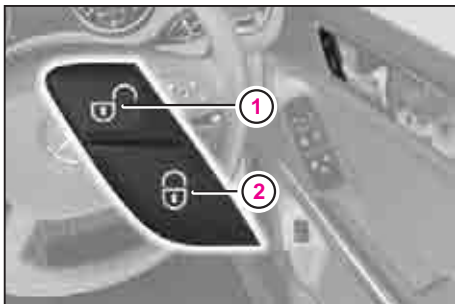
▶ すべてのドアを閉じた状態でドアロックスイッチで車を施錠します。

ドアロックスイッチが作動しないときは、すべてのドアのロックノブを押し込みます。

▶ いずれかのリアドアから車を降り、そのドアを開いた状態でドアのロックノブを押し込み、ドアを閉じます。

車が施錠されます。

**注　意　!**

- ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、車を施錠することはできません。指定サービス工場に連絡してください。
- キーの閉じ込みに注意してください。

## ドアロックスイッチ

運転席ドアのスイッチ
① 解錠スイッチ
② 施錠スイッチ

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠できます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

**解錠する**

▶ 解錠スイッチ①を押します。

**施錠する**

▶ 施錠スイッチ②を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

**注 意 !**

ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供が乗車しているときは特に注意してください。

**知 識**

- ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内のドアレバーを引いてフロントドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。
- ドアロックスイッチにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

## 車速感応ドアロック

速度が約15km/h以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

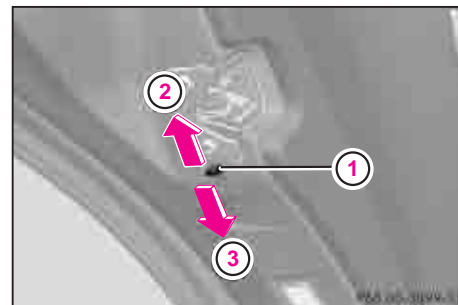
この機能の設定と解除については(4-44)をご覧ください。

**注 意 !**

- 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を移動したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

**知 識**

車速感応ドアロックにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

## チャイルドプルーフロック(リアドア)

① チャイルドプルーフロックレバー
② 解除側
③ 設定側

リアドアの車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

**チャイルドプルーフロックを設定する**

▶ チャイルドプルーフロックレバー①を設定側③(下)にします。

車内のドアレバーを引いて、ドアが開かないことを確認してください。

**チャイルドプルーフロックを解除する**

▶ チャイルドプルーフロックレバー①を解除側②(上)にします。

## テールゲート

**警　告** 

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

**注　意　！**

- テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。
- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。
- 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

  また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。
- ラゲッジルームには乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

**知　識**

- テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。
- EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが自動で開閉しているときにキーのテールゲート開閉ボタンかテールゲートクローザースイッチ、テールゲートハンドル、運転席ドアのテールゲートスイッチのいずれかを操作すると、テールゲートはその位置で停止します。

## 車外からのテールゲートの開閉

① テールゲートハンドル

### テールゲートを開く

**（EASY-PACK自動開閉テールゲート非装備車）**

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

▶ テールゲートを引き上げます。

**（EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車）**

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

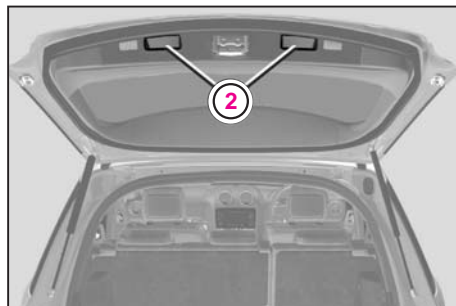
警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

または

▶ キーのテールゲート開閉ボタン（3-8）を約2秒間押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

**知　識**

- EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車では、マルチファンクションディスプレイでテールゲートの開く高さを2段階に設定できます（4-45）。
- テールゲートが自動で開いているときに障害物との接触を感知すると、テールゲートはその位置で停止します。

② 凹部

## テールゲートを閉じる

**（EASY-PACK自動開閉テールゲート非装備車）**

▶ 凹部②に手をかけてテールゲートを引き下げます。

▶ 外側からテールゲートを軽く押さえます。

クロージングサポーターが作動して、テールゲートが閉じます。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

③ テールゲートクローザースイッチ

**(EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車)**

▶ テールゲートクローザースイッチ③を押します。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

または

▶ キーのテールゲート開閉ボタン **(3-8)** を約2秒間押し続けます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

**知　識**

- テールゲートが自動で閉じているときに挟み込みを感知すると、テールゲートは停止し、その位置から少し開きます。
- 完全に停車していないときは、テールゲートクローザースイッチ③でテールゲートを閉じることはできません。

## テールゲート

### 車内からのテールゲートの開閉＊

④ テールゲートスイッチ

### テールゲートを開く

▶ テールゲートスイッチ④を引きます。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

**知　識**

- テールゲートが自動で開いているときに障害物との接触を感知すると、テールゲートはその位置で停止します。
- 完全に停車していないときは、テールゲートスイッチ④でテールゲートを開くことはできません。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

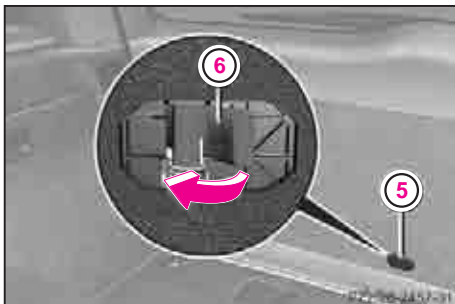
### テールゲートを閉じる

▶ テールゲートスイッチ④を押します。

警告音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

**知　識**

- テールゲートが自動で閉じているときに挟み込みを感知すると、テールゲートは停止し、その位置から少し開きます。
- 完全に停車していないときは、テールゲートスイッチ④でテールゲートを閉じることはできません。

### テールゲート裏側のレバーでの解錠

⑤ カバー
⑥ レバー

テールゲート裏側のレバーで、テールゲートを解錠して開くことができます。

**テールゲートを開く**

▶ テールゲート裏側のカバー⑤を外します。

▶ レバー⑥を矢印の方向に操作して、テールゲートを開きます。

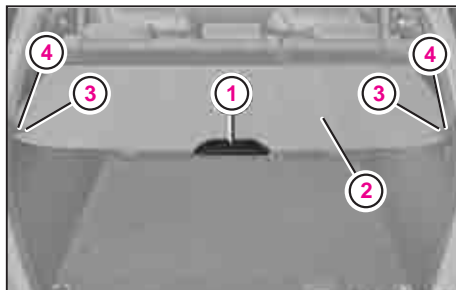
**知　識**

- レバー⑥でテールゲートを解錠しても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。
- レバー⑥で解錠した後に、テールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

**注　意　!**

- 盗難防止警報システム装備車は、リモコン操作で施錠した後に、レバー⑥でテールゲートを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。
- EASY-PACK自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートを開くときに大きな力が必要になります。テールゲートが不意に下がってきて、身体を挟まないように注意してください。

## ラゲッジルーム

### ラゲッジルームカバー

① ハンドル
② ラゲッジルームカバー
③ 固定部
④ フック

**警　告** 

荷物を積むときはラゲッジルームカバーの下に納まるようにして、荷物を確実に固定してください。急ブレーキや事故のときなどに荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

**注　意 ！**

ラゲッジルームカバーは、リアシートのバックレストを起こした状態で使用してください。

#### ラゲッジルームカバーを使用する

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバー②をリールから引き出します。

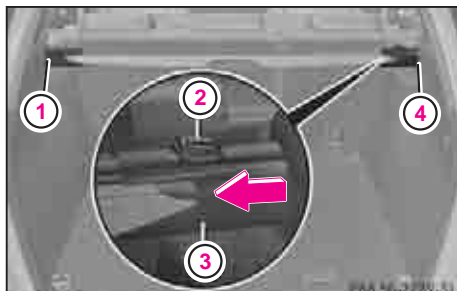
▶ いっぱいまで引き出して、左右の固定部③をフック④にかけます。

#### ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバー②を少し引きながら、左右の固定部③をフック④から外します。

▶ ラゲッジルームカバー②をゆっくり巻き取らせます。

# ラゲッジルーム

## ラゲッジルームカバー収納リール

① 左側取り付け部
② ロック解除ボタン
③ 収納リール右端部
④ 右側取り付け部

### リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーをリールに収納します。

▶ ロック解除ボタン②を押しながら、収納リール右端部③を左側にスライドさせます。

収納リール右端部③が左側に押し込まれ、収納リールの長さが短くなります。

▶ 右側取り付け部④から収納リール右端部③を取り外します。

▶ 収納リールを取り外します。

### リールを取り付ける

▶ 収納リール右端部③が左側に押し込まれていて、収納リールが短くなっていることを確認します。

収納リール右端部③が左側に押し込まれていないときは、ロック解除ボタン②を押しながら、左側に押し込みます。

▶ ロック解除ボタン②が右側および上面にくるようにします。

▶ 収納リールの左端部を左側取り付け部①に合わせます。

▶ 収納リール右端部③を右側取り付け部④に合わせ、ロック解除ボタン②を押します。

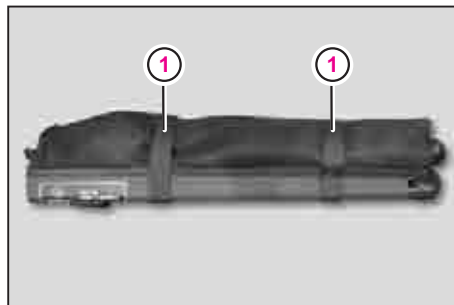
リール右端部③が右側にスライドして右側取り付け部④に固定されます。

## セーフティネット

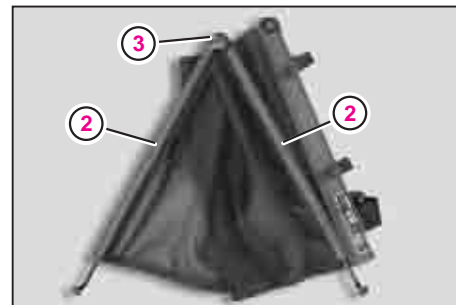
**警　告** 

セーフティネットを使用するときは、以下の点に注意してください。急ブレーキや事故のときなどに荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

- セーフティネットが確実に固定されていること
- セーフティネットに損傷がないこと

また、セーフティネットは重い荷物の移動を防ぐことはできません。重い荷物を積載するときは、確実に固定してください。

① ストラップ

### セーフティネットを展開する

▶ 2本のストラップ①を外します。

② バー
③ ロック解除ボタン

▶ バー②をロックするまで開きます。

バー②はセーフティネットの下部にもう1本あります。下部のバーもロックするまで開きます。

**知　識**

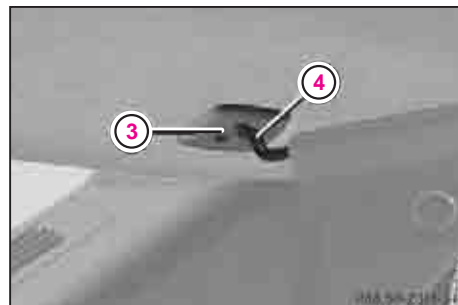
セーフティネットを収納するときは、上下のバーにあるロック解除ボタン③を押しながらバーを折りたたみます。

※ 車種や仕様により、セーフティネットの形状が異なる場合があります。

### セーフティネットの取り付け位置

① フロントシート後方の取り付け位置
② リアシート後方の取り付け位置

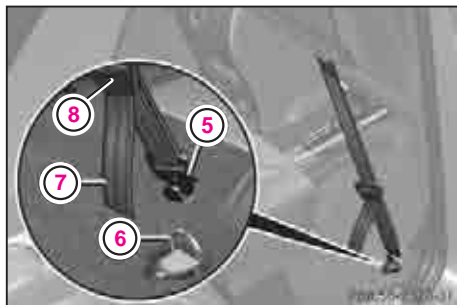
セーフティネットはフロントシートの後方①、またはリアシートの後方②に取り付けることができます。

### セーフティネットの取り付け

③ 取り付け部
④ ロッド

▶ リアシートの後方にセーフティネットを取り付けるときは、ラゲッジルームカバー収納リールを取り外します。

▶ セーフティネット下側のフック⑤およびアジャスター⑧**（3-51）**が後方を向くようにセーフティネットの上部を持ちます。

▶ セーフティネットのロッド④の片側を取り付け部③に差し込み、前方に押し込んで固定します。

▶ ロッドを押し縮めながら、もう片側の端を取り付け部③に差し込み、前方に押し込んで固定します。

フロントシート後方に取り付けるとき

⑤ フック
⑥ 荷物固定用リング
（リアシート足元）
⑦ ベルト
⑧ アジャスター

リアシート後方に取り付けるとき

⑤ フック
⑦ ベルト
⑧ アジャスター
⑨ 荷物固定用リング
（リアシート後方）

## フロントシート後方に取り付けるとき

▶ フック⑤をリアシート足元の荷物固定用リング⑥にかけます。

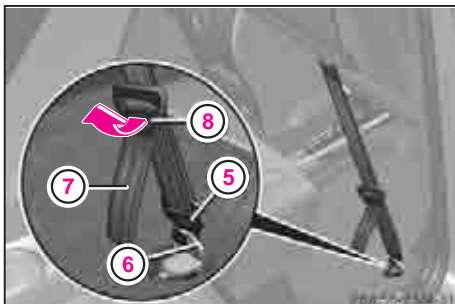
## リアシート後方に取り付けるとき

▶ フック⑤をリアシート後方の荷物固定用リング⑨にかけます。

▶ ベルト⑦の端部を下方に引きます。

▶ 少しの間走行した後に、ベルトがゆるんでいないことを確認します。

ベルトがゆるんでいるときは、ベルトの端部を引き、ベルトを締めます。

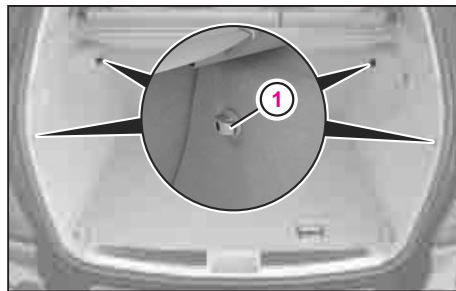
## セーフティネットの取り外し

フロントシート後方に取り付けたとき
⑤ フック
⑥ 荷物固定用リング
⑦ ベルト
⑧ アジャスター

▶ アジャスター⑧を矢印の方向に引き上げます。

ベルト⑦がゆるみます。

▶ 荷物固定用リング⑥からフック⑤を外します。

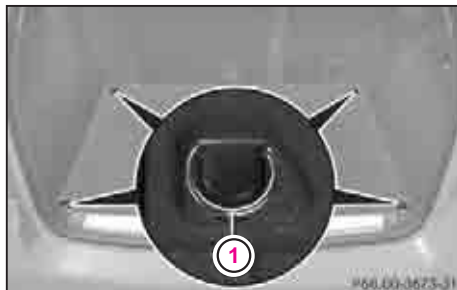
▶ ロッド④（**3-50**）を押し縮めながら、ロッドの端部を取り付け部から取り外します。

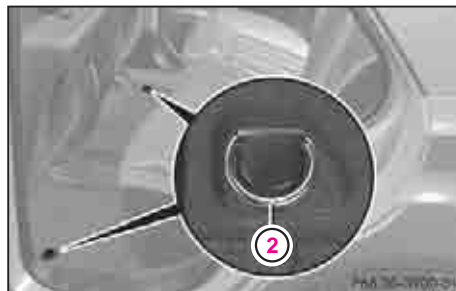
## 荷物固定用フック

① 荷物固定用フック

ラゲッジルームの左右に荷物固定用フックがあります。

**注 意 ！**

荷物固定用フックには、約4kg以上の荷物をかけないでください。フックを損傷するおそれがあります。

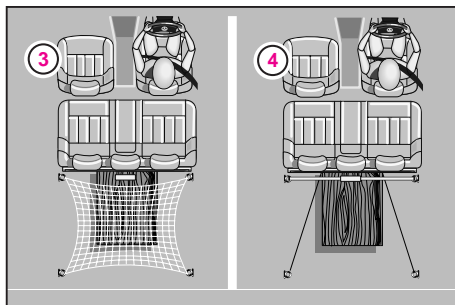
## 荷物固定用リング

① 荷物固定用リング（ラゲッジルーム内）

荷物固定用リングはラゲッジルーム内①に4個、リアシート足元②に2個あります。

② 荷物固定用リング（リアシート足元）

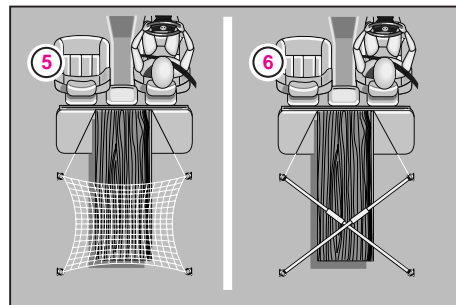
荷物固定用のアクセサリーは、ダイムラー社の推奨品の使用をおすすめします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

**注 意 !**

- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。
- 荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用し、荷物固定用リングに通して確実に結んでください。
- 締め付けストラップを使用する場合は、荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。

## 荷物固定の例

リアシートを使用できる状態

③ ネットを使用して荷物を固定

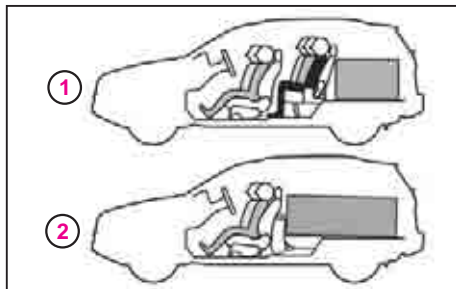
④ 締め付けストラップとロープを使用して荷物を固定

リアシートを折りたたんだ状態

⑤ ネットとロープを使用して荷物を固定

⑥ 締め付けストラップを交差させ、ロープを使用して荷物を固定

**注 意 ！**

- 伸縮性のあるロープやネットを使用しないでください。重い荷物を固定することができず、事故のとき、けがをするおそれがあります。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 締め付けストラップは、荷物の上で交差するようにしてください。

## ラゲッジルームに荷物を積むとき

① リアシートを使用して荷物を積んだ状態
② リアシートを折りたたんで荷物を積んだ状態

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- ラゲッジルームには極端に重い荷物を積載しないでください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルーム前部）に確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物はラゲッジルームに積み、リアバックレストまたは前方に倒したリアシートクッションに接するようにしてください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- ラゲッジルームに荷物を積むときはラゲッジルーム左右のウインドウより下の位置、またはラゲッジルームカバーより下の位置に積んでください。

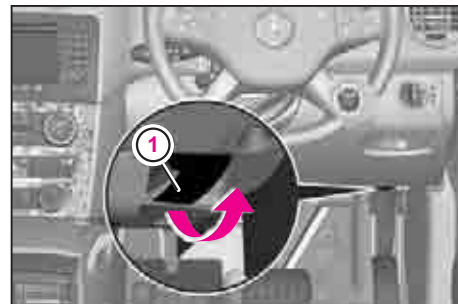
## リアシートに乗員がいないとき

リアシートに乗員がいないときは、荷物が前方に放り出されるのを防ぐため、上図のようにシートベルトを交差させて、シートベルトのプレートを反対側のバックルに差し込んでください。

## ボンネット

**警　告** 

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

## ボンネットを開く

① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席足元にあるボンネットロック解除レバー①を引きます。

② ロック解除ノブ

▶ ラジエターグリルの上方にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に引き上げながらボンネットを開きます。

**注 意 !**

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

  また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

## ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、ラジエターグリル上部から約20cm～30cm上方の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。



**警 告** 

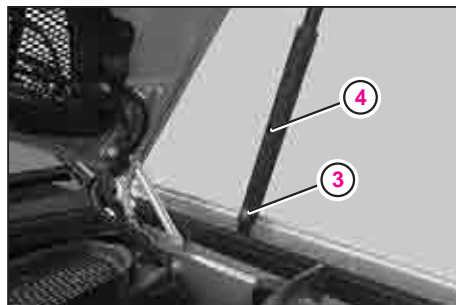
走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

**注　意　！**

- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。
- ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

**知　識**

ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

## ボンネットを垂直に開く

③ ロックボタン
④ 支柱上部のロックボタンの位置

### 垂直位置まで開く

▶ 左側支柱の下部にあるロックボタン③を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロックボタン③が支柱上部に移動し、ロックされます。

### 垂直位置から閉じる

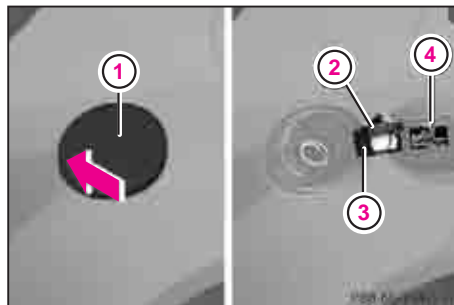
▶ 支柱上部に移動したロックボタン④を押しながら、ボンネットを閉じます。

**知　識**

垂直に開いたボンネットは、支柱上部に移動したロックボタン④を押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

一度、垂直に開き、ロックボタンを押しながら閉じてください。

## 燃料給油口

① 燃料給油フラップ

① 燃料給油フラップ
② 取り外したキャップ
③ ホルダー
④ タイヤ空気圧ラベル

### 燃料給油フラップを開く

▶ エンジンを停止します。

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の部分を押します。

### キャップを取り外す

▶ キャップを反時計回りにまわします。

▶ キャップを給油口から取り外します。

取り外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー③に差し込みます。

### キャップを取り付ける

▶ キャップを給油口に合わせます。

▶ キャップをカチカチッという音がして空回りするまで、時計回りにまわします。

### 燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

## 燃料給油口

**知　識**

- 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル④が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（8-18）をご覧ください。
- リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して、燃料給油フラップも解錠 / 施錠されます。

**警　告** 

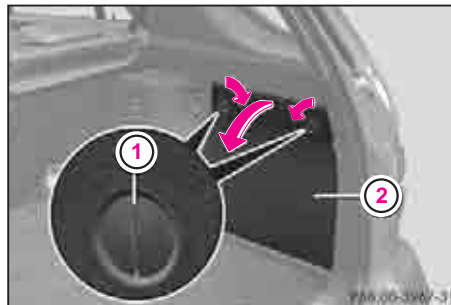
- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 燃料を肌に付着させたり、気化した燃料を吸い込まないようにしてください。健康を害するおそれがあります。

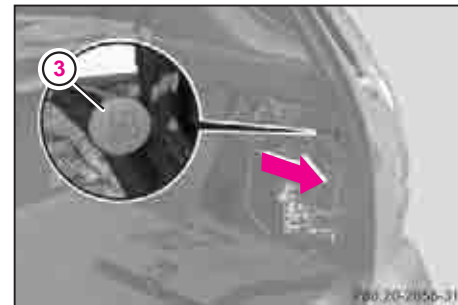
**注　意　！**

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎると、燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。

  燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

## 燃料給油フラップが開かないとき

リモコン操作で解錠しても燃料給油フラップのロックが解除されないときは、手動でロックを解除します。

① クリップ
② カバー

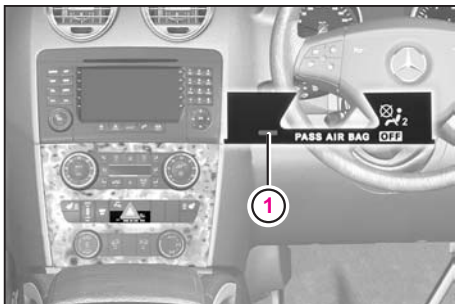
▶ ラゲッジルーム右側のカバー②にある2カ所のクリップ①をコインなどで矢印の方向にまわし、カバー②を取り外します。

③ ノブ

▶ 内部にあるノブ③を後方に引きます。

ロックが解除されます。

**注　意　！**

内部には金属が露出している部分があります。必ず手袋を着用して作業を行なってください。

## 盗難防止警報システム＊

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに、ドアやテールゲートが開けられたりボンネットのロックが解除されると警報が作動します。

### システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で施錠します。

表示灯①が点滅し、約10秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

### システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

表示灯①が消灯します。

**知　識**

リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、警報が作動します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**注　意　！**

- システムを待機状態にするときはボンネットが完全に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしたときは、ボンネットが開けられても警報は作動しません。
- 待機状態のときに車内のレバーを引いてドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- 待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

### 警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

警報が作動すると、サイレンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで約5分間点滅します。また、ルームランプや読書灯なども約5分間点灯します。

バッテリーの接続が絶たれたときも、警報が作動します。

### 警報が作動したときの解除方法

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

**知　識**

ドアやテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

# 盗難防止警報システム

## けん引防止警報機能＊

盗難防止警報システムが待機状態のとき、車が傾いたことを検知すると、けん引防止警報機能が働き、サイレンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。

### けん引防止警報機能を待機状態にする

▶ リモコン操作で施錠します。

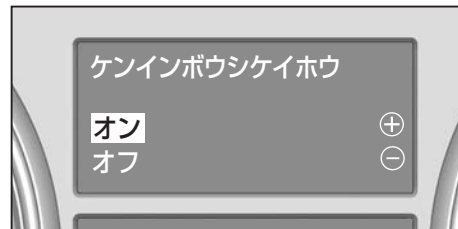
約30秒後にけん引防止警報機能が待機状態になります。

### 警報が作動したときの解除方法

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

## けん引防止警報機能の解除

車を立体駐車場に入れたり、カーフェリーや車両運搬車に乗せて移動するときは、けん引防止警報機能が作動することがあります。

そのようなときは、けん引防止警報機能を解除してください。

けん引防止警報機能設定画面

### けん引防止警報機能を解除する

▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにけん引防止警報機能設定画面を表示させます（4-51）。

▶ － を押し、オフを選択します。

けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作で車を施錠します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

または

▶ エンジンスイッチを1か2の位置にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにエンジン停止時の表示設定画面を表示させます（4-42）。

▶ ＋ を押し、"ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ"を選択します。

▶ エンジンスイッチを0の位置にするか、キーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾝ" と表示されます。

"ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ" と表示されたときは、けん引防止警報機能が解除されています。そのまま、リモコン操作で施錠してください。

▶ ステアリングの ＋ または － を押します。

マルチファンクションディスプレイに"ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ"と表示され、けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作で施錠します。

**注 意 ！**

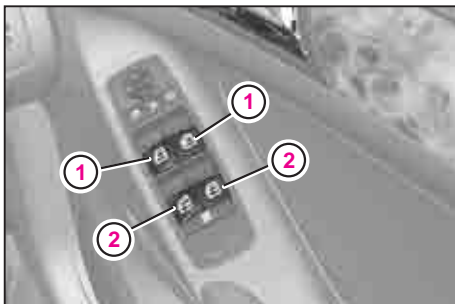
けん引防止警報機能を解除したときは、必ずマルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ" と表示されたことを確認してください。

**知 識**

- けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。
- 次にリモコン操作で施錠するまで、けん引防止警報機能は解除されたままになります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## パワーウインドウ

### ドアウインドウの開閉

① フロントドアウインドウスイッチ
② リアドアウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、ドアウインドウを開閉できます。

**ドアウインドウを開く**

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

**ドアウインドウを閉じる**

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

**知　識**

- ドアウインドウはリモコン操作で開閉できます（**3-13、14**）。
- ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、ドアウインドウを開閉することができます。5分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。
- ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。ドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- 運転席ドアのドアウインドウは、挟み込み防止機能が作動してから約5秒以内に再度閉じたときは、挟み込みを感知しません。
- ドアウインドウが開いているときにPRE-SAFE（**2-10**）が車両の横滑りを感知すると、ドアウインドウが少し開いた位置まで自動的に閉じます。
- 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席やリアドアのスイッチでドアウインドウを操作することはできません。

**注　意　！**

- ドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームのすき間に身体が挟まれてけがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを押して、ドアウインドウを開いてください。
- 挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。ドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。
- 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウやスライディングルーフ＊が完全に閉じていることを確認してください。

3

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### セーフティスイッチ

① セーフティスイッチ

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウ操作ができなくなります。

子供がリアシートに乗車するときなどに使用してください。

#### セーフティスイッチを設定する

▶ セーフティスイッチ①を押して、押された状態にします。

リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。

#### セーフティスイッチを解除する

▶ セーフティスイッチ①を押して、押されていない状態にします。

**知 識**

セーフティスイッチの設定 / 解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

### ドアウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたときは、ドアウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。

このときは、ドアウインドウをリセットしてください。

#### ドアウインドウをリセットする

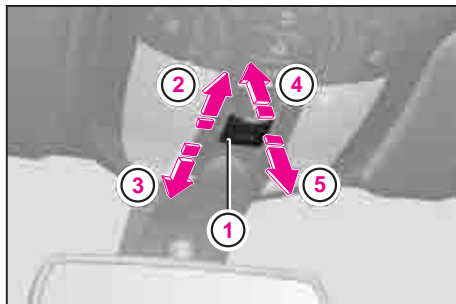
▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま2秒以上保持してください。

▶ この操作を他のドアウインドウでも行ないます。

再び、ドアウインドウが自動で開閉できるようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

## スライディングルーフ＊

① スライディングルーフスイッチ
② 開く
③ 閉じる / チルトダウン
④ チルトアップ
⑤ 閉じる / チルトダウン

## スライディングルーフを開閉する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに操作できます。

### スライディングルーフを開く

▶ スライディングルーフスイッチ①を②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェードが閉じている場合は連動して開きます。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

### スライディングルーフを閉じる

▶ スライディングルーフスイッチ①を③または⑤の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

③または⑤の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

## スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

エンジンスイッチが1か2の位置のときに操作できます。

### スライディングルーフをチルトアップする

▶ スライディングルーフスイッチ①を④の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

④の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

### スライディングルーフをチルトダウンする

▶ スライディングルーフスイッチ①を③または⑤の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

③または⑤の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## スライディングルーフ

**警　告** 

乗員全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。

**注　意　!**

- 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときやチルトダウンするときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。
- スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- スライディングルーフの開口部から、角の尖った物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。
- 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。
- スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

**知 識**

- スライディングルーフはリモコン操作で開閉できます（3-13、14）。
- スライディングルーフが自動で開閉またはチルトアップ / チルトダウンしているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。スライディングルーフが自動で閉じているときやチルトダウンしているときに挟み込みなどの抵抗があると、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。
- スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、スライディングルーフを操作できます。約5分以内にフロントドアを開くと、スライディングルーフの操作はできなくなります。
- スライディングルーフが開いているときにPRE-SAFE（2-10）が車の横滑りを感知すると、スライディングルーフが少し開いた位置まで自動的に閉じます。
- スライディングルーフが開閉できないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

### 自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

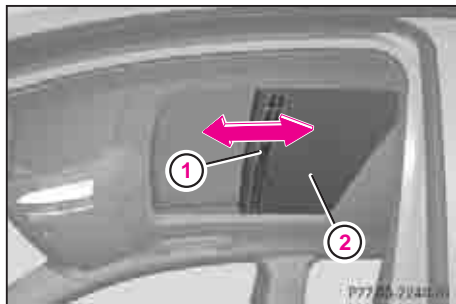
- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約12時間経過したとき

**注　意　！**

- 自動チルトアップ機能で閉じているスライディングルーフには、挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。
- 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じることがあります。

**知　識**

- レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は作動しません。
- 自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が働き、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。その後自動チルトアップ機能は解除されます。
- 自動チルトアップ機能は、エンジンスイッチが1か2の位置のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは作動しません。
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5秒間は、自動チルトアップ機能は作動しません。

## サンシェード

① グリップ
② サンシェード

### サンシェードを開閉する

▶ グリップ①を持って開閉します。

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

**注 意 !**

スライディングルーフが開いているときに、サンシェード②とルーフ内張りの間に身体が挟まれないように注意してください。

**知 識**

スライディングルーフが開いているときは、サンシェード②を閉じることはできません。

## スライディングルーフ

### スライディングルーフのリセット

以下のときは、スライディングルーフが自動で全開しないことがあります。スライディングルーフのリセットを行なってください。

- バッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたとき
- スライディングルーフがスムーズに作動しないとき
- スライディングルーフを修理したとき

**スライディングルーフをリセットする**

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ スライディングルーフスイッチを④の方向**（3-69）**に押してチルトアップし、そのまま約2秒以上押し続けます。

▶ スライディングルーフを操作して、自動で全開することを確認します。

スライディングルーフが自動で全開しないときは、再度リセット操作を行なってください。

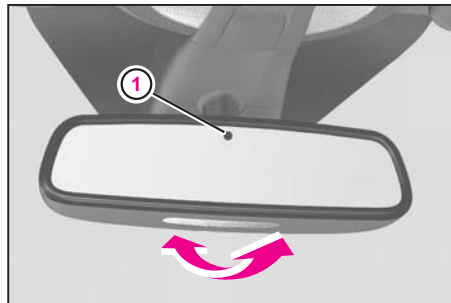
**知　識**

スライディングルーフのリセットができないときなどは、指定サービス工場で作業を行なってください。

## ルームミラー

**警　告** 

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

## ルームミラーの調整

① センサー

### ルームミラーを調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

**注　意　!**

ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、必ず肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

## ルームミラー

### 自動防眩機能

周囲が暗く、エンジンスイッチが1か2の位置のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

**知 識**

- ルームミラーのセンサー①に後方からのライトが当たらないときは、自動防眩機能は作動しないことがあります。
- シフトポジションがRのときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。
- ルームミラーと連動して運転席側のドアミラーも防眩になります。

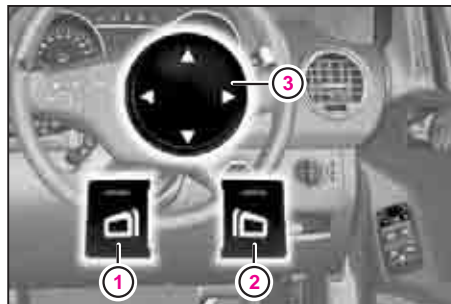
**注 意 !**

- ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、目や皮膚に直接触れないよう注意してください。
- 万一、液体が目に入ったときや皮膚に付いたときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- ルームミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーが変色するおそれがあります。
- セーフティネットを使用しているときなど、ルームミラーのセンサーが後続車のライトに照射されないときは、自動防眩機能は作動しません。十分注意して走行してください。

## ドアミラー

警　告 

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

## ドアミラーの角度調整

① 助手席側ドアミラー選択ボタン
② 運転席側ドアミラー選択ボタン
③ ドアミラー調整スイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

**ドアミラーの角度を調整する**

▶ 調整したい側のドアミラー選択ボタン①または②を押します。

ボタンの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択ボタンの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ③を操作してドアミラーの角度を調整します。

## ドアミラー

**注 意 !**

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、必ず肩ごしに直接斜め後方を確認してください。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
- ドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ドアミラーが変色するおそれがあります。

**知 識**

- ドアミラーにはヒーターが装着されています。リアデフォッガー（**6-14、30**）を作動させたときや外気温度が下がったときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- 車種や仕様により、ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（**3-27**）。
- 運転席側ドアミラーは、ルームミラーに連動して防眩になります（**3-76**）。
- ドアミラーの角度を調整しないまま約15秒経過すると、ドアミラー選択ボタンの表示灯は消灯します。

### 助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能＊

シフトポジションを R にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にすることができます。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

**ドアミラーを記憶させていた角度にする**

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン①を押します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- シフトポジションを R から他の位置にして約10秒経過したとき
- 走行速度が約10km/h以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタン②を押したとき

**知 識**

- 運転席側ドアミラー選択ボタン②が押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。
- パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択ボタンの表示灯が点灯したままになります。

### 助手席側ドアミラーの角度の記憶

▶ パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン①を押します。

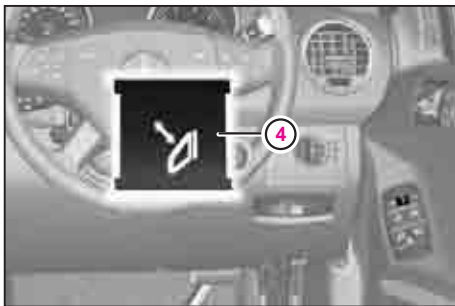
▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチ③で、助手席側ドアミラーを後退時に後方が確認しやすい角度に調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

## ドアミラー

### ドアミラーの格納 / 展開

④ 格納 / 展開スイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

**ドアミラーを格納する**

▶ 格納 / 展開スイッチ④を押します。

**ドアミラーを展開する**

▶ 再度、格納 / 展開スイッチ④を押します。

**注 意 !**

- ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行するときはドアミラーを展開してください。
- ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

**知 識**

- リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。詳しくは（3-11）をご覧ください。
- エンジンを停止して停車しているときに、歩行者などが当たりドアミラーがわずかに曲がった場合、次にエンジンを始動し、速度が約45km/h以上になると、ドアミラーが走行時の位置に戻ります。完全に戻らないときは、格納 / 展開スイッチを押して戻してください。

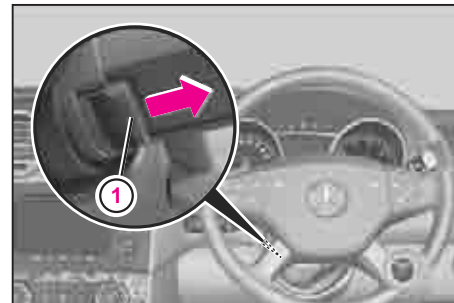
## ステアリング

**警　告** 

- ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、事故を起こすおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

**注　意　!**

- ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

## ステアリングの調整（手動式）

① ロック解除ハンドル

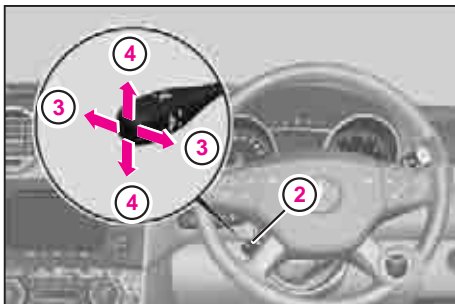
### ステアリング位置を調整する

▶ ステアリングコラム下部のロック解除ハンドル①を手前に引きます。

▶ ステアリングを前後上下に動かして正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル①を前方に押してロックします。

調整後は、ステアリングが確実にロックしていることを確認してください。

## ステアリングの調整（電動式）

② ステアリング調整レバー
③ 前後位置の調整
④ 上下位置の調整

### 前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー②を③の方向に操作します。

### 上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー④を④の方向に操作します。

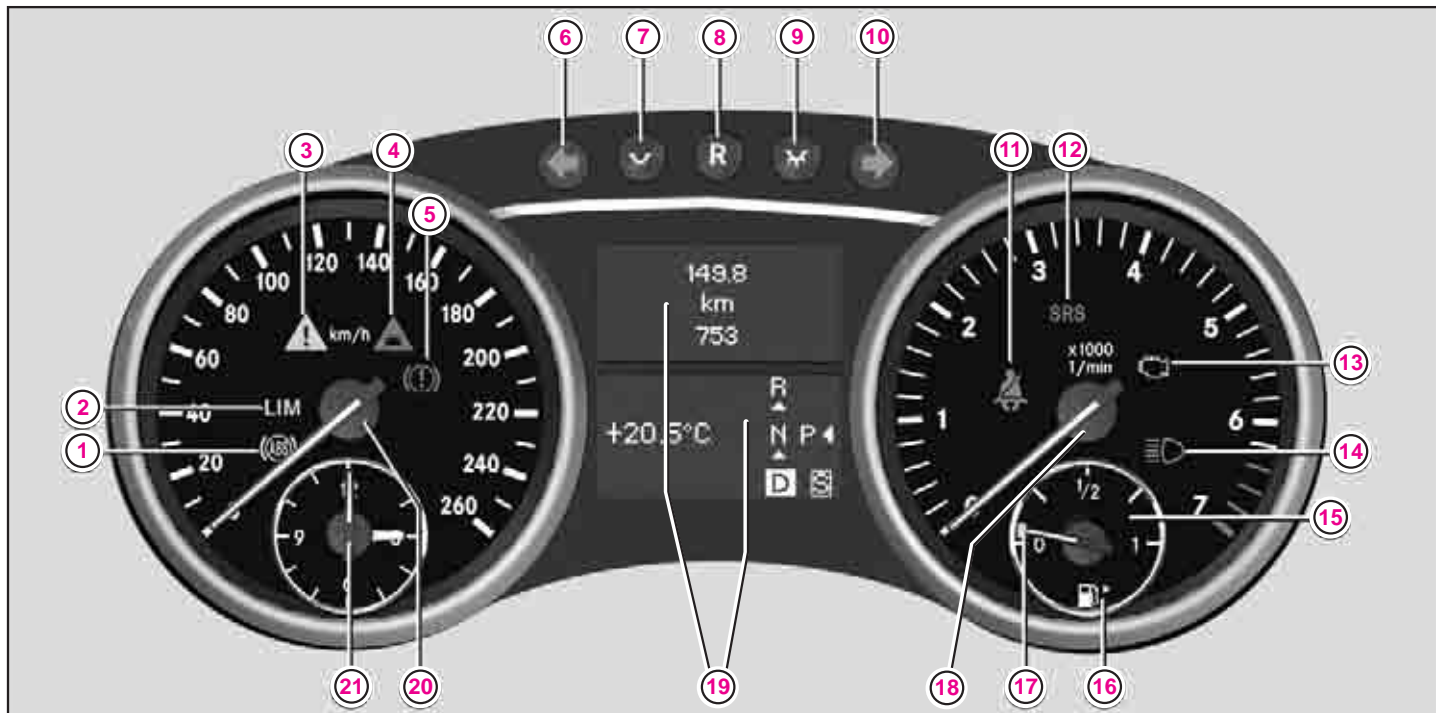
### 知　識

車種や仕様により、ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶（3-27）させることができます。

### 警　告

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバー②を操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。

## メーターパネル

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
LIM
km/h
149.8
km
753
+20.5°C
R
N
P
D
S
SRS
x1000
1/min

### ① ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときはABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、BAS、ESPは作動しません。

詳しくは**（5-40）**をご覧ください。

**注　意　！**

ABS警告灯が点灯したときはBAS、ESPも作動を停止します。指定サービス工場で点検を受けてください。

### ② 可変スピードリミッター表示灯 LIM

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

可変スピードリミッターを作動させたときに点灯します。

詳しくは**（5-97）**をご覧ください。

### ③ ESP / ETS表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

ESPの機能を解除したときに点灯します。

また、ESPまたはETSが作動したときに点滅します。

詳しくは **(5-43、45)** をご覧ください。

**知　識**

ESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP / ETS表示灯が点滅しますがESPは作動しません。ただし、このときにブレーキを効かせるとESPは自動的に作動します。

### ④

この表示灯 / 警告灯は、他の表示灯 / 警告灯と同様に点灯しますが、日本仕様車には該当しない装備のため、表示灯 / 警告灯としては機能しません。

### ⑤ ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

以下のようなときに点灯します。

- ブレーキ液の量が不足しているとき
- パーキングブレーキを解除していないとき（エンジンスイッチを**1**の位置にしたときも点灯します）

**注　意　！**

- ブレーキ液の量が不足して点灯したときはブレーキシステムに漏れがあることが考えられます。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

### ⑥ ⑩ 方向指示表示灯

方向指示灯や非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

詳しくは **(5-29、30)**をご覧ください。

### ⑦ ⑨ メーター照度調節ボタン

点灯しているメーターの明るさを調整できます。

ボタン⑨を押すと明るくなり、ボタン⑦を押すと暗くなります。

### ⑧ リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

### ⑪ シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯が故障しています。

詳しくは **(2-7)** をご覧ください。

### ⑫ エアバッグシステム警告灯

SRS

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときは警告灯が故障しています。

点灯後 / エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席乗員検知機能の故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは **(2-12)** をご覧ください。

### ⑬ エンジン警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

**知　識**

燃料切れによりエンジン警告灯が点灯したときは、燃料を補給した後にエンジン始動を3～4回繰り返すと、エマージェンシーモードが解除されます。

### ⑭ ハイビーム表示灯

ヘッドランプを上向きで点灯させたときに点灯します。

### ⑮ 燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約95リットルです。

**注 意 ！**

給油のときはエンジンを停止してください。

### ⑯ 燃料給油口位置表示

燃料給油口の位置を表示しています。

燃料給油口の位置は、車体後部右側にあります。

### ⑰ 燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約13リットル（ML 63 AMGは約15リットル）です。

**知 識**

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

### ⑱ タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

### ⑲ マルチファンクションディスプレイ

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約30秒後に消灯）
- リセットボタンを押したとき（約30秒後に消灯）
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき
- 車外ランプが点灯したとき

詳しくは **（4-1～）** をご覧ください。

### ⑳ スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、マイル表示にするとkm/h表示に比べ、同じ数字でも約1.6倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐためkm/h表示にしてください。

表示の切り替えについては**（4-33）**をご覧ください。

**知　識**

- 1mphは約1.6km/hです。
- マイル表示を選択すると、トリップメーターなどの表示もマイル表示になります。

### ㉑ 時計

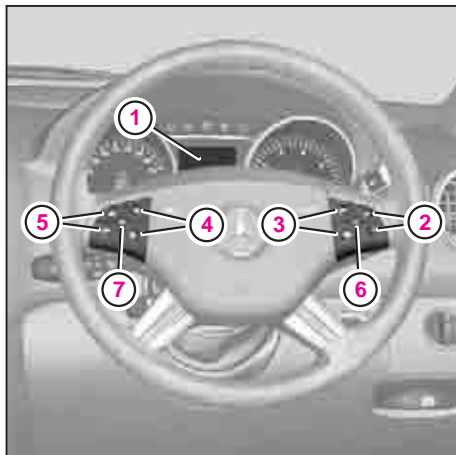
時刻は、マルチファンクションコントローラーに連動して自動的に調整されます。

時刻を調整することはできません。

# ステアリングスイッチ

## ステアリングスイッチ

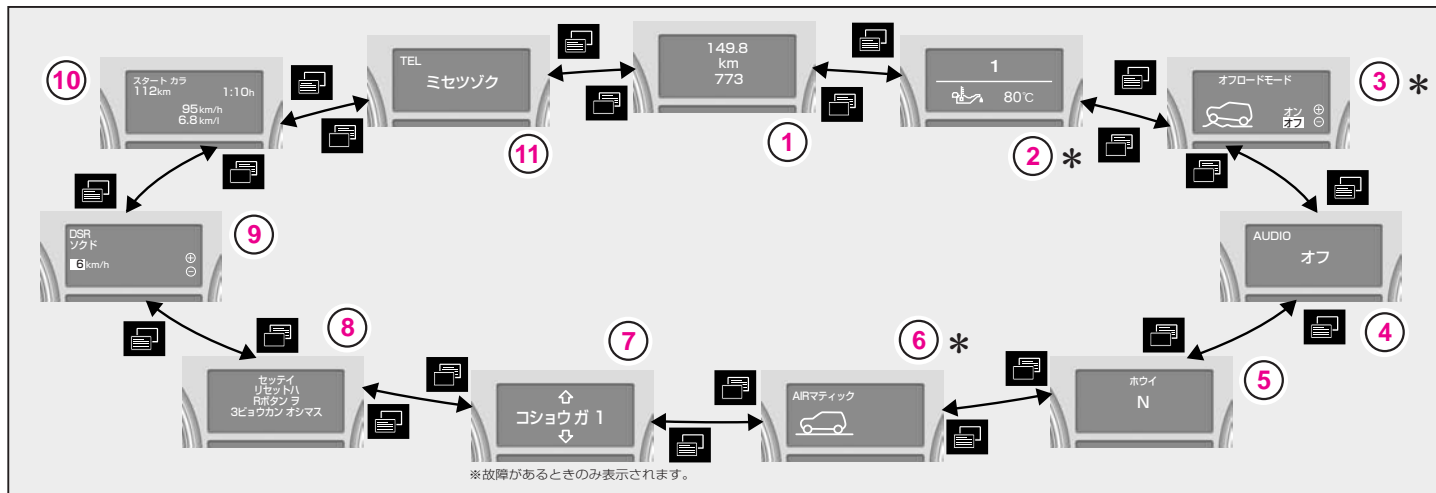
| | 名　称 |
|---|---|
| ① | マルチファンクション<br>ディスプレイ |
| ② | 設定スイッチ / 音量スイッチ<br>＋ － 各種設定の設定グループ選択画面でグループを選択したり、設定項目画面で機能のオン / オフを選択します。<br>各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。<br>ML 63 AMGでは、レースタイマーが操作できます(4-19)。 |
| ③ | 通話開始 / 終了スイッチ(電話)<br>電話を受信 / 切断できます。 |
| ④ | スクロールスイッチ<br>選択したメイン画面内の各画面を切り替えます。 |
| ⑤ | 表示切り替えスイッチ<br>メイン画面を選択します。 |
| ⑥ | ボイスコントロールボタン |
| ⑦ | ボイスコントロール解除ボタン<br>OFF |

**警　告** 

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

**注　意 !**

走行中にステアリングのスイッチやボタンを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※ 電話とボイスコントロールの操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

## メイン画面一覧

マルチファンクションディスプレイは、車両に関する各種情報や故障 / 警告メッセージなどを表示するシステムです。

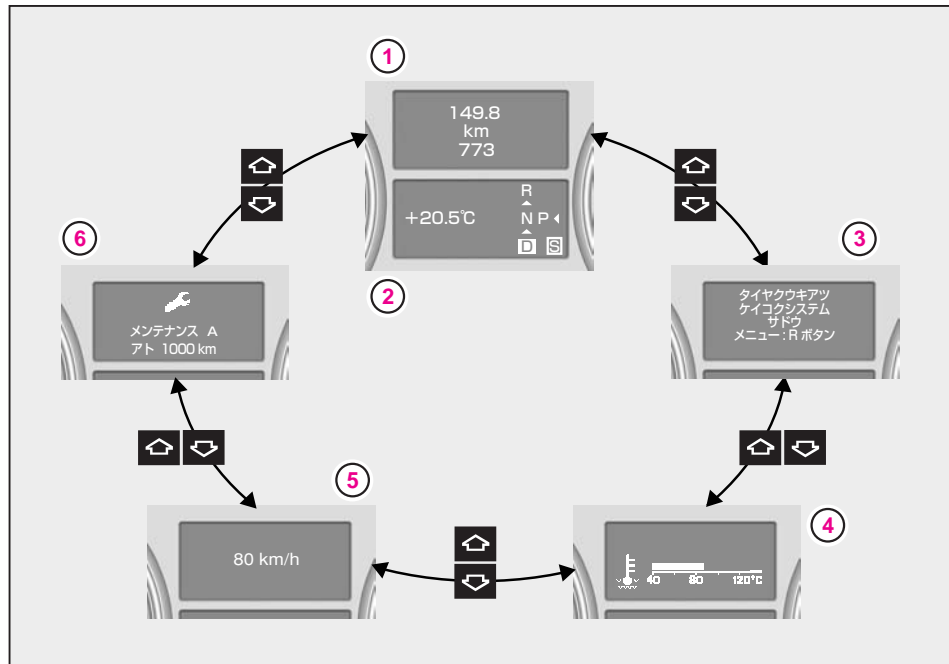
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに表示できます。

| | | |
|---|---|---|
| ① | 車両情報 | 4-4 |
| ② | AMG表示＊ | 4-16 |
| ③ | オフロードモード設定＊ | 4-24 |
| ④ | オーディオ | 4-25 |
| ⑤ | ナビゲーション・進行方向方位表示 | 4-25 |

| | | |
|---|---|---|
| ⑥ | 車高レベル / オフロード表示＊ | 4-26 |
| ⑦ | 故障表示 | 4-27 |
| ⑧ | 各種設定 | 4-29 |
| ⑨ | 車両設定 | 4-49 |
| ⑩ | トリップコンピューター | 4-52 |
| ⑪ | 電話 | 4-56 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

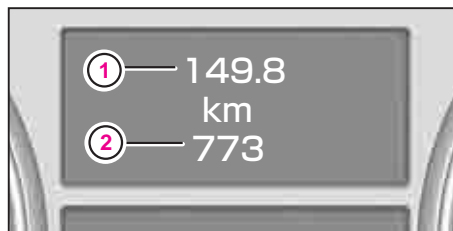
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 車両情報

| | | |
|---|---|---|
| ① | 車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター） | 4-5 |
| ② | 車両情報サブ画面（外気温度表示 / サブスピードメーター / 可変スピードリミッター設定速度表示 / DSRの設定速度表示 / DSRインジケーター / オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター＊ / ローレンジマーク＊ / シフトポジション表示 / ギアレンジ表示 / ギア表示＊ / 走行モード表示＊） | 4-6 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

| | | |
|---|---|---|
| ③ | タイヤ空気圧警告システム画面 | 4-8 |
| ④ | 冷却水温度画面 | 4-11 |
| ⑤ | サブスピードメーター / 外気温度表示画面 | 4-12 |
| ⑥ | メンテナンスインジケーター画面 | 4-13 |

## 車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

### 車両情報メイン画面を表示させる

▶ ■または■を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

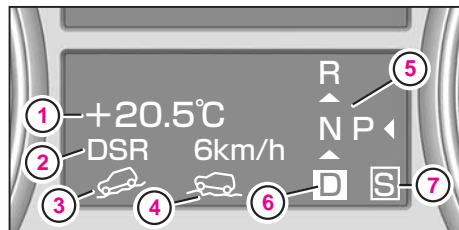
| | | |
|---|---|---|
| ① | トリップメーター | リセット後の走行距離を表示します。 |
| ② | オドメーター | これまでに走行した距離の総合計を表示します。 |

### トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン（3-86）を、表示が0.0になるまで押し続けます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## 車両情報

### 車両情報サブ画面

| | | |
|---|---|---|
| ① | 外気温度表示 / サブスピードメーター | 外気温度または走行速度を表示します。<br>表示の切り替えは各種設定の "インストルメントクラスタ" の "車両情報サブ画面の表示設定画面" **(4-35)** で行ないます。 |
| ② | 可変スピードリミッター / DSRの設定速度表示 | 可変スピードリミッター **(5-95)** または DSR **(5-59)** で設定した速度を表示します。 |
| ③ | DSRインジケーター | DSR **(5-59)** を作動させたときに表示されます。 |
| ④ | オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター＊ / ローレンジマーク＊ | オフロード・ドライブ・プログラム **(5-65)** またはローレンジモード **(5-83)** に設定したときに表示されます。 |

**警　告** 

温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

**注　意 !**

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

**知　識**

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

| | | |
|---|---|---|
| ⑤ | シフトポジション表示 | オートマチックトランスミッションのシフトポジションを表示します。<br>選択しているシフトポジションは反転表示されます（5-8）。 |
| ⑥ | ギアレンジ表示<br>ギア表示＊ | ティップシフトのときに選択しているギアレンジを表示します（5-11）。<br>マニュアルギアシフト＊のときに選択しているギアを表示します（5-14）。 |
| ⑦ | 走行モード表示＊ | オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（5-9）。 |



※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### タイヤ空気圧警告システム画面

4輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- ルーフに荷物を積んでいたり、重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約20km/h以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

**警　告** 

- 空気の入れすぎなど、まちがったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

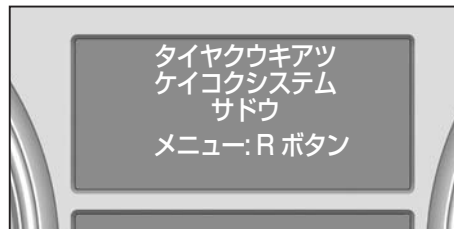
### タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（8-18）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

**警　告** 

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

▶ またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます（4-5）。

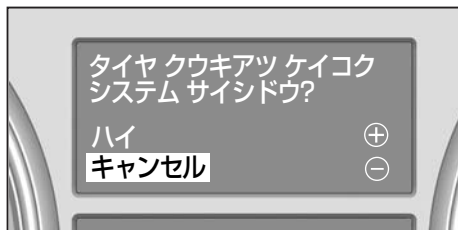
▶ またはを押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

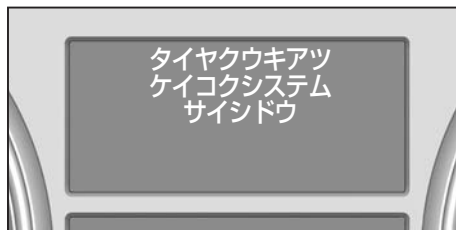
"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ: R ﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

▶ リセットボタン（3-86）を押します。

**知　識**

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｻﾄﾞｳ"と表示されたときは、エンジンスイッチを2の位置にしてください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?" と表示されます。

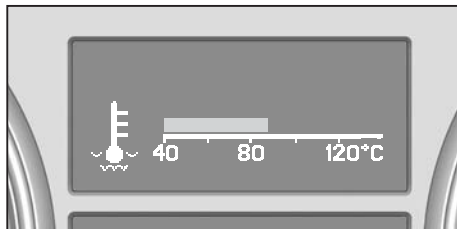
▶ ＋ を押して、"ハイ" を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

**知　識**

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?" と表示されてから約15秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## 冷却水温度画面

エンジンスイッチが**2**の位置のとき、エンジンの冷却水温度を表示します。

### 冷却水温度画面を表示させる

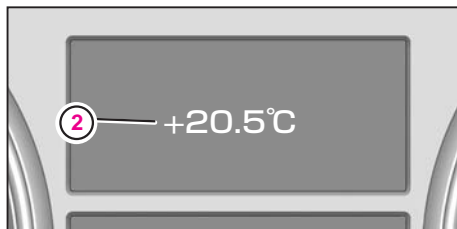
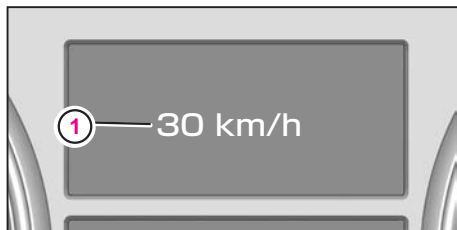
▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [▲]または[▼]を押して、冷却水温度画面を表示させます。

### 知 識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約120℃まではオーバーヒートは起こしません。
- 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が右端付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（**10-12**）が表示されない限り、問題ありません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### サブスピードメーター / 外気温度表示画面

① サブスピードメーター
② 外気温度表示

走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "インストルメントクラスタ" の "車両情報サブ画面の表示設定画面"（**4-35**）で行ないます。

### サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させる

▶ 〔ボタン〕または〔ボタン〕を押して、車両情報メイン画面を表示させます（**4-5**）。

▶ 〔▲〕または〔▼〕を押して、サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させます。

**知 識**

サブスピードメーターの表示単位をkm/hまたはmphに切り替えることができます（**4-34**）。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

### 自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約1カ月前になると、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタン（**3-86**）を押します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

**手動で表示させる**

▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [▲]または[▼]を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

## 表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。#にはAからHまでのアルファベットが入ります。

**点検実施前の表示例**

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

**点検実施時期になったときの表示例**

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｼﾞｯｺｳ ｼﾏｽ!"

**実施時期を過ぎたときの表示例**

実施時期を過ぎたときは、以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ"

**注 意 !**

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

**知 識**

- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ" の後に表示されるAからHのアルファベットは、次回のメーカー指定点検の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。
- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A＋" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B＋" など、AからHのアルファベットの後に[＋]の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。
- ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

  ◇今回のメーカー指定点検整備で交換する

  ◇後日に別途交換する
- メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

  エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次回のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

### メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

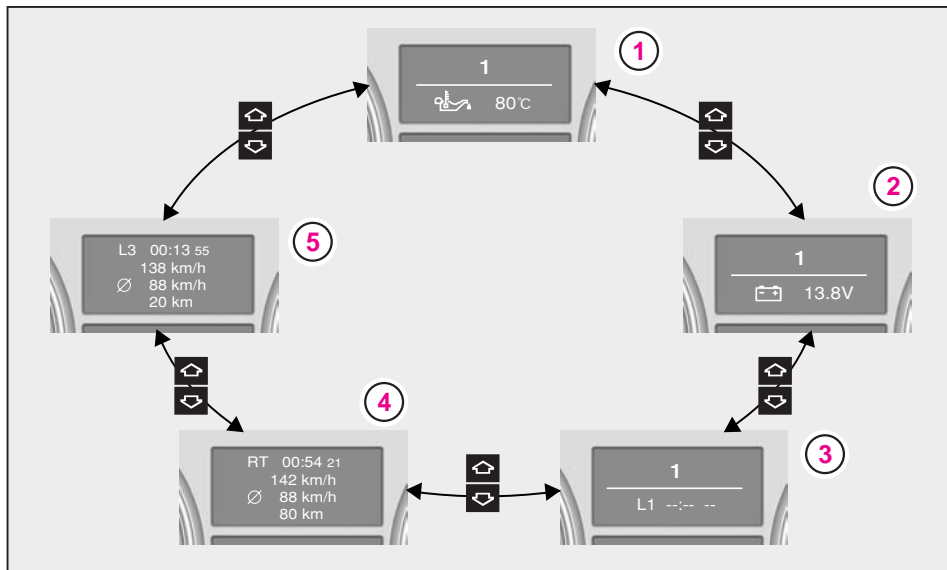
**注 意 ！**

メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。



※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

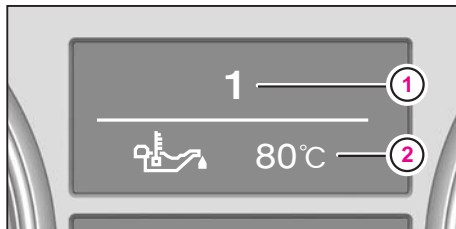
# AMG表示

## AMG表示＊

| | | |
|---|---|---|
| ① | ギア表示・油温表示画面 | 4-17 |
| ② | ギア表示・電圧表示画面 | 4-18 |
| ③ | ギア表示・レースタイマー画面 | 4-19 |
| ④ | 計測結果表示画面（全ラップ） | 4-22 |
| ⑤ | 計測結果表示画面（ラップ別） | 4-23 |

※ AMG表示は、ML 63 AMGのみ表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### ギア表示・油温表示画面

① ギア表示
② 油温表示

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

エンジンがかかっていて、シフトポジションが D のときに表示されます。

油温表示②は、エンジンオイルの油温を表示します。

**ギア表示・油温表示画面を表示させる**

▶ またはを押して、ギア表示・油温表示画面を表示させせます。

**注 意 !**

油温表示画面のマークが点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約80℃未満になっています）。このときはエンジン回転数を必要以上に上げないように運転してください。

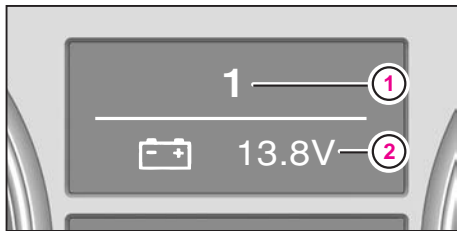
**知 識**

- エンジンスイッチを1の位置から2の位置にしたとき、油温表示画面が実際と異なる油温を瞬間的に表示することがありますが、異常ではありません。
- エンジンスイッチが1の位置のときは、油温表示画面は表示されません。このときは "−−−℃" が表示されます。



※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

# AMG表示

## ギア表示・電圧表示画面

① ギア表示
② 電圧表示

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

エンジンがかかっていて、シフトポジションがDのときに表示されます。

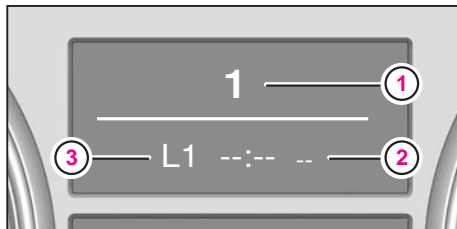
電圧表示②は、バッテリーの電圧を表示します。

**ギア表示・電圧表示画面を表示させる**

▶ またはを押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます(4-17)。

▶ またはを押して、ギア表示・電圧表示画面を表示させます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## ギア表示・レースタイマー画面

① ギア表示
② 計測タイム
③ ラップ表示

ギア表示・レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

レースタイマーは、エンジンスイッチが**2**の位置のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

### ギア表示・レースタイマー画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます**(4-17)**。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ギア表示・レースタイマー画面を表示させます。



**知 識**

- 計測タイムは1秒単位で表示されます。
- ギア表示・レースタイマー画面を表示させているときは、[+]または[−]を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### タイム計測を開始する

▶ ＋を押します。

タイム計測が開始されます。

### タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に＋を押します。

タイム計測が停止します。

**知 識**

- タイム計測を停止しているときに＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。
- タイム計測中に、停車してエンジンスイッチを1の位置にすると、タイム計測が停止します。

  その後、エンジンスイッチを2の位置にするかエンジンを始動して＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

### スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に－を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

約5秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

**知 識**

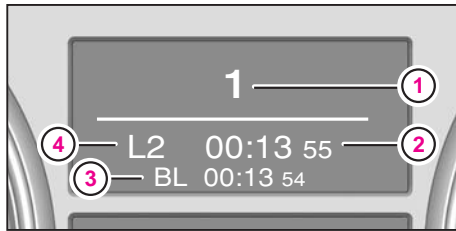
スプリットタイムを表示しているときに再度－を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます（4-21）。

### 計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに－を押します。

計測タイムが消去され、表示が00:00<sub>00</sub>に戻ります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### ラップタイムを記録する

① ギア表示
② 計測タイム
③ 最速ラップタイム
④ ラップ数

最大9件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

▶ タイム計測中に – を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

**知 識**

このときから、次のラップタイムの計測が開始されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 – を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップタイムが表示されます。

**知 識**

- ラップタイムが記録されているときは、計測タイム②の下に最速ラップタイム③が表示されます。
- ラップタイムが9件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

### 記録したラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、リセットボタン（3-86）を2回押します。

記録したラップタイムが消去され、表示が00:00₀₀に戻ります。

**知 識**

- 記録したラップタイムは個別に消去できません。
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから一定の時間が経過すると、計測タイムとラップタイムは消去されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## 全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）

① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの総走行距離
④ 計測した全ラップでの平均速度

2周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測後に計測結果を表示できます。

**計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる**

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます**(4-17)**。

▶ [⇧]または[⇩]を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

**知　識**

タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）

① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップでの走行距離
⑤ 表示されているラップでの平均速度

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測後にラップごとの計測結果を表示できます。

**計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる**

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます(4-17)。

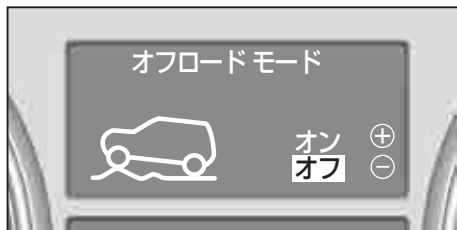
▶ [▲]または[▼]を押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

**知　識**

- 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。
- タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## オフロードモード設定＊

### オフロードモード設定画面

ML 63 AMGのオフロード・ドライブ・プログラムの設定ができます。

**オフロードモード設定画面を表示させる**

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

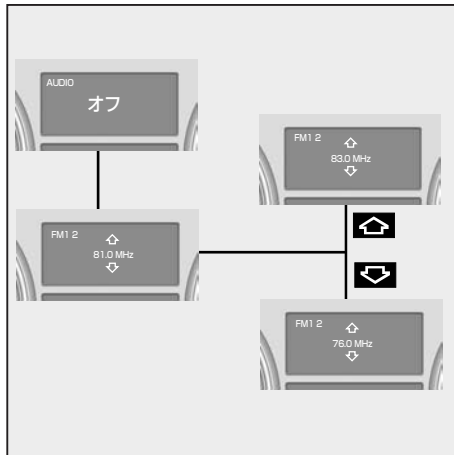
▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、オフロードモード設定画面を表示させます。

詳しくは（**5-66**）をご覧ください。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| オン | オフロード・ドライブ・プログラムが設定されます。 |
| オフ | オフロード・ドライブ・プログラムが解除されます。 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## オーディオ

オーディオの使用時にそれぞれの情報を表示します。

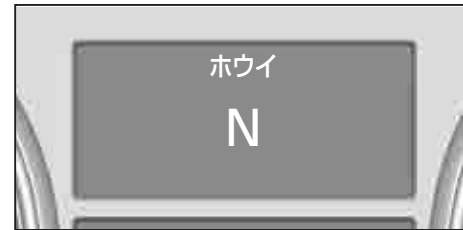
**オーディオのメイン画面を表示させる**

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

オーディオのメイン画面表示中に、［ボタン］または［ボタン］を押すと、ラジオの選局、CDの選曲などができます。

**音量調節**

▶ ［＋］または［－］を押すと、音量を調節できます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

## ナビゲーション・進行方向方位表示

マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

**ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる**

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

# 車高レベル / オフロード表示

## 車高レベル / オフロード表示＊

車高レベルやディファレンシャルロック＊に関する情報を表示します。

### 車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面（オフロードパッケージ装備車）

① 車高レベル表示
② ディファレンシャルロック表示

オフロードパッケージ装備車は、AIRマティックサスペンションの車高レベルとディファレンシャルロックの作動状態を表示することができます。

**車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面を表示させる**

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面を表示させます。

詳しくは **(5-71、87、88)** をご覧ください。

### 車高レベル表示画面（ML 63 AMG）

① 車高レベル表示

ML 63 AMGは、AIRマティックサスペンションの車高レベルを表示することができます。

**車高レベル表示画面を表示させる**

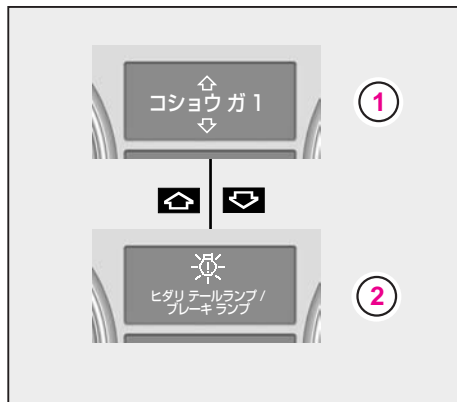
▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、車高レベル表示画面を表示させます。

詳しくは **(5-80)** をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 故障表示

| | |
|---|---|
| ① | 故障件数画面<br>(この例では、1件故障があります) |
| ② | 故障メッセージ画面の例 |

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

**知　識**

故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

**自動表示機能**

エンジンがかかっているときに故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングの[ボタン][ボタン]や[⇧][⇩]、またはリセットボタンを押すと、故障メッセージが消えます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### 故障メッセージを確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示されます。

▶ [icon]または[icon]を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [icon]または[icon]を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

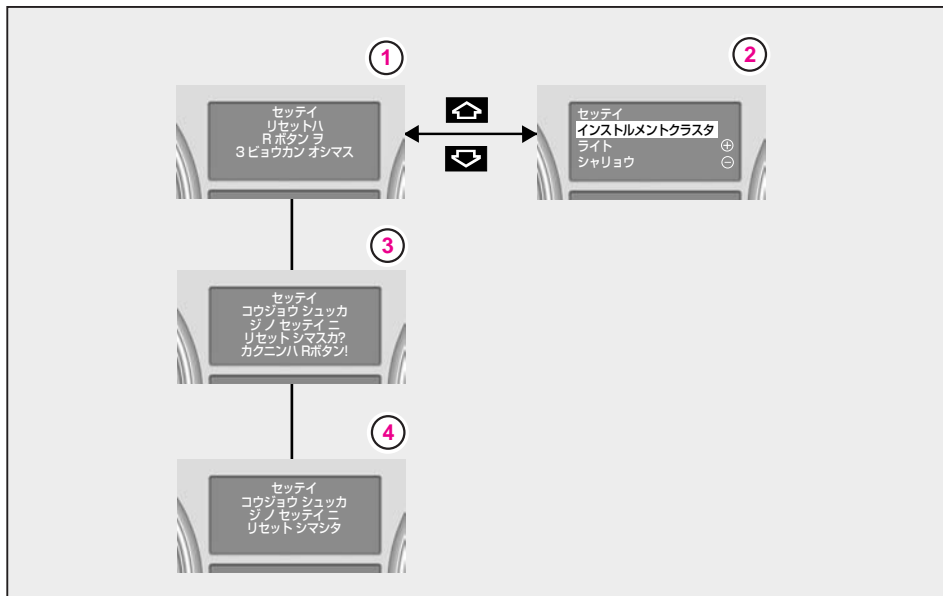
### 故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを0の位置にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを1か2の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

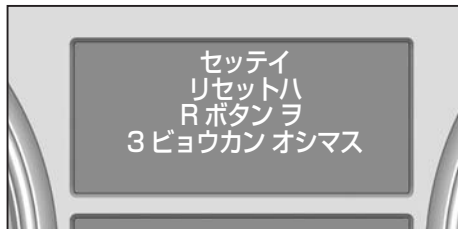
**注　意　!**

- 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては（10-2～）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## 各種設定

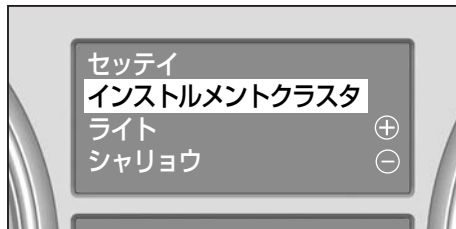
**注 意 !**

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### 各種設定メイン画面

#### メイン画面を表示させる

▶ ◧または◨を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

### 設定グループ選択画面

#### 設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に⇧を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

#### 設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、⇧を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

#### 設定項目画面を選択する

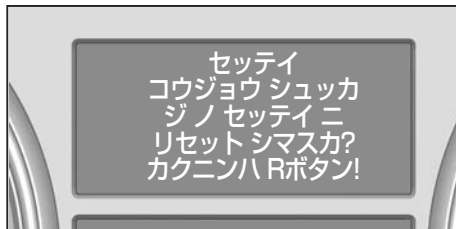
選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ ⇧または⇩を押して、設定項目画面を選択します。

▶ ＋または－を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

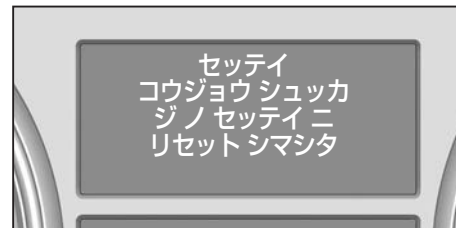
## 各種設定項目の初期化

初期化画面

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。

### 各種設定項目を初期化する

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-30）。

▶ リセットボタン（3-86）を約3秒間押し続けます。

左記の初期化画面が表示されます。

初期化完了画面

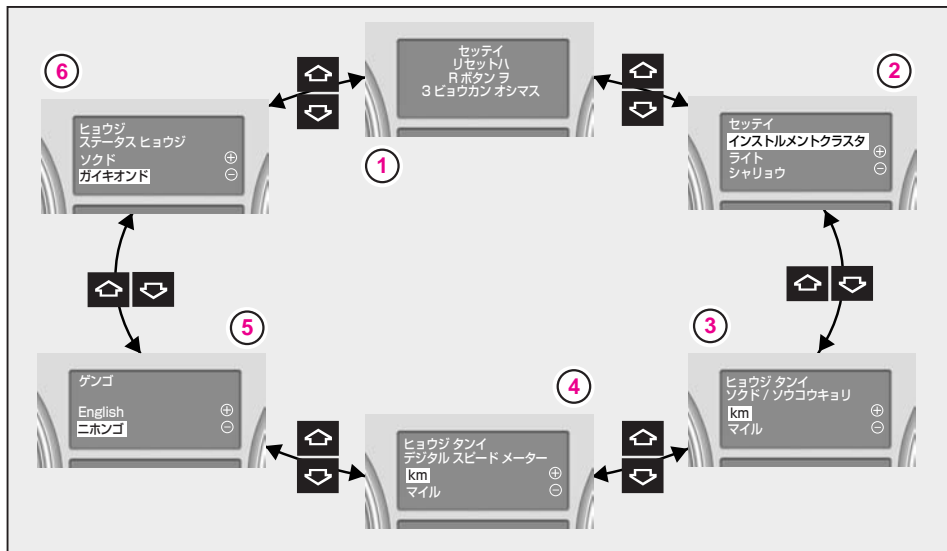
▶ 初期化画面の表示中(約5秒以内)に、再度リセットボタンを押します。

初期化を実行し、上記の初期化完了画面が表示されます。

**知　識**

- 初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 初期化すると設定グループ選択画面が表示されます。
- 走行中に初期化操作を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## インストルメントクラスタ

| | | |
|---|---|---|
| ① | 各種設定メイン画面 | 4-30 |
| ② | 設定グループ選択画面 | 4-30 |
| ③ | 速度・距離単位設定画面 | 4-33 |
| ④ | サブスピードメーター単位設定画面 | 4-34 |
| ⑤ | ディスプレイ言語設定画面 | 4-34 |
| ⑥ | 車両情報サブ画面の表示設定画面 | 4-35 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### 設定グループ選択画面を表示させる

▶ [■]または[■]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-30）。

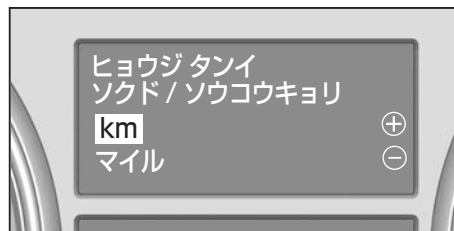
▶ 各種設定メイン画面①表示中に[⌂]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

### 設定グループを選択する

▶ [＋]または[－]を押して、"インストルメントクラスタ" を選択します。

▶ [⌂]を押します。

インストルメントクラスタの最初の設定項目画面が表示されます。

### 速度・距離単位設定画面

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

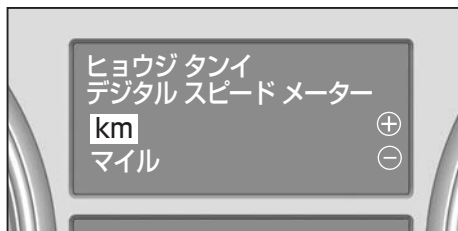
▶ [＋]または[－]を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| km | 表示がkm/h、kmになります。 |
| ﾏｲﾙ | 表示がmph、マイル、MIになります。 |

**注 意 ！**

1mphは約1.6km/hです。スピードメーターとサブスピードメーターの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずkm表示を選択してください。



※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### サブスピードメーター単位設定画面

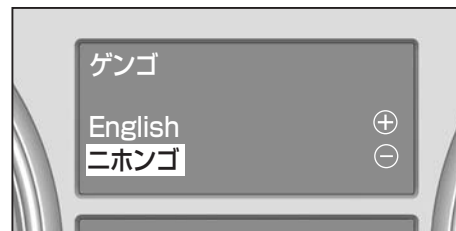
マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター（4-6、12）の表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| km | km/h表示になります。 |
| ﾏｲﾙ | mph表示になります。 |

**注　意　！**

1mphは約1.6km/hです。スピードメーターとサブスピードメーターの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。

### ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

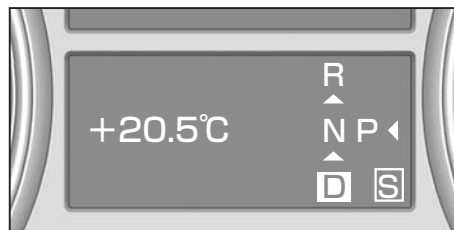
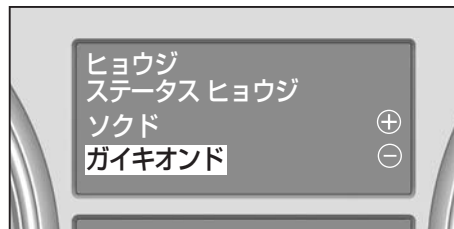
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| English | 英語表示になります。 |
| ﾆﾎﾝｺﾞ | 日本語表示になります。 |

**知　識**

この画面で設定した言語がマルチファンクションコントローラーにも適用されます。詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

**車両情報サブ画面の表示設定画面**

車両情報サブ画面

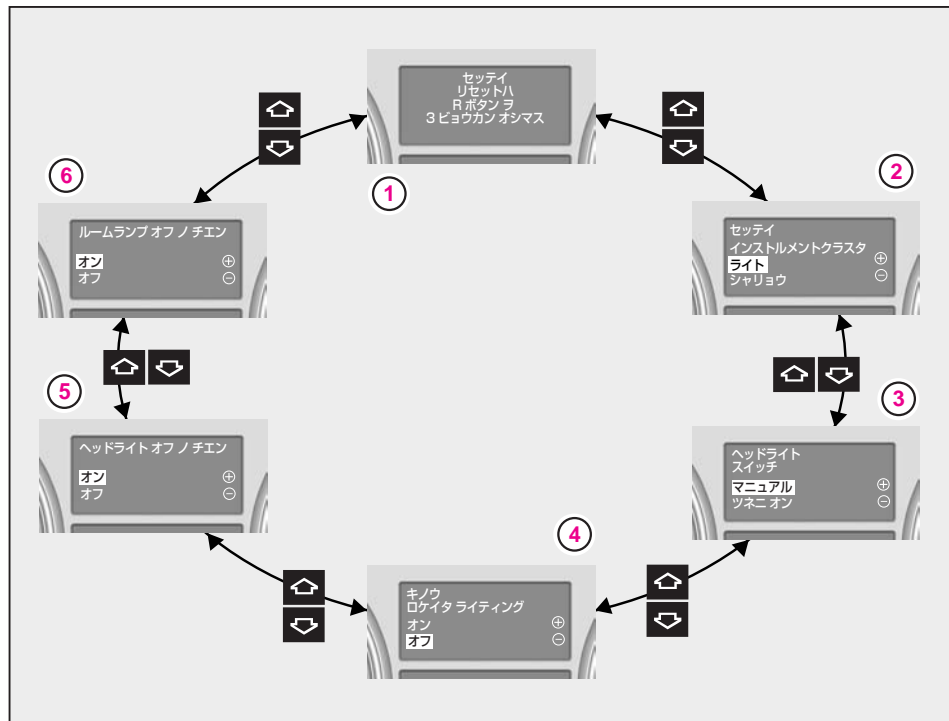
車両情報サブ画面に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| ｿｸﾄﾞ | 車両情報サブ画面の表示がサブスピードメーターになります。<br>このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示画面 **(4-12)** には外気温度が表示されます。 |
| ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ | 車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。<br>このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示画面 **(4-12)** にはサブスピードメーターが表示されます。 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## 各種設定

### ライト

| ① | 各種設定メイン画面 | 4-30 |
|---|---|---|
| ② | 設定グループ選択画面 | 4-30 |
| ③ | ヘッドランプ点灯モード設定画面 | 4-37 |
| ④ | ロケイターライティング設定画面 | 4-38 |
| ⑤ | 車外ランプ消灯遅延機能設定画面 | 4-39 |
| ⑥ | ルームランプ消灯遅延機能設定画面 | 4-40 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### 設定グループ選択画面を表示させる

▶ [button]または[button]を押して、各種設定メイン画面を表示させせます（4-30）。

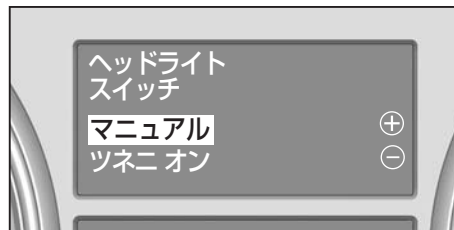
▶ 各種設定メイン画面①表示中に[button]を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

### 設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"ライト"を選択します。

▶ [button]を押します。

ランプの最初の設定項目画面が表示されます。

### ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [+]または[−]を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| ﾏﾆｭｱﾙ | 手動点灯モードです。<br>ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。<br>日本ではこのモードに設定してください。 |
| ﾂﾈﾆ ｵﾝ | 常時点灯モードです。<br>ランプスイッチが[0]の位置のときは、エンジンスイッチを1か2の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。<br>エンジンを始動すると、車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯します。 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

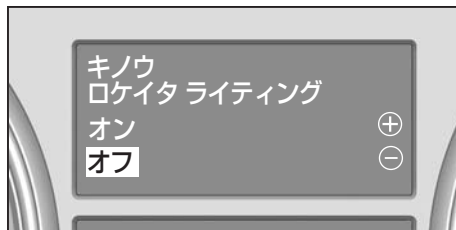
**注　意　！**

設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾞﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

**知　識**

- 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。
- 常時点灯モードを設定しているときにヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

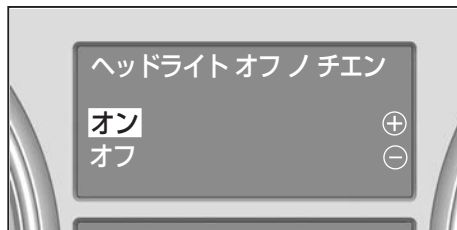
**ロケイターライティング設定画面**

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠するとランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| ｵﾝ | 周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。 |
| ｵﾌ | ロケイターライティングは作動しません。 |

詳しくは（3-11）をご覧ください。

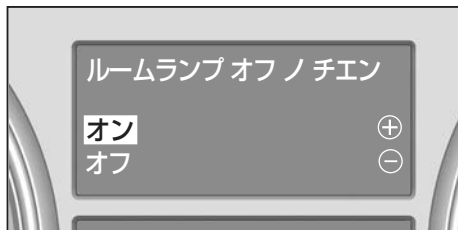
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

**車外ランプ消灯遅延機能設定画面**

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
| --- | --- |
| ｵﾝ | 周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。 |
| ｵﾌ | 車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。 |

詳しくは（5-28）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

**ルームランプ消灯遅延機能設定画面**

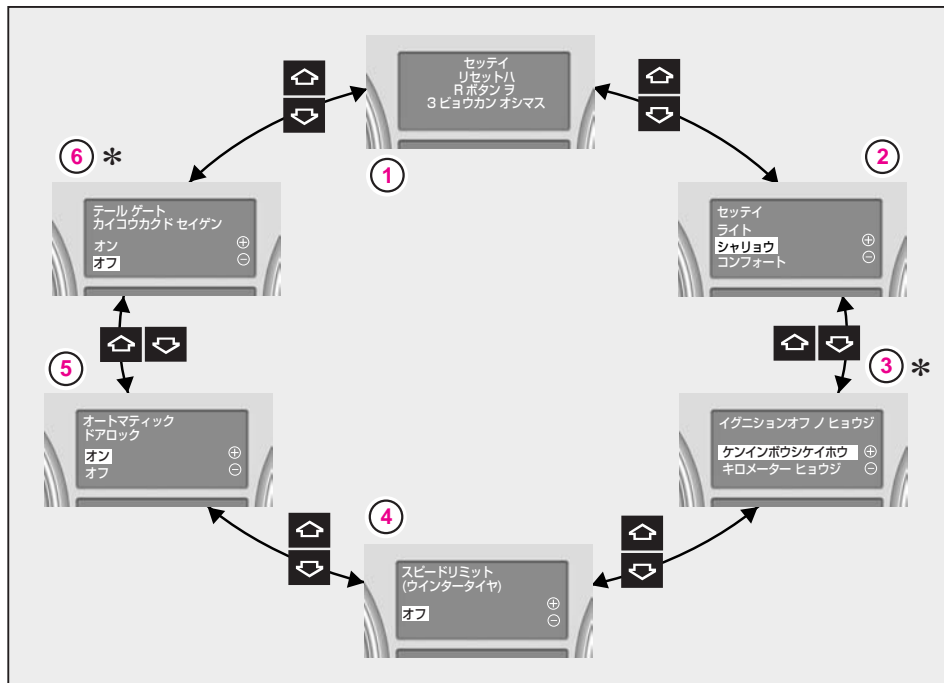
ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くとルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| オン | ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約10秒間点灯します。 |
| オフ | ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。 |

詳しくは（**6-38**）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## シャリョウ

| | | |
|---|---|---|
| ① | 各種設定メイン画面 | 4-30 |
| ② | 設定グループ選択画面 | 4-30 |
| ③ | エンジン停止時の表示設定画面＊ | 4-42 |
| ④ | ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面 | 4-43 |
| ⑤ | 車速感応ドアロック設定画面 | 4-44 |
| ⑥ | テールゲート開度の設定画面＊ | 4-45 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 設定グループ選択画面を表示させる

▶ ▭または▭を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-30）。

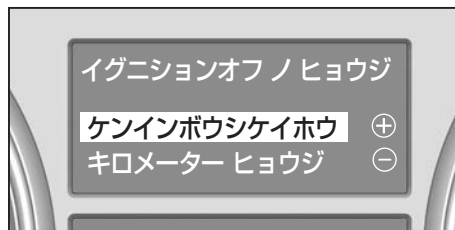
▶ 各種設定メイン画面①表示中に⌂を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

### 設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、"シャリョウ" を選択します。

▶ ⌂を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

### エンジン停止時の表示設定画面＊

エンジンスイッチを0の位置にしたときやエンジンスイッチからキーを抜いたときに表示される画面の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

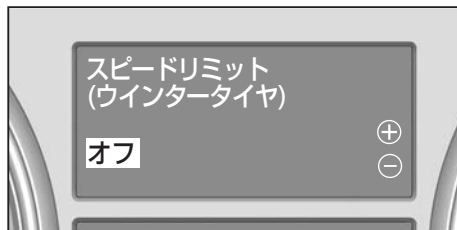
| 表示 | 設定内容 |
| --- | --- |
| ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ | けん引防止警報機能のオン / オフ画面になります。 |
| ｷﾛﾒｰﾀｰ ﾋｮｳｼﾞ | 車両情報メイン画面になります。 |

**知　識**

エンジンスイッチを0の位置にしてから、またはキーを抜いてから約2分間経過すると、けん引防止警報機能を解除したり、待機状態にすることはできなくなります(3-65)。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面**

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

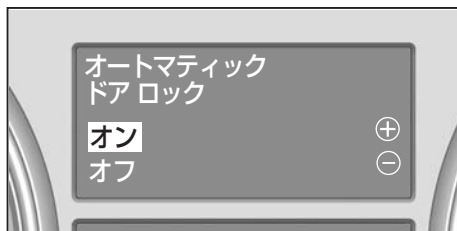
日本仕様でも設定はできますが法定速度を守って走行してください。

**知　識**

- 車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。
- ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター(5-95)で設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

▶ ＋または－を押して、設定内容を選択します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| オフ | ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。 |
| 240km/h<br>230km/h<br>220km/h<br>210km/h<br>200km/h<br>190km/h<br>180km/h<br>170km/h<br>160km/h | 最高速度がそれぞれの速度に設定されます。 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### 車速感応ドアロック設定画面

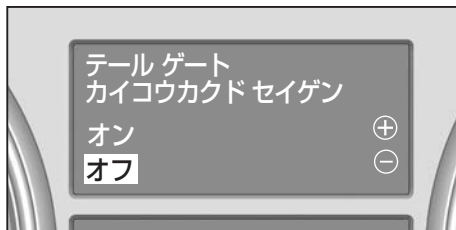
走行速度が約15km/h以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| オン | 車速感応ドアロックが作動します。 |
| オフ | 車速感応ドアロックは作動しません。 |

詳しくは（3-39）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### テールゲート開度の設定画面＊

テールゲートの開く高さを設定することができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

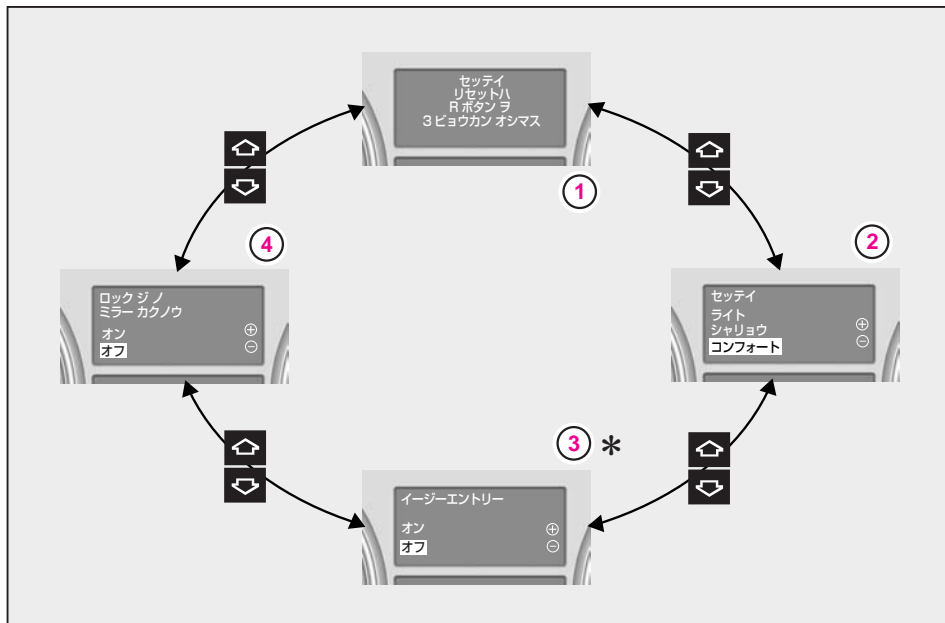
| 表示 | 設定内容 |
| --- | --- |
| オン | テールゲートの開く高さが低い位置になります。 |
| オフ | テールゲートは最も高い位置まで開きます。 |

詳しくは（3-40）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

# 各種設定

## コンフォート

| | | |
|---|---|---|
| ① | 各種設定メイン画面 | 4-30 |
| ② | 設定グループ選択画面 | 4-30 |
| ③ | イージーエントリー設定画面＊ | 4-47 |
| ④ | 施錠時のドアミラー格納設定画面 | 4-48 |

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、各種設定メイン画面を表示させせます（4-30）。

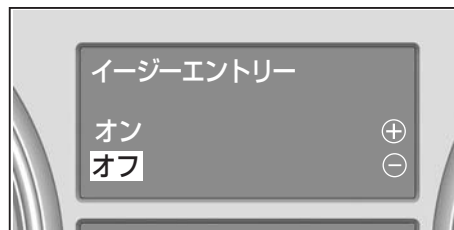
▶ 各種設定メイン画面①表示中に[icon]を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

### 設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"コンフォート" を選択します。

▶ [icon]を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面が表示されます。

### イージーエントリー設定画面＊

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

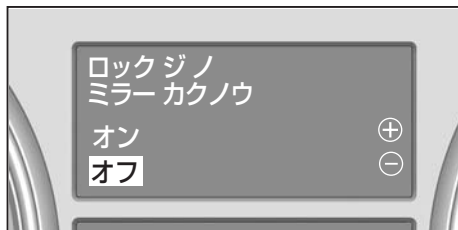
▶ [+]または[−]を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
| --- | --- |
| オン | ステアリングが上方に移動します。 |
| オフ | イージーエントリー機能は作動しません。 |

詳しくは（3-35）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

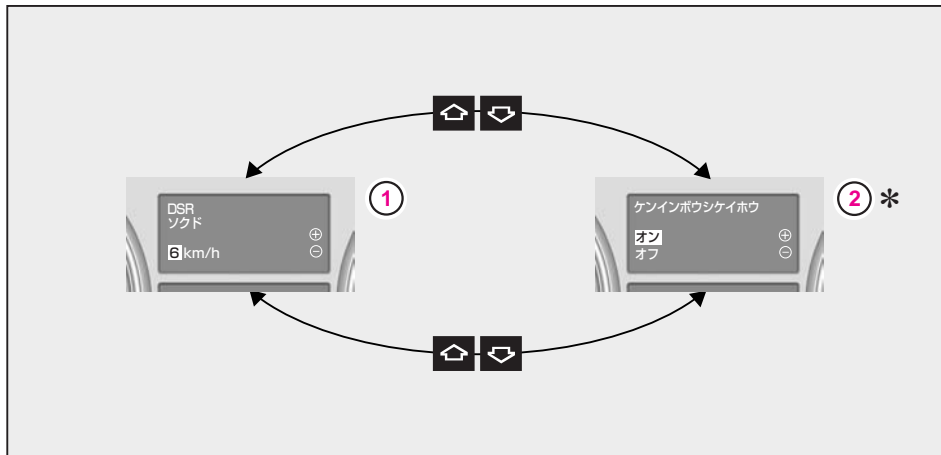
**施錠時のドアミラー格納設定画面**

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

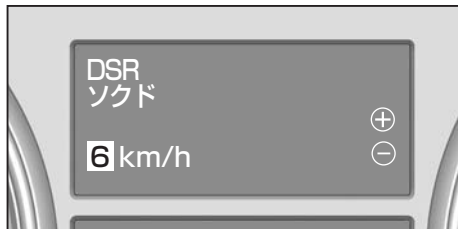
▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| オン | リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。 |
| オフ | リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。 |

詳しくは（3-11）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## 車両設定

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## DSR速度設定画面

マルチファンクションディスプレイでは、DSRの速度を6km/hから18km/hの間で、2km/h単位で設定できます。

### DSR速度設定画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、DSR速度設定画面を表示させます。

▶ ＋ または － を押して、設定速度を選択します。

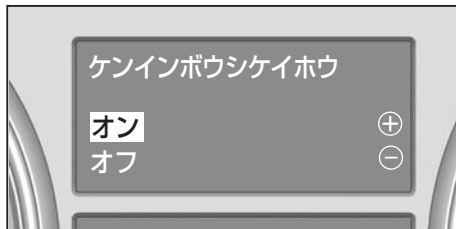
| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| 6～18 km/h | DSRの設定速度がそれぞれの速度になります。 |

**知　識**

DSRを作動させているときは、クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバーにより、DSRの設定速度を4km/hから18km/hの間で、1km/h単位で一時的に変更することができます。

詳しくは（5-62）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### けん引防止警報機能設定画面＊

盗難防止警報システムのけん引防止警報機能＊を設定できます。

**けん引防止警報機能設定画面を表示させる**

▶ または を押して、DSR速度設定画面を表示させせます。

▶ または を押して、けん引防止警報機能設定画面を表示させます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

| 表示 | 設定内容 |
|---|---|
| ｵﾝ | けん引防止警報機能が待機状態になります。 |
| ｵﾌ | けん引防止警報機能が解除されます。 |

**知　識**

エンジン停止時の表示設定画面（4-42）が"ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ"のときは、エンジンスイッチを0の位置にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに"ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ"または"ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾝ"と表示されます。このとき＋か－を押すと、けん引防止警報機能を待機状態にするか、または解除することができます。

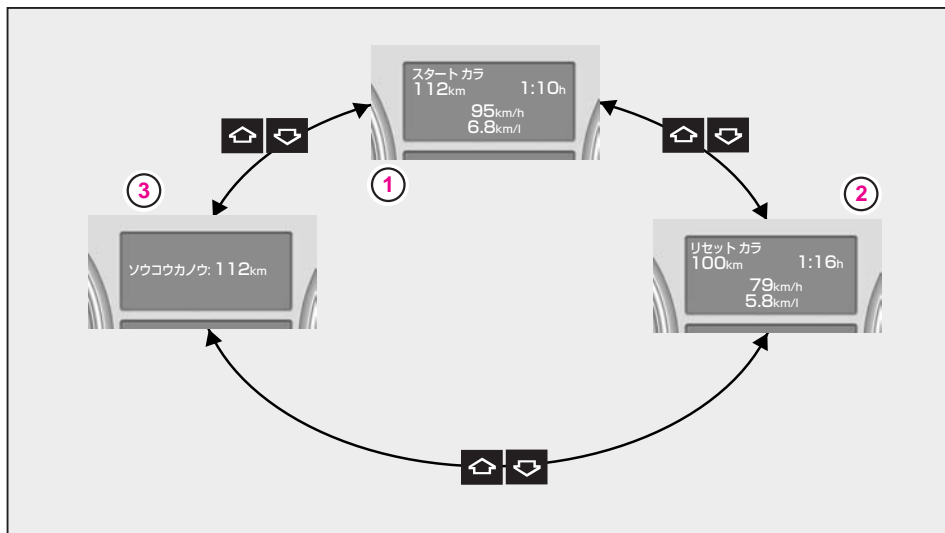
詳しくは（3-64）をご覧ください。

4

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

# トリップコンピューター

## トリップコンピューター

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

エンジンスイッチを**0**の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

**ショートトリップメーター画面を表示させる**

▶ またはを押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターは、手動でもリセットできます。

**ショートトリップメーターを手動でリセットする**

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン**（3-86）**を押し続けて、表示をリセットします。



※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## トリップコンピューター

### ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点とした情報を表示します。

**ロングトリップメーター画面を表示させる**

▶ [アイコン]または[アイコン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-53）。

▶ [アイコン]を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

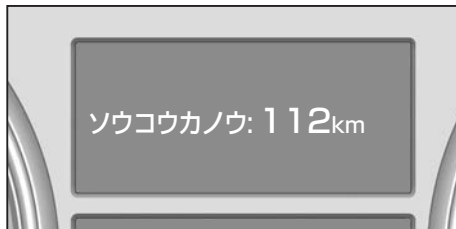
**ロングトリップメーターをリセットする**

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（3-86）を押し続けて、表示をリセットします。

**知　識**

リセット後、ロングトリップメーターは、99,999km走行後、または9,999時間経過後に自動的にリセットされます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

### 走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

**走行可能距離画面を表示させる**

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-53）。

▶ [ボタン]を押して、走行可能距離画面を表示させます。

**注　意！**

走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるか、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

### 電話画面を表示させる

▶ ［画面切替スイッチ］または［画面切替スイッチ］を押して、電話画面を表示させます。

### 通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ［通話開始］を押します。

電話を受信できます。

### 通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチ［通話終了］を押します。

電話を切断できます。

### メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、［▲］または［▼］を押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ［通話開始］を押します。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## エンジンスイッチ

| | 作動内容 |
|---|---|
| ⓪ | **0**：キーを差し込む / 抜く位置 |
| ① | **1**：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置 |
| ② | **2**：走行するときの位置<br>すべての電気装備が使用できます。 |
| ③ | **3**：エンジンを始動する位置<br>エンジンスイッチを③の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターがまわり、エンジンが始動します。 |

### タッチスタート

エンジンスイッチを③の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

**警　告** 

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

**注　意！**

- 走行中にエンジンを停止させないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- バッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。

**知　識**

- エンジンスイッチからキーを抜かずに⓪の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。
- キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

## エンジンの始動と停止

### エンジンを始動するとき

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認してください。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに3の位置までまわして手を放します。

**注　意　！**

- エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

**知　識**

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置のスイッチをオフにしておくと始動性が良くなります。

### エンジンを始動できないとき

▶ エンジンスイッチを0か1の位置まで戻してから再始動してください。

▶ シフトポジションがPになっていることを確認してください。

それでもエンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

### エンジンを停止するとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションをPにします。

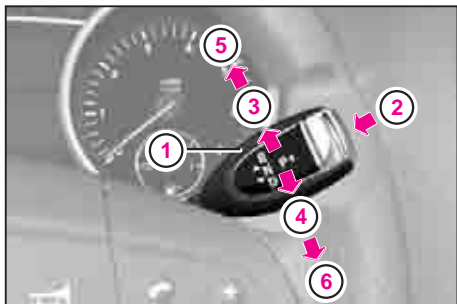
▶ エンジンスイッチを0の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

**注 意 !**

水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

## オートマチックトランスミッション

### セレクターレバー

① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

**シフトポジションを選択する**

▶ セレクターレバー①を操作して、シフトポジションを選択します。

**注　意　！**

セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

| ポジション | | 操作方法 |
|---|---|---|
| P パーキング | 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置 | ▶ セレクターレバー先端のボタンを②の方向に押します。 |
| N ニュートラル | 動力が伝わらない位置<br>押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。 | ▶ セレクターレバーを③または④の方向に軽く操作します。 |
| R リバース | 後退するときの位置 | ▶ セレクターレバーを⑤の方向にいっぱいまで上げます。 |
| D ドライブ | 走行するときの位置<br>1速～7速の範囲で自動的に変速します。 | ▶ セレクターレバーを⑥の方向にいっぱいまで下げます。 |

**注　意！**

- 約10km/h以下で走行しているときは、D から R 、または R から D にシフトポジションを変更できますが、シフトポジションが変更されたことに気付かずに一旦停止して、再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

- シフトポジションを P または R にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

**警　告**

走行中にシフトポジションを N にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

**知　識**

- エンジンスイッチが**2**の位置で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、**P**から他のシフトポジションにできます。
- エンジンスイッチが**1**の位置でブレーキペダルを踏んでいるときに、シフトポジションを**P**から**N**にできます。
- シフトポジションを**R**にしたときは、確認音が鳴ります。
- セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。
- シフトポジションが**D**か**R**のときにエンジンスイッチを**0**か**1**の位置にすると、シフトポジションが**N**になります。

  さらにこの状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションが**P**になります。

- シフトポジションを**P**から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに"P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ"と表示されます。
- 約10km/h以上で走行しているときは、**D**から**R**、または**R**から**D**にシフトポジションを変更しようとすると、**N**になります。
- シフトポジションが**P**以外のときに運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに"ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ"と表示され、警告音が鳴ります。

## シフトポジション表示

① シフトポジション表示
（ドライブが選択されている状態）

マルチファンクションディスプレイが表示されているときに、選択されているシフトポジション①が反転表示されます。

**注　意　!**

マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションが表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、選択されたシフトポジションを確認してから走行してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

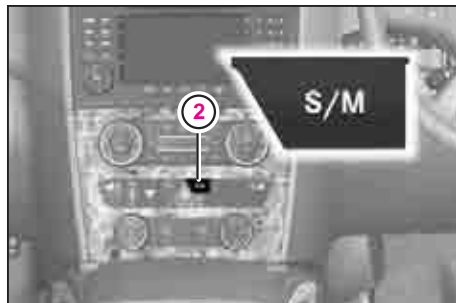
※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## 走行モードの切り替え＊

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

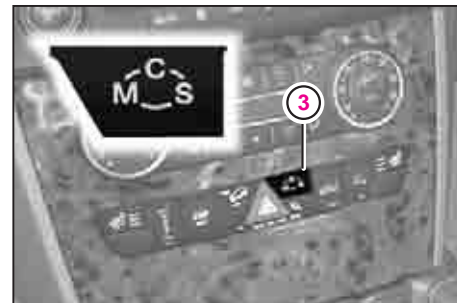
選択された走行モード①はメーターパネルに表示されます。

## オフロードパッケージ装備車

② 走行モード選択スイッチ

### 走行モードを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

Sモード→Mモード→Sモードと切り替わります。

## ML 63 AMG

③ 走行モード選択スイッチ

### 走行モードを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

Cモード→Sモード→Mモード→Cモードと切り替わります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

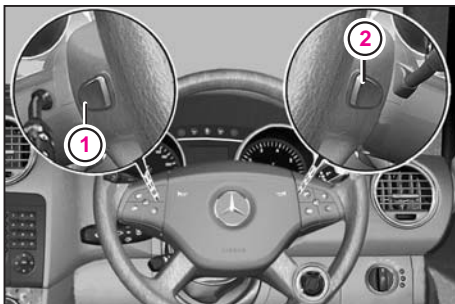
| 走行モード | |
|---|---|
| Sモード | 十分な加速を得たいときに使用します。シフトポジションを R にしたときはCモード＊より力強く後退します。 |
| Cモード＊ | Sモードより早めにシフトアップが行なわれます。ゆるやかな運転や滑りやすい路面を走行するときに適しています。<br>シフトポジションを R にしたときはSモードよりゆるやかに後退します。 |
| Mモード | マニュアルでギアを選択できます。<br>詳しくは（5-13）をご覧ください。 |

**警　告** 

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

**知　識**

- Sモードまたは Cモードを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは停止したときのモードになります。
- Mモードを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは、Sモードまたは Cモードになります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ティップシフト

① 低いギアレンジを選択
② 高いギアレンジを選択

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードがMモード＊（5-10）以外のときに、ティップシフトにできます。

③ ギアレンジ表示

### ティップシフトにする

▶ シフトポジションが D のときに、ステアリング左側のボタン①を押します。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジ③がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

### 低いギアレンジを選択する

▶ ステアリング左側のボタン①を押します。

低いギアレンジが選択され、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ③が表示されます。

### 高いギアレンジを選択する

▶ ステアリング右側のボタン②を押します。

高いギアレンジが選択され、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ③が表示されます。

### ティップシフトを解除する

▶ ステアリング右側のボタン②を押し続けます。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示③に "D" が表示されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

| レンジ | |
|---|---|
| D | 1速～7速の範囲で変速します。 |
| D6 | 1速～6速の範囲で変速します。 |
| D5 | 1速～5速の範囲で変速します。 |
| D4 | 1速～4速の範囲で変速します。 |
| D3 | 1速～3速の範囲で変速します。エンジンブレーキが必要なときに使用します。 |
| D2 | 1速～2速の範囲で変速します。下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。 |
| D1 | 1速に固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。 |

**警　告** 

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

**注　意　！**

マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションやギアレンジが表示されないときは、ティップシフトを解除して走行してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

**知　識**

- ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。
- シフトポジションが D のときにボタン②を押すと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。
- 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジになります。
- ギアレンジ表示は選択したギアレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。

## マニュアルギアシフト＊

ステアリングのボタンを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

**警 告** 

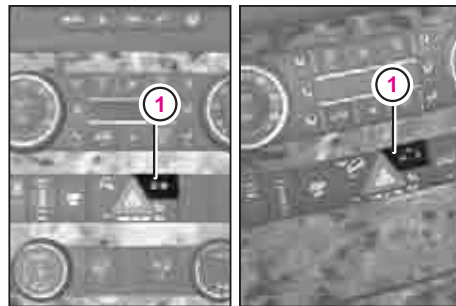
滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。ギアをシフトするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

**注 意 ！**

エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

**知 識**

マニュアルギアシフトではESPの機能を解除しないで走行することをお勧めします（5-47）。

## マニュアルギアシフトの選択

（左）オフロードパッケージ装備車
（右）ML 63 AMG
① 走行モード選択スイッチ

### マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、走行モードをMモードにします。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## マニュアルギアシフト

② 走行モード表示
③ ギア表示

▶ 走行モード表示②に "M" が表示され、選択されているギア③が表示されます。

また、マルチファンクションディスプレイにAMGメニュー＊を表示しているときは、マルチファンクションディスプレイに選択されているギアが表示されます（4-17、18、19）。

**知　識**

マニュアルギアシフトではギア表示③に表示される数字は実際のギアを示しています。

運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ＊ / ダウンに応じてシフトインジケーターに表示される数字も変わります。

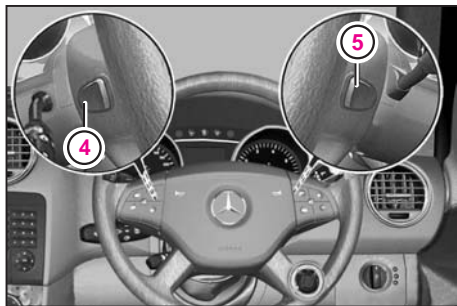
### マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、走行モード表示②に "S" または "C" ＊を表示させます。

**知　識**

マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは、オートマチックギアシフトに切り替わります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## シフト操作

④ シフトダウン
⑤ シフトアップ

### シフトダウンする

▶ ステアリング左側のボタン④を押します。

押すたびに1段下のギアにシフトダウンします。

### シフトアップする

▶ ステアリング右側のボタン⑤を押します。

押すたびに1段上のギアにシフトアップします。

**注 意 !**

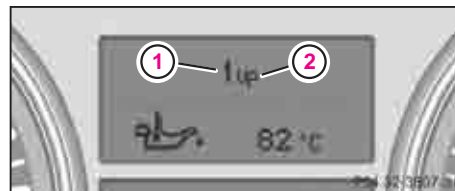
ローレンジ＊になっているときは(5-83)、エンジン回転数が高回転になってもオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップしません。エンジン回転数の上げすぎに注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## マニュアルギアシフト

**知　識**

- 停車すると、ギアは1速にシフトされます。
- 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。
- シフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。
- シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。
- オフロードパッケージ装備車では、エンジン回転数が上昇してレッドゾーンに近付くと、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。
- ML 63 AMGでは、自動的にシフトアップされません。
- オフロードパッケージ装備車では、キックダウンを行なうことができます。
- ML 63 AMGでは、キックダウンを行なうことはできません。
- ステアリング左側のボタンを押し続けると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

### シフトアップ表示（ML 63 AMG）

① ギア表示
② シフトアップ表示 "up"

エンジン回転数が上昇して、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、選択しているギア表示①の横に、"up" ②が表示されます **（4-17）**。

## オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

### オートマチック車の特性

#### クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P 、N 以外のときは動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

#### キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

### 発進する

▶ エンジンを始動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にします。

**警　告** 

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

**注　意　！**

急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

### 通常走行

通常はシフトポジションを D にして走行します。アクセルペダルの踏み加減や走行速度に応じて、自動的に変速が行なわれます。

**警　告** 

走行中にシフトポジションを N にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

**知　識**

- エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、触媒がより早く適正温度に達します。
- オートマチックトランスミッションは、運転者の運転の仕方に合わせて、自動的に変速のタイミングを制御します。運転者や運転スタイル、運転状況が変化したときは、変速タイミングもそれに合わせて変化します。

### 素早く加速したいとき

▶ アクセルペダルを多めに踏み込むと、より高い回転数でシフトアップします。

または

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、キックダウンして、素早く加速します。

**注　意　！**

キックダウンをするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

### ゆっくりなめらかに加速したいとき

▶ アクセルペダルを少しだけ踏み込みます。

より低い回転数で、早めのタイミングでシフトアップします。

### 上り坂を走行するとき

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

変速の少ない、なめらかな走行ができます。

### 下り坂を走行するとき

下り坂をDで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

エンジンブレーキの効きが強くなります。

**エンジンブレーキ：**走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

**警　告** 

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

### 滑りやすい路面を走行するとき

**警　告** 

滑りやすい路面では、低いギアレンジを選択したり、シフトダウン操作を行なうことによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

**注　意　！**

エンジンの許容回転数を超えるおそれがある場合は、低いギアレンジや低いギアを選択することはできません。このときは、ブレーキペダルで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

### 狭い場所で転回するとき

▶ ブレーキペダルを踏みながら、走行速度を調整します。

▶ 後方など周囲の安全を確認し、ゆっくりスムーズに加速しながら転回します。

### 停車するとき

シフトポジションを D にしたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にします。

**警　告** 

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが D 、 R になると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

**注　意 ！**

- 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象（5-17）で車が動かないようにしてください。
- シフトポジションを P にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

### 駐車

▶ 完全に停車させ、ブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜きます。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

**警　告**

駐車時や車を離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。シフトポジションを P にしただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

**注　意　!**

- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪の下り側を歩道方向に向けてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやスライディングルーフ＊を閉じ、車を施錠してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。この場合、以下の方法でギアを2速かリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

### エマージェンシーモードでの走行

▶ 安全な場所に停車し、シフトポジションを P にします。

▶ エンジンスイッチを0の位置にして、約10秒間待ちます。

▶ エンジンを始動します。

▶ シフトポジションを D にします。

2速ギアに固定され、前進できます。

または

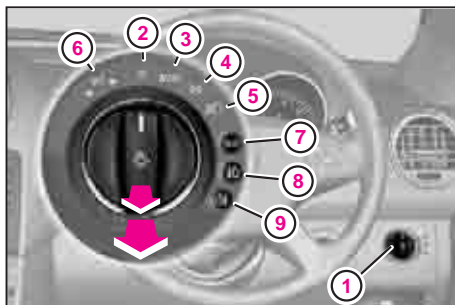
▶ シフトポジションを R にします。

リバースギアに固定され、後退できます。

**注 意 ！**

- 2速やリバースに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

## ランプ

### ランプスイッチ

① ランプスイッチ

**注　意　！**

エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

| | 位置 | 作動内容 |
|---|---|---|
| ② | 0 | すべてのランプが消灯 |
| ③ | AUTO | 周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯 |
| ④ | | 車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、表示灯⑦が点灯 |
| ⑤ | | ヘッドランプが点灯 |
| ⑥ | P | 右側のパーキングランプが点灯 |
| | P | 左側のパーキングランプが点灯 |
| ⑦ | 車幅灯表示灯 | |
| ⑧ | フロントフォグランプ表示灯 | |
| ⑨ | リアフォグランプ表示灯 | |

**注　意　！**

ランプスイッチをの位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

## ヘッドランプ

**知　識**

ヘッドランプが点灯しているときに、エンジンスイッチを**1**の位置にすると、ヘッドランプが消灯します。

さらにこの状態でエンジンスイッチを**0**の位置にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

### ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を の位置にします。

- エンジンスイッチが**1**の位置のときは、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、車幅灯表示灯⑦が点灯します。
- エンジンスイッチが**2**の位置のときは、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

## ヘッドランプの自動点灯機能

周囲が暗いときに、ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯できます。

### ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯する

▶ ランプスイッチ①を AUTO の位置にします。

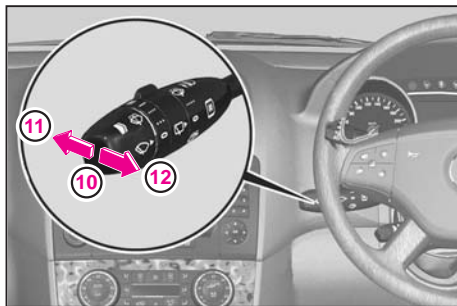
- エンジンスイッチが**1**の位置のときは、周囲が暗くなると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯し、車幅灯表示灯⑦が点灯します。
- エンジンがかかっているときは、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

**知　識**

フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサーと同じ位置にあります（**5-33**）。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

**警　告** 

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき。
  - ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき。
- ランプスイッチを AUTO から の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

## ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

⑩ 下向き
⑪ 上向き
⑫ パッシング

### ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを⑩の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

### ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを⑪の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯■が点灯します。

**注 意 !**

対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

### パッシングする

▶ コンビネーションスイッチを⑫の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯■が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと⑩の位置に戻ります。

## フォグランプ

### フロントフォグランプを点灯する

▶ エンジンスイッチが**2**の位置でランプスイッチ①の位置が[フォグ]または[ヘッドランプ]のときに、ランプスイッチを1段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯⑧が点灯します。

### フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ エンジンスイッチが**2**の位置でランプスイッチ①の位置が[フォグ]または[ヘッドランプ]のときに、ランプスイッチを2段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯⑧とリアフォグランプ表示灯⑨が点灯します。

**警　告** 

ランプスイッチがAUTOの位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを[ヘッドランプ]の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

**注　意　！**

- フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
- エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

## パーキンググランプ

暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

### パーキンググランプを点灯する

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチをP≶→または←P≶の位置にします。

| 位置 | 作動内容 |
| --- | --- |
| P≶→ | 右側のパーキングランプが点灯 |
| ←P≶ | 左側のパーキングランプが点灯 |

## コーナリングランプ

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約40km/h以下のとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

### 方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが R のときは、フロントフォグランプは点灯しません。

### ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが R のときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

**知　識**

- 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。
- フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。
- 点灯したフロントフォグランプは、約3分後に自動的に消灯します。

## アクティブライトシステム

周囲が暗く、ヘッドランプを点灯して走行しているときにステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

**知　識**

- ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。
- 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

## 車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。

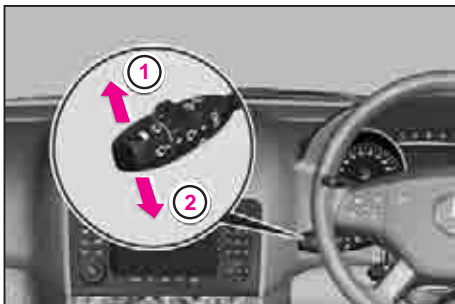
この機能の設定と解除については**(4-39)**をご覧ください。

### 車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを**2**の位置にします。

**知　識**

- ランプが消灯するまでの時間は、ドアやテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。
- エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後に、ランプは消灯します。

## 方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

### 右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

### 左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

### 知　識

- 方向指示灯を点滅させているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。
- コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が3回点滅します。

## 非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

### 非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

### 非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

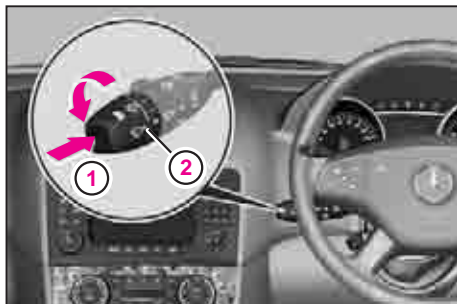
**注　意　！**

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

**知　識**

- 非常点滅灯を点滅させているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

## ワイパー

### フロントワイパー

① ティップ機能 / フロントウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

#### ワイパーを作動させる

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク②を ••• ～ ☰ に合わせます。

| 位置 | 作動内容 |
|---|---|
| 0 | 停止 |
| ••• | 間欠モードⅠ<br>(停止～高速) |
| •••• | 間欠モードⅡ<br>(停止～高速)<br>同じ雨滴量の場合、間欠モードⅠよりもワイパーが速く作動します。 |
| ━ | 低速モード |
| ☰ | 高速モード |

### ワイパーを1回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押します。

ワイパーが1回だけ作動します（ウォッシャー液は噴射しません）。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

### フロントウインドウウォッシャーを噴射する

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印①の方向にいっぱいに押します。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

**知 識**

- 間欠モードでは、フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
- 間欠モードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。
  ◇ シフトポジションがPまたはNのときは、ドアを閉じて他のシフトポジションにシフトしたとき
  ◇ シフトポジションがDまたはRのときは、ドアを閉じたとき
- コンビネーションスイッチが―および＝の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。
- ボンネットのロックが解除されているときは、ワイパーは作動しません。
- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

### レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

**注 意 ！**

レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

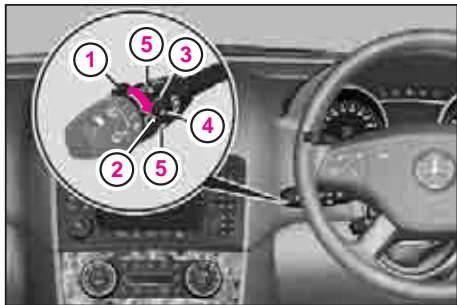
### ヘッドランプウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約5回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

**知 識**

- エンジンを停止するか、ヘッドランプを消灯させせると、フロントウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

**注 意 ！**

ヘッドランプは樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

## リアワイパー

① ノブ
② リアワイパー作動モードのマーク
③ リアワイパー作動位置
④ 停止位置
⑤ テールゲートウインドウウォッシャー作動位置

⑥ リアワイパーインジケーター

### リアワイパーを作動させる

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにノブ①をまわして、リアワイパー作動モードのマーク②を③の位置に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイに、リアワイパーインジケーター⑥が表示されます。

**知 識**

エンジンスイッチが**2**の位置でフロントワイパーが作動しているときにシフトポジションを R にすると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  ◇間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のとき

  ◇低速で作動します。

### テールゲートウインドウウォッシャーを噴射する

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにノブ①をまわして、リアワイパー作動モードのマーク②を⑤の位置に合わせ続けます。

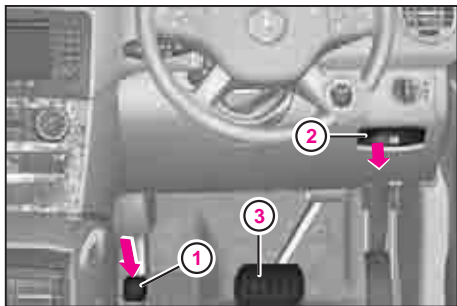
その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーも作動します。

**注　意　!**

- ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。
- ウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **0** （停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

  ウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャーを噴射してから使用してください。
- エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが **0** 以外の位置のままエンジンスイッチを**1**の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

# パーキングブレーキ

## パーキングブレーキ

① パーキングブレーキペダル
② 解除ハンドル
③ ブレーキペダル

### パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル③を踏み、左足でパーキングブレーキペダル①をいっぱいまで踏み込みます。

エンジンがかかっているときやエンジンスイッチが**1**の位置のときは、メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

### パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル③をいっぱいまで踏みながら解除ハンドル②を手前に引きます。

エンジンがかかっているときやエンジンスイッチが**1**の位置のときは、メーターパネルのブレーキ警告灯が消灯します。

**注 意 !**

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。さらに前輪の下り側を歩道方向に向けてください。

**警 告** 

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

**知 識**

パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

## ブレーキ

**警　告** 

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり、停車できなくなるおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

**注　意！**

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-8）**をご覧ください。

### (!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後やエンジンスイッチが**1**の位置のときは、パーキングブレーキを効かせていると点灯したままになります。

エンジンがかかっているときやエンジンスイッチが**1**の位置のときに、パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液の量が減っています。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

## EBV

EBV(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

**警　告** 

EBVに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、後輪がロックするおそれがあります。路面の状況にあわせて慎重に運転してください。

## ML 63 AMGのブレーキの注意事項

ML 63 AMGの高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、ML 63 AMGのブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

**注　意　!**

- ML 63 AMGのブレーキパッドは、目安として走行距離が数百kmを超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百kmを超えるまでは注意してください。
- ML 63 AMGのブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

## ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

**警　告** 

- ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなることがあります。

**注　意　!**

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

  ◇ 雪の積もった路面や凍結した路面

  ◇ 砂利道などの荒れた路面

  ◇ 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面

  ◇ スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。

## ABS

**知　識**

- ABSが作動するとブレーキペダルに振動を感じますが異常ではありません。そのまましっかりとブレーキペダルを踏み込んでください。
- 路面の状況に関わらず、ABSは速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSに異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなることがあります。

  ◇ ESP

  ◇ BAS

  ◇ ETS

- ABSに異常があると、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリー電圧が低下するとABSが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。
- 雪の積もった路面や凍結した路面では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着してください。タイヤのグリップが失われた状況では、ABSの効果は発揮されません。

### ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABS、BAS、ETS、ESPは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

**注 意 !**

- マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-3)をご覧ください。
- ABSに異常があると、急ブレーキ時にタイヤがロックしてステアリング操作が効かなくなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

## オフロードABS

オフロードABSは、未舗装路やぬかるみなどの悪路でブレーキを踏んだときにフロントタイヤを強制的にロックさせ、制動力を向上させるオフロード専用のシステムです。

オフロードABSは、オフロード・ドライブ・プログラム＊(5-65)を作動させたとき、またはローレンジ＊(5-83)にしたときに、約30km/h以下の速度でブレーキを強く踏むと自動的に作動します。

**警 告**

- オフロードABSは未舗装路、ぬかるみなどの悪路でのブレーキ時の制動力を高める装備で、無謀な運転から事故を防ぐものではありません。オフロードABSが適切に作動しても、制動力には限界があります。
- オフロードABSの作動時は、フロントタイヤがロックするため車の操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。慎重に運転することを心がけてください。



＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

**警　告** 

- BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BASに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

**知　識**

- BASに異常があると、ABSも正しく作動しなくなることがあります。
- BASに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、通常のブレーキは作動します。
- バッテリー電圧が低下するとBASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

**注　意　!**

マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-3）**をご覧ください。

## ETS

ETSは、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

この車には、4輪駆動システムのために専用に開発された4-ETSが装備されています。

**警　告**

- ETSは駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETSが適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- ETS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

### ESP / ETS表示灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ETSが作動しています。

ETSに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されます。（10-4）をご覧ください。

**知　識**

ABS警告灯が点灯しているときは、ETSも作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

## ETS

**警　告** 

ESP / ETS表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能の解除

**注　意！**

- 指定されたサイズ以外のタイヤを装着すると、ETSが正しく機能しないことがあります。
- エンジンをかけた状態で前輪または後輪を上げてけん引しないでください。
- ブレーキダイナモ上でパーキングブレーキを点検するときは、約10秒以内にしてください。また、エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- ローラーダイナモ上では車輪を動かさないでください。

**知　識**

ブレーキに大きな負荷がかかりブレーキが過熱すると、ブレーキの保護のため、ETSが一時的に解除されます。また、このときESP / ETS表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。

### オフロードETS

オフロードETSは、オフロード・ドライブ・プログラム＊（5-65）を作動させたとき、またはローレンジ＊（5-83）にしたときに、ETSの作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ESP®

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個別のタイヤにブレーキをかけたりエンジンの出力を制限して、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

この車には、4輪駆動システムのために専用に開発された4-ESPが装備されています。

**警　告** 

- ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

### ESP / ETS表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESPが作動しています。

ESPオフスイッチでESPの機能を解除**（5-47）**しているときは、点灯したままになります。

マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-4）**をご覧ください。

**知　識**

ABS警告灯 が点灯しているときは、ESPも作動しません。指定サービス工場で点検を受けてください。

## ESP

**警　告** 

ESP / ETS表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能の解除

**注　意！**

- ブレーキダイナモ上でパーキングブレーキを点検するときは、約10秒以内にしてください。また、エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- ローラーダイナモ上では車輪を動かさないでください。
- 指定されたサイズ以外のタイヤを装着すると、ESPが正しく機能しないことがあります。

**知　識**

エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイにESPに関する警告メッセージが表示され、ESP / ETS表示灯やABS警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを**0**の位置に戻し、エンジンを再始動してください。

しばらく走行すると、警告メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

## オフロードESP

オフロードESPは、オフロード・ドライブ・プログラム＊（5-65）を作動させたとき、またはローレンジ＊（5-83）にしたときに、ESPの作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

未舗装路やぬかるみなどの悪路でアンダーステアやオーバーステアが起こり車が不安定な状況になると作動し、車両操縦性や走行安定性を確保しようとします。

## ESPオフスイッチ

① ESPオフスイッチ

ESPオフスイッチは、ESPの機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

### ESPの機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESPオフスイッチ①を押します。

ESPの機能が解除され、メーターパネルのESP / ETS表示灯が点灯したままになります。

### ESPを待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度ESPオフスイッチ①を押します。

ESPが待機状態になり、メーターパネルのESP / ETS表示灯が消灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ESP

### 警　告

ESPオフスイッチでESPの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

### 注　意　!

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ESPが故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障／警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

### 知　識

- エンジンを始動したとき、ESPは常に待機状態になります。
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP／ETS表示灯が点滅しますが、ESPは作動しません。

  ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESPは自動的に作動します。
- ABSに不具合が生じたときは、ESPの機能も解除されます。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります（走行中にESP／ETS表示灯が点滅したままになります）。

## 4MATIC

4MATICは、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする4輪駆動システムです。

**警　告** 

- 4MATICは車両操縦性や走行安定性を高める装備で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4MATIC車でも、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。
- 運転時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 滑りやすい路面などでいずれかのタイヤが空転したときは、アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

  ◇ 急ハンドル

  ◇ 急ブレーキ

  ◇ 急発進、急加速

  ◇ 急激なエンジンブレーキ

**注　意　!**

- 4MATIC車であっても雪道や凍結路などでは、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着し、速度を控えめにし、車間距離を十分確保して運転してください。スノーチェーンは後輪に装着してください。
- ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約10秒以内にしてください。また、エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず2軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

## オフロードでの走行

車の特性や操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。

オフロードを走行する前に以下の注意をよくお読みください。

**環　境**

環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

## オフロードを走行する前に

- タイヤの溝の深さと空気圧を点検してください（8-18）。損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。バルブキャップが紛失している場合は、取り付けてください。
- リムが歪んでいたりホイールに損傷がある場合は交換してください。
- ブレーキに泥汚れがないか確認してください。緊急時に十分なブレーキ力が得られないおそれがあります。
- エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が少ないときは必ず補給してください（8-9）。
- ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにけん引用ケーブルや折りたたみ式スコップなどを車に積んでおいてください。
- 荷物が確実に収納されていること、または確実に固定されていることを確認してください。
- ドアウインドウとスライディングルーフ＊が閉じていることを確認してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### オフロードを走行するとき

▶ 停車して、必要に応じてオフロード･ドライブ･プログラム＊ (5-65) を作動させるか、ローレンジ＊ (5-83) にしてください。

▶ レベルコントロール＊で車高を上げ、十分な最低地上高を確保してください (5-69、79)。

- 地形や路面の状況が把握できないときや視界の悪いときは、走行する前に車から降りて、危険がないことを確認してください。
- 上りはじめと終わりは、なだらかな斜面を選択して走行してください。
- 斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングをまわし、姿勢を立て直してください。
- シフトポジションを N にしたままで走行しないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで車速を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
- 車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
- クルーズコントロールを使用しないでください。
- 高低差のある段差を乗り越える場合は、左右両輪で乗り越えてください。片輪で乗り越えると車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
- できるだけわだちから外れないように走行してください。
- 坂道はできるだけまっすぐに上り、まっすぐに下りてください。
- 低速でスムーズに走行し、常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- アクセルペダルはゆっくり踏み込み、タイヤを空転させないようにしてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 坂を上るとき

▶ 必要に応じて、オフロード・ドライブ・プログラム＊を作動させるか、ローレンジ＊にしてください。

▶ 必要に応じてセンターディファレンシャルやリアディファレンシャルをロック＊してください（5-86）。

▶ 坂の勾配に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（5-11）。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

**知　識**

- 坂が急勾配で上り切れない場合は、Uターンせず、シフトポジションを R にして後退して下りてください。
- 急な坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストが作動し、発進を補助します。詳しくは（5-64）をご覧ください。
- 急勾配の坂で前輪の荷重が不足したときは、前輪は空転しやすくなります。このような状況を検知するとETSが作動し、自動的にブレーキ制御を行ないます。これにより後輪へのトルク配分が増えて登坂能力が増します。詳しくは（5-43）をご覧ください。

### 坂を上り切ったとき

▶ 坂を上り切る直前にアクセルペダルをゆるめ、車の惰性を利用して上ってください。

これにより、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。また、速度が上がりすぎないようにして下り坂に備えることもできます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 坂を下るとき

▶ 坂の勾配に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（5-11）。

▶ DSRを作動させてください（5-59）。DSRによる制動力が不十分なときは、前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認して、慎重にブレーキペダルを踏んでください。

- 速度を上げないでください。
- 滑りやすい急な下り勾配を走行するときは、エンジンブレーキを効果的に効かせながら車を横滑りさせないように、注意深くブレーキペダルを踏み込んでください。
- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキを点検してください。

**知　識**

オフロード・ドライブ・プログラム＊を作動させたときやローレンジ＊にしたときは、自動的にオフロードABSになり、悪路での制動力を高めます（5-41）。

**注　意　！**

オフロードABSが作動してホイールがロックしたときは、車両操縦性が著しく低下します。注意して走行してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## オフロードでの走行

### 河川などを渡るとき

▶ オフロード・ドライブ・プログラム＊を作動させるか、ローレンジ＊にしてください。

▶ レベルコントロール＊で、車高をオフロードレベル3に上げてください **(5-74)**。

▶ 必要に応じてセンターディファレンシャルやリアディファレンシャルをロック＊してください。

▶ ティップシフトで D1 か D2 を選択してください。

▶ エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

- やむを得ず河川などを渡るときは、走行前に水深と川底の状況を確認してください。
- 安全な場所でテスト走行をしてください。最大許容水深値 **(5-55)** を超えるところは絶対に走行しないでください。
- 河川を渡っている途中でドアを開かないでください。浸水すると、内装や電気装備を損傷するおそれがあります。
- 人が歩くくらいの速度で、水深の浅い場所を選択し、渡ります。水に入るときは速度を上げないでください。波が立ちエンジンや車体を損傷するおそれがあります。
- 波が立たないようにゆっくりと一定の速度を保って走行してください。
- 河川を渡っている途中でシフト操作をしたり、車やエンジンを停止させないでください。水の中は抵抗が大きいため、発進が困難になります。
- 河川の流れに対して直角または下流方向へ横断してください。
- 河川を渡った後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。また、タイヤの溝を洗浄してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 最大許容水深値

① 最大許容水深値

レベルコントロール装備車 / 非装備車では最大許容水深値が異なります。

レベルコントロール＊については（5-69、79）をご覧ください。

| | | |
|---|---|---|
| レベルコントロール非装備車 | | 50cm |
| レベルコントロール装備車 | | |
| | オフロードレベル3 | 60cm |
| | オフロードレベル2 | 50cm |
| | オフロードレベル1 | 50cm |
| ML 63 AMG | | |
| | 車高を上げたとき | 50cm |

※上記の数値は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更される場合があります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## オフロードでの走行

### アプローチ / デパーチャーアングル

① アプローチアングル（フロント）
② デパーチャーアングル（リア）

レベルコントロール装備車 / 非装備車、AMGスポーツパッケージ装着車 / 非装着車ではアプローチアングル / デパーチャーアングルが異なります。

レベルコントロール＊については（**5-69、79**）をご覧ください。

| | アプローチアングル（フロント） | デパーチャーアングル（リア） |
|---|---|---|
| レベルコントロール非装備車 | 約27° | 約26° |
| AMGスポーツパッケージ装着車 | 約22° | 約26° |
| レベルコントロール装備車 | | |
| オフロードレベル3 | 約33° | 約30° |
| オフロードレベル2 | 約31° | 約29° |
| オフロードレベル1 | 約28° | 約26° |
| 通常走行レベル | 約25° | 約24° |
| ML 63 AMG | | |
| 車高を上げたとき | 約25° | 約27° |
| 通常走行レベル | 約20° | 約22° |

※上記の数値は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更される場合があります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 障害物を乗り越えるとき

木の切り株や大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下の注意に従ってください。

▶ オフロード・ドライブ・プログラム＊を作動させるか、ローレンジ＊にしてください。

▶ 必要に応じてセンターディファレンシャルやリアディファレンシャルをロック＊してください。

▶ ティップシフトでギアレンジを D1 に選択してください。障害物の大きさを確認してください。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

- 障害物に対して直角になるようにして、まず前輪で障害物の中央を乗り越え、次に後輪で乗り越えてください。障害物の端のほうを乗り越えると、横滑りするおそれがあります。
- 障害物により車の底部や車体、駆動部を損傷させないように注意してください。
- 同乗者がいるときは、車外から誘導してもらってください。

## 砂地を走行するとき

▶ レベルコントロール＊で、車高を上げてください。

▶ 必要に応じてセンターディファレンシャルやリアディファレンシャルをロック＊してください。

▶ 状況に合わせてティップシフトでギアレンジを選択してください。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、やや速度を上げて走行してください。

- 砂地では車が埋まらないよう、やや速度を上げて走行してください。
- 他の車が残した浅いわだちをなぞって走行してください。このときは、わだちの深さと固さに注意してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### わだちを走行するとき

▶ オフロード・ドライブ・プログラム＊を作動させるか、ローレンジ＊にしてください。

▶ レベルコントロール＊で、車高を上げてください。

▶ 必要に応じてセンターディファレンシャルやリアディファレンシャルをロック＊してください。

▶ ティップシフトでギアレンジを D1 に選択してください。

▶ エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

- わだちと車の底部との間に十分な余裕があることを確認してください。
- わだちが深い場合は、左右どちらかの車輪をわだちの間に乗せて走行してください。車の底部が地面に接触し、タイヤが地面から離れて走行不能になるおそれがあります。

### オフロードを走行した後に

オフロード走行後は、車を点検することをお勧めします。

▶ オフロード・ドライブ・プログラム＊を解除するか、ローレンジからノーマルレンジ＊にしてください。

▶ レベルコントロール＊で、路面に適した車高にしてください。

▶ DSRを解除してください。

▶ ヘッドランプやテールランプなどを洗浄し、損傷がないか点検してください。

▶ ライセンスプレートを洗浄してください。

▶ ホイールやホイールハウス、ボディ底部、タイヤをスプレーガンなどで洗浄し、タイヤに挟まった異物を取り除いてください。

▶ 車の底部、タイヤ、ボディ、ステアリング、駆動系部品、排気系部品などに損傷がないか点検してください。

▶ 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系部品、ブレーキホース、アクスルジョイントやドライブシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。

▶ ぬかるみ、砂の上、水の中を走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、掃除してください。

▶ 走行中に強い振動を感じる場合は、ホイールの隙間などに異物がかみ込んでいないか点検してください。

車の損傷は乗り心地を悪化させ、事故の原因になります。指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## DSR

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）は、下り坂を走行するときに自動的にブレーキを作動させ、設定した速度を維持しようとするシステムです。

下り坂の勾配が急になるほどブレーキの効き具合は強くなり、勾配がゆるくなるとブレーキの効き具合は弱くなります。

勾配のない路面でも作動しますが、必ず下り坂を走行するときに使用してください。

設定できる速度は6km/hから18km/hの間です。

**警　告** 

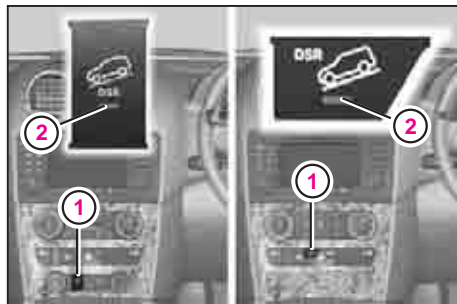
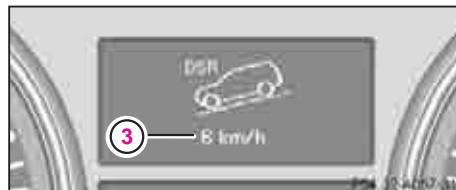
DSR使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

**知　識**

DSRが作動していても、アクセルペダルを踏むと車は加速します。またブレーキペダルを踏むと、車は減速します。

**注　意！**

- DSRの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- 極端な下り坂などでDSRが設定速度を維持できないときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。
- DSRは必ず下り坂を走行するときに使用してください。路面の勾配にかかわらず作動しますので、路面や周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにDSRに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-10）をご覧ください。

## DSRの作動と解除

（左）オフロードパッケージ装備車
（右）オフロードパッケージ非装備車、
ML 63 AMG
① DSRスイッチ
② 表示灯

③ 設定速度
（設定速度が6km/hのとき）

### DSRを作動させる

▶ エンジンがかかっていて走行速度が約30km/h以下のときに、DSRスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯し、マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面にDSRインジケーター⑤が表示されます。

また、マルチファンクションディスプレイに設定速度③が数秒間表示されます。

④ 設定速度
⑤ DSRインジケーター

その後、マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に設定速度④が表示されます。

約30km/h以上の速度で走行していて、DSRを作動させようとしたとき

**知 識**

約30km/h以上の速度で走行しているときはDSRを作動させることができません。このときはマルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されます。

## DSRを解除する

▶ DSRスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯し、マルチファンクションディスプレイに"DSR ｵﾌ"と数秒間表示されます。

車両情報サブ画面の設定速度④とDSRインジケーター⑤も消灯します。

**注 意 !**

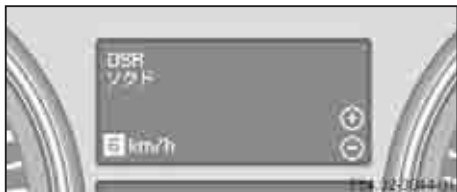
DSRを解除するときは周囲の状況に注意してください。急な下り坂を走行しているときにDSRを解除すると、自動で作動しているブレーキが解除され速度が上昇し、事故を起こすおそれがあります。

**知 識**

- エンジンを停止すると、DSRは解除されます。
- 走行速度が約35km/h以上になるとDSRは自動的に解除されます。このときは警告音とともにマルチファンクションディスプレイに"DSR ｵﾌ"と表示されます。



※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

## マルチファンクションディスプレイでDSRの速度を設定する

DSR設定画面

マルチファンクションディスプレイでDSRの速度を設定することができます。

設定できる速度は6km/hから18km/hの間です。

**知　識**

マルチファンクションディスプレイで設定したDSRの速度は、エンジンスイッチからキーを抜いても消去されません。

### 速度を設定する

▶ マルチファンクションディスプレイにDSR速度設定画面を表示させます（4-50）。

▶ ステアリングの＋を押します。

2km/h単位で設定速度が上がります。

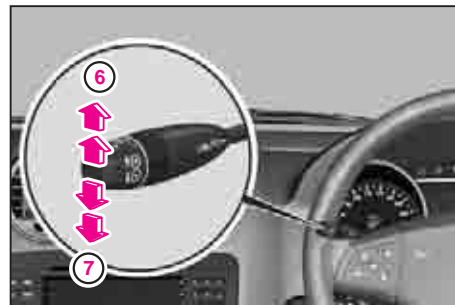
または

▶ ステアリングの－を押します。

2km/h単位で設定速度が下がります。

**注　意　！**

走行中はマルチファンクションディスプレイでDSRの設定を行なわないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。必ずレバーで設定を行なってください。

## レバー操作でDSRの設定速度を変更する

⑥ 設定速度を上げる
⑦ 設定速度を下げる

DSRを作動させているときは、レバーでDSRの設定速度を一時的に変更することができます。

この変更によって設定できる速度は4km/hから18km/hの間です。

**知　識**

レバーで設定したDSRの速度は、エンジンを停止すると消去されます。次にエンジンを始動したときは、マルチファンクションディスプレイで設定した速度になります。

**設定速度を上げる**

▶ レバーを⑥の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを⑥の方向にいっぱいまで操作します。

設定速度が、

- 10km/h以下のときは
→10km/h→18km/hに
- 10km/h以上のときは
→18km/hに

設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

**知　識**

設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、サブ画面に表示されます。

**設定速度を下げる**

▶ レバーを⑦の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを⑦の方向にいっぱいまで操作します。

設定速度が、

- 10km/h以上のときは
→10km/h→4km/hに
- 10km/h以下のときは
→4km/hに

設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

**知　識**

設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、サブ画面に表示されます。

## ヒルスタートアシスト

上り坂での発進時に車が後退するのを防ぎ、発進を容易にします。

また、上り坂を後退して登るときの発進時の前進も防ぎます。

**警　告** 

ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。

### ヒルスタートアシストを作動させる

▶ 上り坂での発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ヒルスタートアシストが自動的に約1秒間ブレーキを効かせ、車が後退するのを防ぎます。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESPが故障して解除されているとき

## オフロード・ドライブ・プログラム＊

悪路や冠水路などを走行するときは、オフロード・ドライブ・プログラムを作動させてください。

エンジンの出力特性やギアシフトのタイミング、ABS、ESP、ETSなどの制御が、オフロード走行に適したものになります。

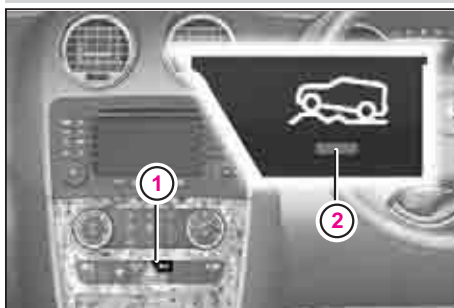
**注　意　！**

積雪路や凍結路を走行するときやスノーチェーンを装着しているときは、オフロード・ドライブ・プログラムを作動させないでください。

**知　識**

- オフロード・ドライブ・プログラムを作動させているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれることがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、設定内容は記憶されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### オフロード・ドライブ・プログラムスイッチでの操作＊

① オフロード・ドライブ・プログラムスイッチ
② 表示灯

#### オフロード・ドライブ・プログラムを作動させる

▶ エンジンスイッチが**2**の位置のときに、オフロード・ドライブ・プログラムスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に、オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター③が表示されます。

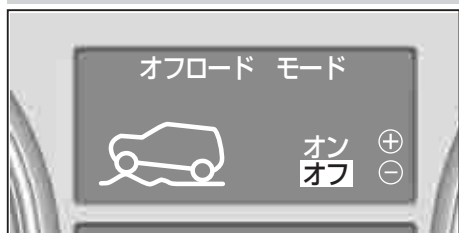
③ オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター

#### オフロード・ドライブ・プログラムを解除する

▶ エンジンスイッチが**2**の位置のときに、オフロード・ドライブ・プログラムスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面のオフロード・ドライブ・プログラムインジケーター③が消灯します。

### マルチファンクションディスプレイでの操作＊

**オフロード・ドライブ・プログラムを作動させる**

▶ マルチファンクションディスプレイに、オフロードモード設定画面を表示させます（4-24）。

▶ ＋ を押して、"オン"を反転表示にします。

① オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に、オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター①が表示されます。

**オフロード・ドライブ・プログラムを解除する**

▶ マルチファンクションディスプレイに、オフロードモード設定画面を表示させます（4-24）。

▶ ー を押して、"オフ" を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面のオフロード・ドライブ・プログラムインジケーター①が消灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## AIRマティックサスペンション（オフロードパッケージ装備車）

AIRマティックサスペンションは、運転のスタイルや路面状況などに応じて、サスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。

また、サスペンションモード選択スイッチで3種類のモードを選択したり、車高調整スイッチで車高を4つのレベルに調整できます。

このシステムは以下の2つにより構成されています。



## ADS

ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）は、AIRマティックサスペンションの機能の一部です。

サスペンションモード選択スイッチで3種類のサスペンションモードを選択できます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

**警　告** 

サスペンションモード選択スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

## AIRマティックサスペンション（オフロードパッケージ装備車）

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯（スポーツ）
③ 表示灯（コンフォート）

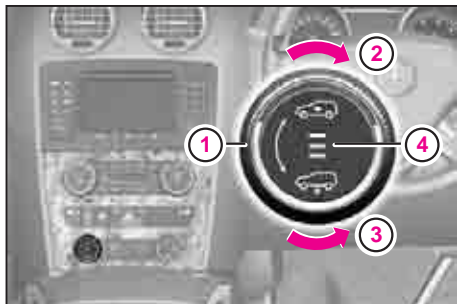
### サスペンションモードを選択する

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードがAUTO→SPORT→COMF→AUTOと切り替わります。

**知　識**

- サスペンションモードがAUTOモードかCOMFモードのときは、走行速度が一定以上になると、車高が下がります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されます。
- いずれかのドアが開いているときは車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

| 点灯する表示灯 | モード | 作動内容 |
|---|---|---|
| 消灯 | AUTO | 通常走行用のモードです。 |
| ② | SPORT（スポーツ） | スポーティな走行に適したモードです。標準より約15mm低い車高になります。 |
| ③ | COMF（コンフォート） | 快適性を重視する走行に適したモードです。 |

## レベルコントロール

① 車高調整ダイヤル
② 車高上昇の方向
③ 車高下降の方向
④ 表示灯

レベルコントロールは、AIRマティックサスペンションの機能の一部です。

悪路などを走行するときは、車高を上げることにより最低地上高を確保することができます。

車高は、車高調整ダイヤル①により、4つのレベルを選択できます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

| 点灯する表示灯の数 | 車高レベル | 車高上昇値 | 設定可能速度 |
|---|---|---|---|
| 0 | **通常走行レベル** | 0mm（標準） | |
| 1 | **オフロードレベル1** | 標準+30mm | ～100km/h |
| 2 | **オフロードレベル2** | 標準+80mm | ～70km/h |
| 3 | **オフロードレベル3** | 標準+110mm | ～30km/h |

## AIRマティックサスペンション（オフロードパッケージ装備車）

**警　告** 

- 車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。
- 通常は、できるだけ低い車高で走行してください。車高が上昇すると、車の重心も上がり、事故を起こすおそれがあります。
- 車高を上昇させたときは、急発進や急加速を避け、慎重に運転操作を行なってください。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

**注　意！**

- 連続して車高を調整しないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。
- 車高を下げるときは、車体の下に十分な空間があることを確認してください。車体を損傷するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-9）をご覧ください。

**知　識**

- 走行中に車高を調整すると、より短い時間で車高調整を完了させることができます。
- 停車中は、リモコン操作で車を解錠したときやドアを開いたときに、積載荷物の重量に応じて車高が調整されることがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、選択した車高レベルは記憶されます。
- いずれかのドアが開いているときは、車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

## マルチファンクションディスプレイの表示

車高レベルの表示

マルチファンクションディスプレイを"車高レベル / オフロード表示" 画面（4-26）にしているときは、車高の上昇 / 下降状態や車高レベルが表示されます。

"オフロード表示" 画面を表示させていないときに、レベルコントロールを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

- 車高をオフロードレベル3以外のレベルにしたときは、マルチファンクションディスプレイの画面は、車高調整が完了した約5秒後に、元の画面に戻ります。

  車高が調整されている途中で、ステアリングスイッチの またはを押すと、他のメニューを選択できます。

- 車高をオフロードレベル3にしたときは、車高調整が完了してもマルチファンクションディスプレイの画面は元の表示に戻りません。

  車高が調整されている途中で、ステアリングスイッチの またはを押すと、そのときの車高がオフロードレベル2以下のときは、他のメニューを選択できます。

**知　識**

設定可能速度以上の速度で車高を調整しようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに"ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼｮｳﾌｶ"と表示されます。

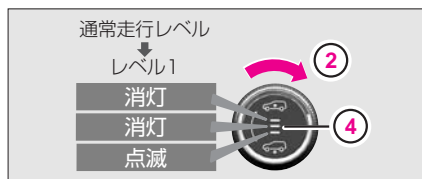
※画面表示などは予告なく変更されることがあります。

# AIRマティックサスペンション（オフロードパッケージ装備車）

## 車高をオフロードレベル1にする

⑤ 車高上昇インジケーター

停車中、または約100km/h以下で走行しているときに設定できます。

▶ 車高が通常走行レベルのときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と"ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ" が表示されます。

⑥ 車高下降インジケーター

▶ 車高がオフロードレベル2、またはオフロードレベル3のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と"ｶｺｳﾁｭｳ" が表示されます。

⑦ 車高インジケーター

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに "ｵﾌﾛｰﾄﾞ ﾀｶｻ 1" と表示され、車高インジケーター⑦が1個点灯します。

また、表示灯④が1個点灯します。

※画面表示などは予告なく変更されることがあります。

## 車高をオフロードレベル2にする

⑤ 車高上昇インジケーター

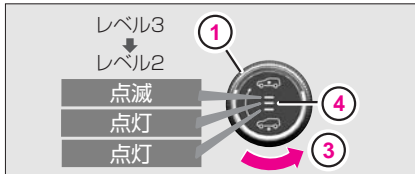
停車中、または約70km/h以下で走行しているときに設定できます。

▶ 車高が通常走行レベル、またはオフロードレベル1のときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と "ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ" が表示されます。

⑥ 車高下降インジケーター

▶ 車高がオフロードレベル3のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と "ｶｺｳﾁｭｳ" が表示されます。

⑦ 車高インジケーター

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに "ｵﾌﾛｰﾄﾞ ﾀｶｻ 2" と表示され、車高インジケーター⑦が2個点灯します。

また、表示灯④が2個点灯します。

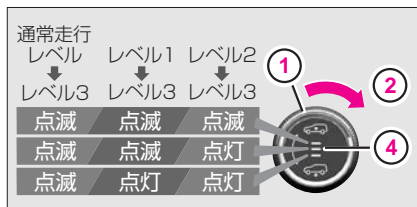
※画面表示などは予告なく変更されることがあります。

# AIRマティックサスペンション（オフロードパッケージ装備車）

## 車高をオフロードレベル3にする

⑤ 車高上昇インジケーター

停車中、または約30km/h以下で走行しているときに設定できます。

▶ 車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

⑦ 車高インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と"ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ"が表示されます。

車高がオフロードレベル2以上になったときは"max.30km/h"と表示されます。

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに"ｵﾌﾛｰﾄﾞﾀｶｻ3"と表示され、表示灯④が3個点灯します。

また、車高インジケーター⑦が3個点灯します。

**警　告** 

一般道では車高をオフロードレベル3にして走行しないでください。重心が高くなり、事故を起こすおそれがあります。

また、以下の内容を守って運転してください。

- オフロードレベル2では走破できないような悪路を走行するときのみ、オフロードレベル3にしてください。
- オフロードレベル3のときは、約30km/h以上の速度で走行しないでください。
- オフロードレベル3にすると、車両操縦性が大きく変化します。急ハンドルや急加速、急ブレーキは避けてください。

※画面表示などは予告なく変更されることがあります。

## オフロードレベルの自動解除

車高がオフロードレベル3のときに約30km/h以上の速度で走行した場合の警告メッセージ

### オフロードレベル3の自動解除

車高がオフロードレベル3のときに走行速度が約30km/hを超えると、警告音とともに左記の警告メッセージが表示されます。

そのままの速度で走行を続けたり、速度を上昇させたときはオフロードレベル3は自動的に解除され、そのときの速度に適した車高に自動調整されます。

> **知　識**
>
> オフロードレベル3で走行しているときに、停車するか速度を下げると、車高が自動調整されることがあります。

### オフロードレベル2の自動解除

車高がオフロードレベル2のときに、約90km/h以上の速度で走行するか、約70〜90km/hの速度で約20秒以上走行すると、オフロードレベル2は自動的に解除され、オフロードレベル1になります。

### オフロードレベル1の自動解除

車高がオフロードレベル1のときに、約115km/h以上の速度で走行するか、約100〜115km/hの速度で約20秒以上走行すると、オフロードレベル1は自動的に解除され、通常走行レベルになります。

ADSのモードがAUTOまたはCOMFのときは通常走行レベルに、SPORTのときはハイウェイレベル**（5-76）**になります。

※画面表示などは予告なく変更されることがあります。

# AIRマティックサスペンション（オフロードパッケージ装備車）

## 車高を通常走行レベルにする

▶ 車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を下図のようにします。

⑥ 車高下降インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と "カコウチュウ" が表示されます。

車高調整が完了すると、点滅していたスイッチの表示灯が消えます。

**知　識**

車高が下がっているときにいずれかのドアを開くと、作動は停止します。開いたドアを閉じると、作動は再開します。

## ハイウェイレベル

ADS（5-67）のモードがAUTOかCOMFのときに、約180km/h以上の速度で走行するか、約160～180km/hの速度で約20秒以上走行すると、車高が約15mm下がります。

速度が約40km/h以下になるか、約40～70km/hの速度で約20秒以上走行すると、車高は通常走行レベルに戻ります。

**注　意　！**

必ず法定速度を守って走行してください。

**知　識**

ADSのモードがSPORTのときは、走行速度にかかわらず、車高はハイウェイレベルになります。

※画面表示などは予告なく変更されることがあります。

## AIRマティックサスペンション（ML 63 AMG）

運転のスタイルや路面状況などに応じて、サスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。

また、サスペンション制御を選択したり、車高を上げることができます。

このシステムは以下の2つにより構成されています。



## ADS

ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）は、AIRマティックサスペンションの機能の一部です。

サスペンションモード選択スイッチで3種類のサスペンションモードを選択することができます。

エンジンがかかっているときに操作することができます。

**警　告** 

サスペンションモード選択スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

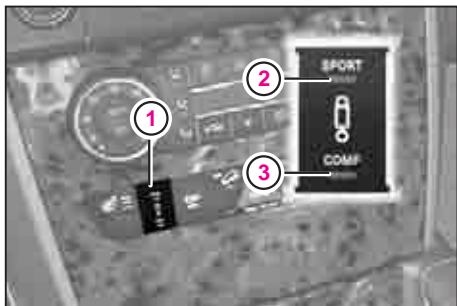
## AIRマティックサスペンション（ML 63 AMG）

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯（スポーツ）
③ 表示灯（コンフォート）

### サスペンションモードを選択する

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードがAUTO→SPORT→COMF→AUTOと切り替わります。

**知　識**

- サスペンションモードがAUTOモードかCOMFモードのときは、走行速度が一定以上になると、車高が下がります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されます。
- いずれかのドアが開いているときは車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

| 点灯する表示灯 | モード | 作動内容 |
|---|---|---|
| 消灯 | AUTO（オート） | 通常走行用のモードです。 |
| ② | SPORT（スポーツ） | スポーティな走行に適したモードです。AUTOモードより約8mm低い車高になります。 |
| ③ | COMF（コンフォート） | 快適性を重視する走行に適したモードです。AUTOモードより約7mm高い車高になります。 |

## レベルコントロール

悪路などを走行するときは、車高を上げることにより最低地上高を確保することができます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

**警　告** 

- 車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。
- 通常は、できるだけ車高を上げないで走行してください。車高が上がると、車の重心も上がり、事故を起こすおそれがあります。
- 車高を上げたときは、急発進や急加速を避け、慎重に運転操作を行なってください。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

**注　意 ！**

- 連続して車高を調整しないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。
- マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-9）をご覧ください。

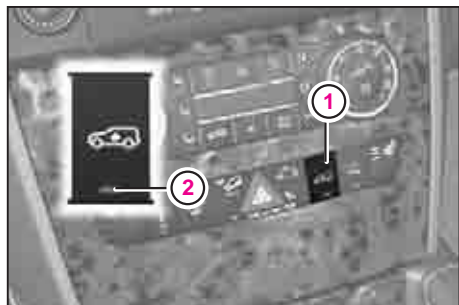
**知　識**

- エンジンスイッチを2の位置にすると、車高調整スイッチの表示灯が点灯します。エンジン始動後は、記憶されている車高に対応して、表示灯が点灯します。
- リモコン操作で車を解錠したときやドアを開いたときに、積載荷物の重量に応じて車高が調整されることがあります。
- 走行中に車高を調整すると、より短い時間で車高調整を完了させることができます。
- サスペンションモードがAUTOモードかCOMFモードで標準の車高のときに、エンジンを停止してリモコン操作で施錠すると、標準の車高より約8mm低い車高になることがあります。

  次にエンジンを始動すると、標準の車高に戻ります。
- マルチファンクションディスプレイを "車高レベル / オフロード" 表示画面（4-26）にしていないときは、車高調整を開始するとオフロード表示画面が表示されます。車高調整が完了した約5秒後に、元の画面に戻ります。

  車高調整の途中で、ステアリングスイッチの または を押すと、元の画面に戻ります。

# AIRマティックサスペンション（ML 63 AMG）

## 車高の調整

① 車高調整スイッチ
② 表示灯

③ 車高上昇インジケーター

### 車高を上げる

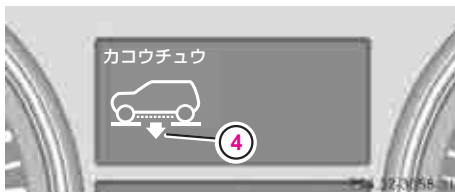
▶ 車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点滅し、車高が上がり始めます。

マルチファンクションディスプレイに、車高上昇インジケーター③と "ｼﾞｮｳｼｮｳ" が表示されます。

車高調整が完了すると、スイッチの表示灯が点灯して、マルチファンクションディスプレイに "ﾚﾍﾞﾙ Hi" と表示されます。

**知　識**

走行速度が約70km/h以上のときは車高を上げることはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼﾖｳﾌｶ" と表示されます。

④ 車高下降インジケーター

**標準の車高に下げる**

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点滅し、車高が下がり始めます。

マルチファンクションディスプレイに、車高下降インジケーター④と "ｶｺｳﾁｭｳ" が表示されます。

車高調整が完了すると、スイッチの表示灯が消灯して、マルチファンクションディスプレイに "AIRﾏﾃｨｯｸ" と表示されます。

**注　意　！**

車高を下げるときは、車体の下に十分な空間があることを確認してください。車体を損傷するおそれがあります。

**知　識**

- 車高を上げた状態で、走行速度が約90km/h以上の速度になるか、走行速度が約７０～90km/hでの走行が約20秒間続くと、標準の車高に下がります。このとき、車種や仕様によりマルチファンクションディスプレイに "ﾚﾍﾞﾙ ｾﾝﾀｸ ｼｮｳｷｮ" と表示されることがあります。
- いずれかのドアが開いているときは、車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

# AIRマティックサスペンション（ML 63 AMG）

## ハイウェイレベル

ADSのサスペンションモードがAUTOモードのときは、走行速度が約140km/h以上になるか、走行速度が約120～140km/hでの走行が約20秒間続くと、車高が下がり、ハイウェイレベルになります。

ADSのサスペンションモードがCOMFモードのときは、走行速度が約180km/h以上になるか、走行速度が約160～190km/hでの走行が約20秒間続くと、車高が下がり、ハイウェイレベルになります。

いずれの場合も、速度が約40km/h以下になるか、約40～70km/hの速度で約20秒以上走行すると、選択されているADSのサスペンションモードに応じた車高に上がります。

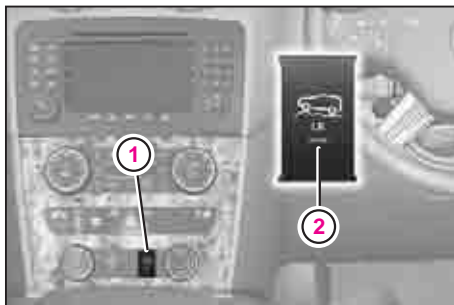
**注 意 ！**

必ず法定速度を守って走行してください。

**知 識**

ADSのサスペンションモードがSPORTモードのときは、走行速度にかかわらず、車高はハイウェイレベルになります。

## ローレンジモード＊

急勾配の道路を走行するときや、河川などを渡るとき、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合はローレンジにします。

① ローレンジスイッチ
② 表示灯

| ギアレンジ | 用途 |
|---|---|
| ノーマルレンジ | 一般道路走行用です。 |
| ローレンジ | 急勾配の道路を走行するときや河川などを渡るときなどに使用します。<br>ノーマルレンジに比べて速度は約1/3になり、強い駆動力が発生します。 |

**注 意 ！**

以下のときはローレンジを使用しないでください。

- ぬかるみなど滑りやすい路面を走行するとき
- 積雪路や凍結路を走行するとき
- スノーチェーンを装着しているとき

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ローレンジモード

③ ローレンジマーク

**注　意　！**

走行モードがMモードのときにローレンジにすると、エンジン回転数が許容回転数に達しても自動的にシフトアップされません。エンジン回転数を上げすぎないように注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

### ローレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約40km/h以下のときに、シフトポジションを**N**にします。

▶ ローレンジスイッチ①を押します。

ギアチェンジの動作が終了すると、作動音が鳴り、スイッチの表示灯②が点灯します。

また、マルチファンクションディスプレイにローレンジマーク③が表示されます。

### ノーマルレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約70km/h以下のときに、シフトポジションを**N**にします。

▶ ローレンジスイッチ①を押します。

ギアチェンジの動作が終了すると、スイッチの表示灯②とマルチファンクションディスプレイのローレンジマーク③が消灯します。

## マルチファンクションディスプレイの警告メッセージ

ギアチェンジの動作が正常に終了していないときは、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

### "max. 40km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ"

走行速度が約40km/h以上のときにローレンジにしようとしています。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ 走行速度を約40km/h以下にして、操作を行なってください。

### "max. 70km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ"

走行速度が約70km/h以上のときにノーマルレンジにしようとしています。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ 走行速度を約70km/h以下にして、操作を行なってください。

### "ﾀﾝｼﾞｶﾝ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ"

走行速度は約40km/h以下(ローレンジにするとき）または約70km/h以下（ノーマルレンジにするとき）になっていますが、シフトポジションがNになっていません。

▶ シフトポジションをNにしてください。

### "ｼﾌﾄﾄﾞｳｻ ｷｬﾝｾﾙ ｻｲｷﾄﾞｳｼﾃｸﾀﾞｻｲ"

何らかの原因でギアチェンジの動作が完了していません。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

### "ﾃｲｼｬ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ"

警告音が鳴ります。

ギアチェンジの動作が完了していません。ギアがニュートラルになっており、エンジンとホイールの間で動力が伝達されていません。

**注　意　！**

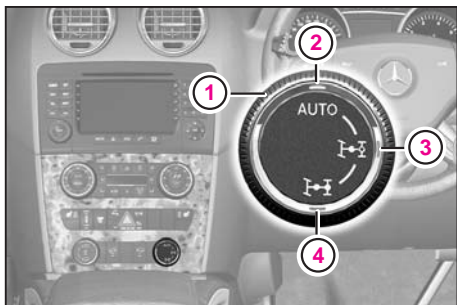
走行を続けないでください。駆動部品を損傷するおそれがあります。

▶ 周囲の状況に注意しながら、停車してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

ギアチェンジの動作が完了すると、警告メッセージが消えます。

## ディファレンシャルロック＊

① ディファレンシャルロックダイヤル

ディファレンシャルロックは、車輪が空転して走行できなくなった場合などに、ディファレンシャルをロックすることにより、空転していない車輪に駆動力を伝え、脱出を容易にする緊急時の装備です。

ディファレンシャルロックは、自動または手動により操作することができます。

| 点灯する表示灯 | モード | 作動内容 |
|---|---|---|
| ② | **AUTOモード** | 状況に合わせてディファレンシャルロックが自動的に作動します。 |
| ③ | **センターディファレンシャルロック** | センターディファレンシャルを手動でロックすることができます。<br>ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトが直結し、前輪または後輪が空転した場合でも駆動力を確保します。 |
| ④ | **センター / リアディファレンシャルロック** | センターディファレンシャルとリアディファレンシャルを手動でロックすることができます。<br>ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトとリア左右のアクスルが直結し、空転していない車輪にも駆動力が伝わります。 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**注 意 !**

ディファレンシャルロックの手動操作は、AUTOモードでは駆動力が不足する場合にのみ行なってください。

**知 識**

- 前輪の駆動力はETSにより、自動的に制御されます。
- ディファレンシャルロックの作動状態は、マルチファンクションディスプレイの "オフロード表示" 画面（4-26）に表示されます。

## AUTOモードにする

▶ エンジンを始動します。

ディファレンシャルロックダイヤル①の表示灯②が点灯します。

▶ 他のモードを選択しているときは、ディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯②を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイを "オフロード表示" 画面（4-26）にしているときは、"ｵｰﾄ" の文字が表示されます。

AUTOモードでは、ディファレンシャルロックは自動的に制御されます。

舗装路面からオフロードまで、様々な路面状況に適した駆動力が発生し、車の旋回時にも影響を与えません。

### センターディファレンシャルをロックする

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態

▶ 約30km/h以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯③を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイを"オフロード表示" 画面 **(4-26)** にしているときは、センターディファレンシャルがロックしたことを示す ● ⑤が表示されます。

AUTOモードから操作したときは、"ｵｰﾄ" の文字が消えます。

### センターデファレンシャルとリアデファレンシャルをロックする

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態

⑥ リアディファレンシャルがロックした状態

▶ 約30km/h以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯④を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイを"オフロード表示" 画面 **(4-26)** にしているときは、センター / リアディファレンシャルがロックしたことを示す ● が2つ⑤⑥表示されます。

AUTOモードから操作したときは、"ｵｰﾄ" の文字が消えます。

約30km/h以上で走行しているときディファレンシャルをロックしようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されます。

**知　識**

- 安全のため、センターディファレンシャルやリアディファレンシャルを手動でロックしているときに走行速度が約50km/hを超えると、自動的にロックが解除されます。
- 他のモードを選択した状態でエンジンを停止し、約10秒以上経過した後にエンジンを再始動するとAUTOモードに切り替わります。

**警　告** 

- 緊急時の脱出以外は、雪道や凍結路でディファレンシャルを手動でロックしないでください。また、ディファレンシャルをロックしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり、事故を起こすおそれがあります。
- ディファレンシャルを手動でロックした状態で舗装路面や表面の固い路面を走行しないでください。また、旋回中にディファレンシャルをロックしたり、ロックを解除しないでください。

  旋回時でも直進しようとする力が強く働き、急激に直進状態に戻ることがあり、事故を起こすおそれがあります。

**注　意　!**

- ディファレンシャルをロックしたときは、アクセル操作やステアリング操作はゆっくり行ない、慎重に運転してください。
- ディファレンシャルをロックするときは、車輪が空転していないことを必ず確認してください。車輪が空転しているときにロックすると車が突然飛び出すおそれがあります。
- 車をシャシーダイナモ上で動かすときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、短時間であっても駆動アクスル以外を持ち上げるか、ドライブシャフトを外してください。このとき、センターディファレンシャルを必ずロックしてください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

## クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

**警　告** 

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

  ◇急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路

  ◇加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路

  ◇雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面

  ◇降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

**注　意　！**

- クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、（10-6）をご覧ください。

**注　意　！**

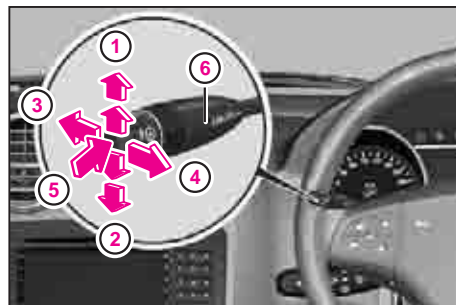
- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

  それでも設定速度を維持できないときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

## クルーズコントロールの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター**（5-97）**、DSR**（5-62）**と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

### クルーズコントロールを設定する

▶ DSRが解除されていることを確認します（5-61）。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か②の方向に操作します。

そのときの速度にクルーズコントロールが設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が数秒間表示されます。

**警　告** 

解除前に設定していた速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速をして事故を起こすおそれがあります。

**知　識**

- 走行速度が約30km/h以下のときや、ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに"---km/h"が数秒間点滅します。
- クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。
- エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

### 設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h単位で設定速度が上がります。

1km/h単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後10km/h単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

### 設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを②の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h単位で設定速度が下がります。

1km/h単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後10km/h単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

**知　識**

レバーを②の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

**注　意　!**

- クルーズコントロールが自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げることがあります。
- レバーを①の方向に操作してクルーズコントロールの設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度に到達するために車が加速することがあります。

## クルーズコントロール

### 一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

### クルーズコントロールの設定を解除する

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に操作します。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

**警　告** 

クルーズコントロールはシフトポジションを N にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

**知　識**

以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- シフトポジションを N にしたとき
- ESPが作動したとき
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき

このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ"と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは自動的に解除されます。

## 可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定速度を超えないように走行することができます。

設定できる速度は30km/hから210km/h、または250km/hの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 車種や仕様により設定できる制限速度が異なります。

**警　告** 

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。

- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

**注　意　！**

- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

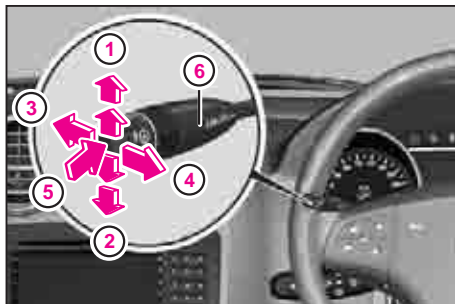
  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの作動を妨げるおそれがあります。
- 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-6）をご覧ください。

**知　識**

- ウィンタータイヤスピードリミッター（4-43）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。
- 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾄｦ　ｺｴﾏｼﾀ"と表示されることがあります。

## 可変スピードリミッターの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方向
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（5-91）、DSR（5-62）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

### 可変スピードリミッターを設定する

▶ DSRが解除されていることを確認します（5-61）。

▶ レバーを①または②の方向に軽く操作します。

- 停車中および走行速度が約30km/h以下のときは30km/hに設定されます。
- 走行速度が約30km/h以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に再度設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、停車中および走行速度が約30km/h以下のときは、30km/hに設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、走行速度が約30km/h以上のときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ 設定速度
⑧ 可変スピードリミッター表示灯

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。

また、メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯⑧が点灯します。

**知　識**

- 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。
- エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 車種や仕様により、走行速度が記憶されている設定速度より約60km/h以上高いときは、記憶されている速度に再度設定することができません。このときはマルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

**注　意　！**

制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

### 設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h単位で設定速度が上がります。

1km/h単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後10km/h単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。設定速度がマルチファンクションディスプレイに数秒間表示され、その後車両情報サブ画面に移動します。

### 設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に軽く操作します。

1km/h単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを②の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h単位で設定速度が下がります。

1km/h単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後10km/h単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。設定速度がマルチファンクションディスプレイに数秒間表示され、その後車両情報サブ画面に移動します。

### 可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に操作します。

次の操作をしたときも解除されます。

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

**注 意 !**

可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

**知 識**

次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき。

  このときは警告音が鳴ります。ただし、走行速度が設定速度より約20km/h以上低いときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

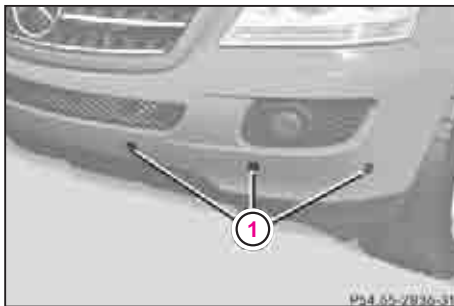
- エンジンを停止したとき。

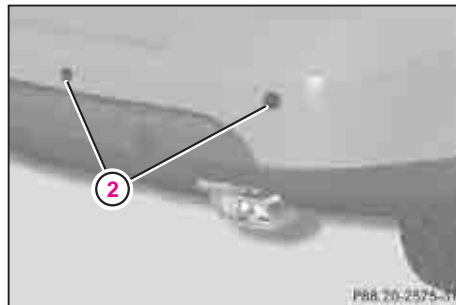
## パークトロニック＊

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

**注　意　！**

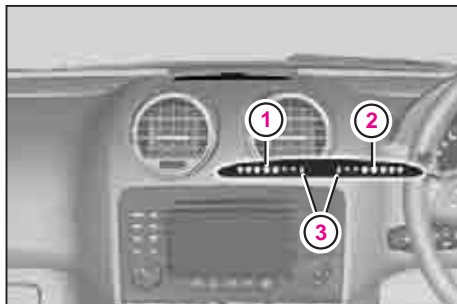
パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

## パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

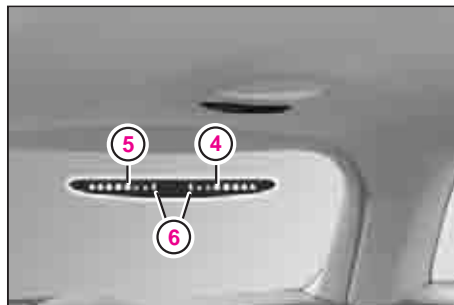
フロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの4個のセンサーが車の周辺の障害物などを感知します。

リア
② センサー

**注　意　！**

- センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約20秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。
- センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ 作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はラゲッジルーム上方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

**注　意　!**

システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約2秒間鳴り、約20秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

**知　識**

エンジンスイッチを**2**の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

### パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが2の位置でパーキングブレーキが解除されているとき、シフトポジションに応じて以下のように作動します。

| シフトポジション | 作動内容 |
|---|---|
| D | フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。 |
| R N | フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯③⑥が点灯します。 |
| P | パークトロニックは作動しません。 |

**知　識**

- パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。
- パークトロニックは、速度が約18km/h以下のときに待機状態になります。速度が約18km/h以上になると機能が解除されます。

## パークトロニックの作動

### センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲（5-104）に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

### 障害物との距離が近くなったとき

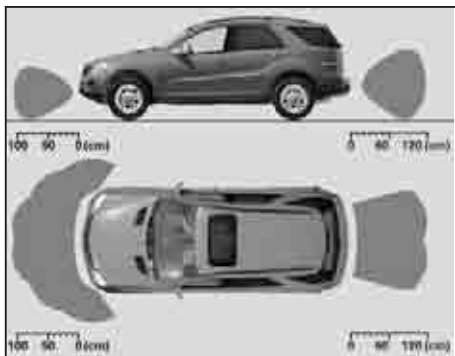
障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて1個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約3秒間鳴ります。

最短感知距離（約20～15cm）になると、上記のインジケーターに加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約3秒間鳴ります。

**注 意 ！**

障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

## センサーの感知範囲

| フロントバンパー側 | センサー感知範囲 |
|---|---|
| 中央 | 約100cm～20cm |
| コーナー | 約60cm～15cm |

| リアバンパー側 | センサー感知範囲 |
|---|---|
| 中央 | 約120cm～20cm |
| コーナー | 約80cm～15cm |

**注 意 ！**

- 車の中央でバンパーから約20cm以内、コーナーでバンパーから約15cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。
- 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離（約30cm）内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。
- センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。
- 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

## パークトロニックの機能の解除

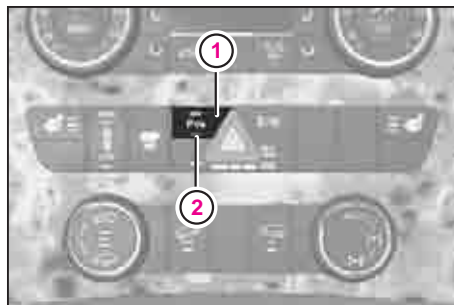
センターコンソールのスイッチで、パークトロニックの機能を解除することができます。

**注　意　!**

システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約2秒間鳴り、約20秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

**知　識**

パークトロニックの機能を解除しても、次にエンジンスイッチを**2**の位置にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

### ML 350 / ML 550

オフロードパッケージ装備車

① パークトロニックオフスイッチ

② 表示灯

### ML 63 AMG

① パークトロニックオフスイッチ

② 表示灯

### パークトロニックの機能を解除する

▶ エンジンスイッチが**2**の位置のとき、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

### パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

## サイドビューカメラ

助手席側ドアミラー下部に装着されたカメラにより、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を、マルチファンクションコントローラーのディスプレイに表示します。

また、ガイドラインにより、カーブなどでの走行を補助します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

**警　告** 

- サイドビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はサイドビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- サイドビューカメラ使用時においても安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- ディスプレイの映像には近くにある障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。ディスプレイの映像だけを見て発進や路肩への幅寄せなどをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

  サイドビューカメラ使用時においても、目視による安全確認を行ないながら運転してください。

**注　意　！**

- 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイド線の示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。
- ボディ側面前方や後方にある物はディスプレイには表示されません。
- 外気温が低いときは、画面が暗くなったり、映像が薄くなることがあります。また、動いている物の映像が歪んだり、画面に表示されないことがあります。

- 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。
- ドアを開閉するときやドアミラーを格納 / 展開するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。
- カメラやカメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。カメラが故障したり、カメラの取り付け位置や角度がずれるおそれがあります。
- ドアミラーやカメラを損傷したり、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかに指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。
- カメラの修理および調整は必ず指定サービス工場で行なってください。お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。
- ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときや、"ガイドできません。オーナーズマニュアルを参照ください" というメッセージが表示されたときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 以下のような場合は、サイドビューカメラは正常に作動しません。
  ◇ 助手席ドアが完全に閉じていないとき
  ◇ 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
  ◇ スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき

◇ 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき

◇ 夜間や暗い場所で使用するとき

◇ カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき

◇ 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）

◇ 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入るときなど）

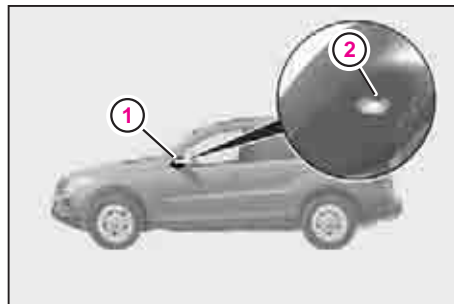
◇ カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）

◇ カメラに泥や汚れが付着したとき

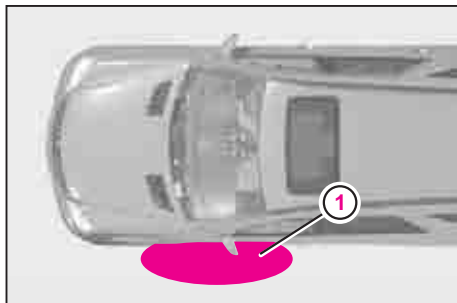
## 洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

## サイドビューカメラの位置

① 助手席側ドアミラー
② サイドビューカメラ

サイドビューカメラ②は助手席側ドアミラー①の下部に装備されています。

## サイドビューカメラの表示範囲

① サイドカメラの表示範囲

サイドビューカメラは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の範囲①を表示します。

## サイドビューカメラの作動

① ONキー
② INFOキー

**サイドビューカメラを作動させる**

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

▶ マルチファンクションコントローラーのONキー①を押します。

▶ INFOキー②を押します。

**知　識**

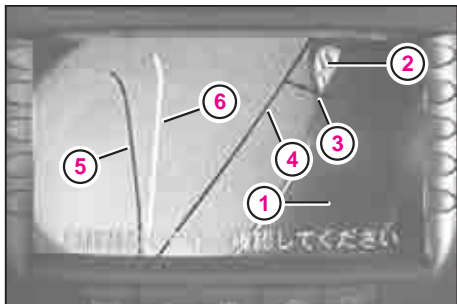
エンジンスイッチが2以外の位置のときにサイドビューカメラを作動させようとすると、マルチファンクションコントローラーのモニターに "サイドカメラは利用できません" と表示されます。

③ "サイドカメラ" ソフトキー

▶ "サイドカメラ" ソフトキー③を押します。

マルチファンクションコントローラーのモニターに、サイドビューカメラの映像とガイドラインが表示されます。

**知　識**

それまでのマルチファンクションコントローラーの操作内容によっては、ONキー①やINFOキー②を押したときに、サイドビューカメラの映像が表示されます。

## サイドビューカメラの映像

① 自車
② 助手席側フロントタイヤ

**知　識**

走行速度が約20km/hを超えると、サイドビューカメラの映像は表示されなくなります。

このときは、ディスプレイに "安全のため、走行中は利用できません。" と表示されます。

走行速度が約18km/h以下になると、サイドビューカメラの映像は再び表示されます。

## ガイドライン

| | |
|---|---|
| ③ | 助手席側フロントホイールの中心位置を表示するガイドラインです。 |
| ④ | 助手席側の車体から約30～35cmの位置を表示するガイドラインです。 |
| ⑤ | ステアリングをいっぱいにまわして曲がったときの、助手席側後輪の軌道の目安を表示するガイドラインです。 |
| ⑥ | 現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側後輪の軌道の目安を表示するガイドラインです。<br>ステアリング操舵角が変化すると、角度が変化します。 |

**知　識**

ガイドライン⑤および⑥は以下のときには表示されません。

- 助手席方向にまわしたステアリング操舵角が約90° 以下のとき
- ステアリングが運転席方向にまわしてあるとき
- シフトポジションがRのとき

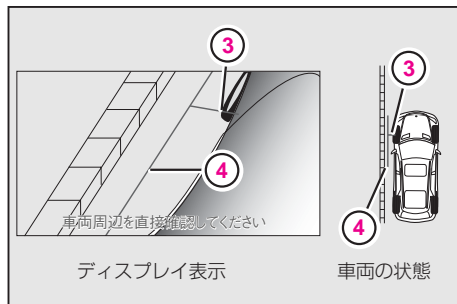
また、以下のときはガイドライン③および④も表示されません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき

  ディスプレイに "助手席側ドアが開いているため、ガイドできません。" と約6秒間表示されます。

- 助手席側ドアミラーが格納されているとき

  ディスプレイに "ドアミラーが格納されているため、ガイドできません。" と約6秒間表示されます。

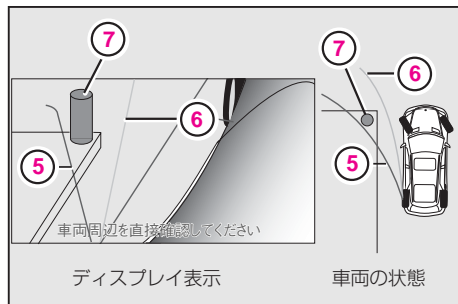
## 路肩などに車を寄せるとき

③ 助手席側フロントホイールの中心を表示するガイドライン（青色）
④ 助手席側の車体から約30〜35cmの位置を表示するガイドライン（青色）

路肩などに車を寄せるときに、車体と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認できます。

▶ 左図のように、ガイドライン④が目標物の端に接するように車両を幅寄せします。

▶ ガイドライン④を目標物と平行にすることで、目標物に沿って駐車できます。

ガイドライン③の位置により、助手席側フロントホイールのおよその位置を知ることもできます。

## 障害物のあるカーブを曲がるとき

⑤ ステアリングをいっぱいにまわして曲がったときの助手席側後輪の軌道目安を表示するガイドライン（青色）
⑥ 現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側後輪の軌道目安を表示するガイドライン（黄色）
⑦ 障害物

**注　意！**

ディスプレイの表示はあくまで目安です。走行するときはディスプレイの表示だけに頼らず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

助手席側に障害物があるカーブを曲がるときに、車体の予想進路と障害物との位置関係の目安を確認できます。

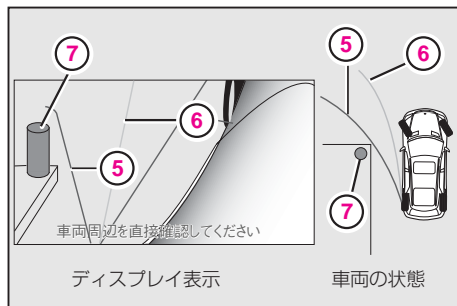
▶ ステアリングを助手席側にまわします。

左図のように、ガイドライン⑥が障害物⑦より外側にくるときは、車体と障害物が接触しない目安になります。

**注　意！**

ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

ただし、よりステアリングを助手席側にまわし、ガイドライン⑥が障害物と重なったり、障害物よりも内側にくると、車体と障害物が接触するおそれがあります

ガイドライン⑥が障害物より外側にくるようにステアリング操舵角を調整して走行してください。

上図のように、ガイドライン⑤が障害物⑦より外側にあるときは、ステアリングをいっぱいにまわして曲がっても、車体と障害物が接触しない目安になります。

**注　意！**

ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

## サイドビューカメラの停止

① ONキー

### サイドビューカメラを停止する

▶ マルチファンクションコントローラーの "ON" キー①を押します。

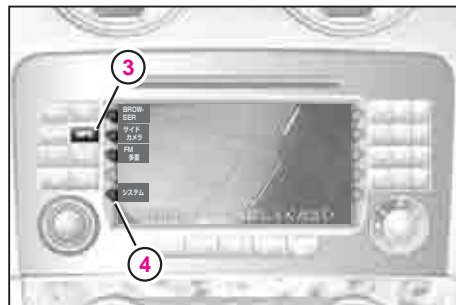
マルチファンクションコントローラーが停止し、ディスプレイも消えます。

## サイドビューカメラ

### 他のモードに切り替える

② INFOキー以外のハードキー

▶ 切り替えたいモードのハードキー②を押します。

選択されたモードがディスプレイに表示されます。

③ INFOキー
④ ソフトキー

または

▶ INFOキー③を押します。

上記の画面が数秒間表示されます。

▶ 切り替えたいソフトキー④を押します。

**知　識**

サイドビューカメラの映像が表示されているときに、シフトポジションを R にすると、パーキングアシストリアビューカメラ（5-115）の表示に切り替わります。

再度、シフトポジションを R 以外にするとサイドビューカメラの表示に戻ります。

## パーキングアシストリアビューカメラ

テールゲートに装着されたカメラにより、車両後方の映像をマルチファンクションコントローラーのディスプレイに表示します。

また、ガイドラインと音声案内により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助します。

**警　告** 

- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はパーキングアシストリアビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

**注　意 ！**

- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。絶対にディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。
- システムの特性上、ディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。ディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を確認してください。
- 乗車人数や荷物の積載量により、パーキングアシストリアビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイド線の示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。
- ディスプレイに表示される物などが歪んだ形状で表示されたり、鮮明に表示されないことがあります。
- リアバンパーの至近距離や下方にある物はディスプレイには表示されません。

  運転者はディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。特に周囲に人や動物がいないことを確認してください。
- カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
- 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

- 車の後部を損傷したときは、すみやかに指定サービス工場でカメラの点検および調整を行なってください。
- ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、指定サービス工場におたずねください。
- パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときは正しく作動しません。

  ◇テールゲートが正しく閉じられていないとき

  ◇カメラやカメラの周囲に損傷があるとき
- テールゲートを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。
- 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

  ◇激しい雨や雪が降っているときや、カメラが汚れているときなど、ディスプレイの映像が見えづらいとき

  ◇積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき

  ◇坂道やカーブなどの平坦または直線でない道路

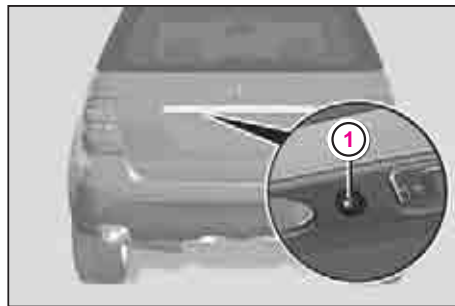
**知　識**

- テールゲートが開いているときにシフトポジションをRにしたときや、パーキングアシストリアビューカメラが作動しているときにテールゲートを開いたときは、パーキングアシストリアビューカメラは作動しません。このときディスプレイに"テールゲートが開いています。 ガイドができません" と表示されます。
- パーキングアシストリアビューカメラを作動させているときに、マルチファンクションコントローラーの他の機能を作動させると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が中断されます。
- マルチファンクションコントローラーに地図ディスクを入れていないときは、音声案内は行なわれません。

- 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。
  - ◇ 夜間や暗い場所で使用するとき
  - ◇ 急激な温度変化があったとき（カメラに冷水や温水がかかったときなど）
  - ◇ カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
  - ◇ カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
  - ◇ 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
  - ◇ 急激な明るさの変化があったとき（ガレージから出入りするときなど）
  - ◇ カメラに水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
  - ◇ カメラに泥や汚れが付着したとき

## 洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷することがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

## カメラの位置

① カメラ

カメラ①はテールゲートハンドルの横に装備されています。

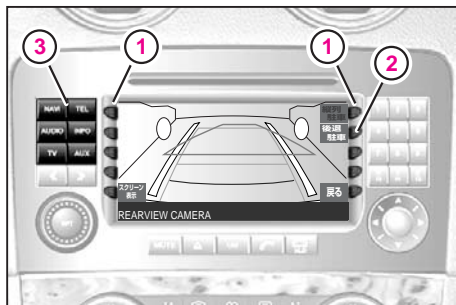
ディスプレイに表示される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

## 後退駐車モード

駐車場の駐車スペースなどに後退するときなどに補助をするモードです。

**注　意！**

- 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。
- 障害物に向かって後退しているときは、0.25mガイドライン⑥を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25mガイドライン⑥まで後退する以前に衝突するおそれがあります。
- ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

### 後退駐車モードにする

① ソフトキー
② "後退駐車" ソフトキー
③ ハードキー

▶ シフトポジションをRにします。

マルチファンクションコントローラーのディスプレイに後方の映像が表示されます。

▶ 縦列駐車モードになっているときは、いずれかのソフトキー①を押します。

左記の画面が表示されます。

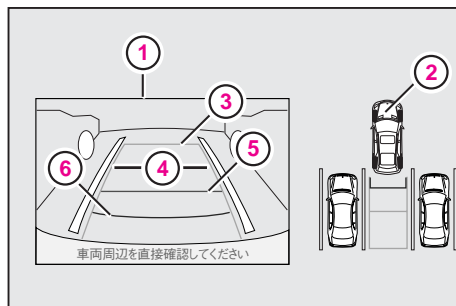
▶ "後退駐車" ソフトキー②を押します。

後退駐車時のガイドラインが表示されます。

**知　識**

マルチファクションコントローラーを使用しているときに後退駐車モードにしたときは、ハードキー③を押すと元のモードに戻ります。

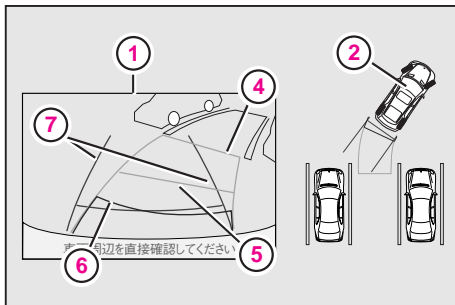
再度パーキングアシストリアビューカメラの映像を表示させるには、シフトポジションを一度R以外にして、再度Rにします。

### ステアリングをまわさないでまっすぐ後退駐車する

① ディスプレイ表示の例
② ①が表示されているときの自車位置
③ 4.0mガイドライン（黄色）
④ 予想進路ガイドライン（黄色）
⑤ 1.0mガイドライン
⑥ 0.25mガイドライン（赤色）

▶ 予想進路ガイドライン④が駐車スペースに収まっていることを確認しながら、まっすぐに後退します。

**注　意 ！**

ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

### ステアリングをまわしながら後退駐車する

① ディスプレイ表示の例
② ①が表示されているときの自車位置
④ 予想進路ガイドライン（黄色）
⑤ 1.0mガイドライン
⑥ 0.25mガイドライン（赤色）
⑦ 直進ガイドライン（青色）

直進ガイドライン⑦は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン④は、そのときのステアリングの角度で車が後退するときの予想進路を示します。

▶ 予想進路ガイドライン④が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

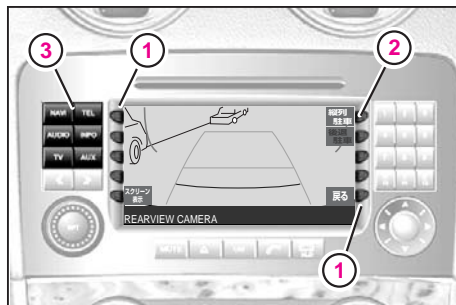
▶ 直進ガイドライン⑦が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

**注　意！**

- ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。
- ステアリングをまわして予想進路ガイドライン④の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

## 縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

### 縦列駐車モードにする

① ソフトキー
② "縦列駐車" ソフトキー
③ ハードキー

▶ シフトポジションをRにします。

マルチファンクションコントローラーのディスプレイに後方の映像が表示されます。

▶ 後退駐車モードになっているときは、いずれかのソフトキー①を押します。

左記の画面が表示されます。

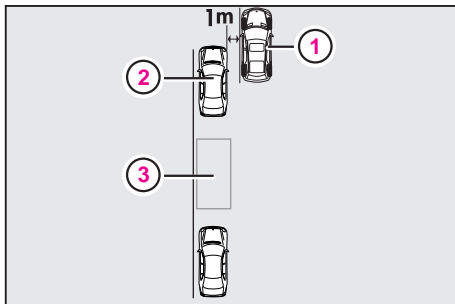
▶ "縦列駐車" ソフトキー②を押します。

縦列駐車時のガイドラインが表示されます。

**知　識**

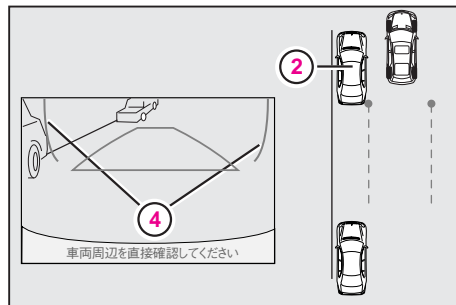
マルチファクションコントローラーを使用しているときに縦列駐車モードにしたときは、ハードキー③を押すと元のモードに戻ります。

再度パーキングアシストリアビューカメラの映像を表示させるには、シフトポジションを一度R以外にして、再度Rにします。

## 縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両②から約1m間隔を空けて平行に、駐車車両②の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。ステアリングは直進状態にします。

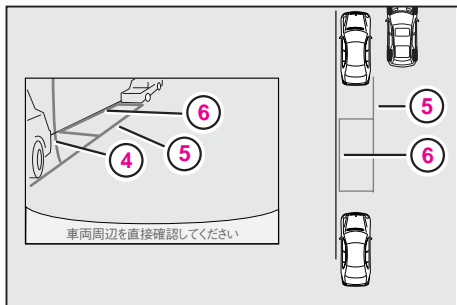
**知　識**

駐車スペース③の前方に駐車車両②がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

② 駐車スペース前方の駐車車両
④ 垂直ガイドライン

▶ 垂直ガイドライン④が、駐車スペース前方の駐車車両②の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン④が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

**注　意！**

- 垂直ガイドライン④が駐車車両②の後端から外れていると、正しい位置に駐車することはできません。
- ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

④ 垂直ガイドライン
⑤ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑥ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車すると、数秒後に駐車位置ガイドライン⑤および⑥が表示されます。

停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑤が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑥が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

**注　意！**

- 駐車位置ガイドライン（道路側）⑤が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。
- 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑥が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。
- ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑥の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑥内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。
- ステアリングをまわしすぎたときは **"ガイドできません ステアリングを戻してください"** と表示されます。

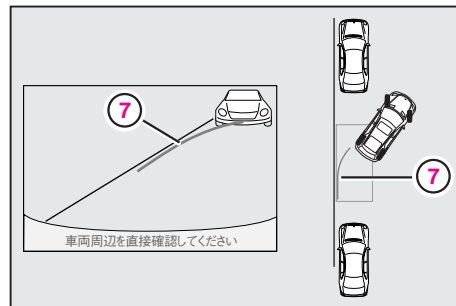
▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑥を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン④、駐車位置ガイドライン（道路側）⑤、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑥が消えます。

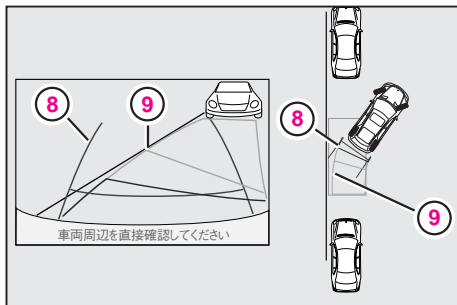
**知　識**

- ゆっくり後退しないと、ガイドが間に合わないことがあります。
- 以下のときはガイドが中止されます。
  ◇シフトポジションを R 以外の位置にしたとき
  ◇"戻る" ソフトキーまたは "後退駐車"ソフトキーを押したとき
  ◇マルチファンクションコントローラーの他の機能を作動させたとき

**注　意！**

- 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。
- 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に **"ガイドできません"** または **"ガイドできませんステアリングがずれました"** と表示されます。
- ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑦ ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン⑦が表示されます。縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン⑦が合うまでステアリングをまわさないで、そのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン⑦が正しい位置に合ったら、停車します。

⑧ 直進ガイドライン（青色）
⑨ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン⑧と予想進路ガイドライン⑨が表示されます。

▶ 直進ガイドライン⑧が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

予想進路ガイドライン⑨と縁石などの駐車スペースの縁が合わないときは、ステアリングで進路を調整してください。

**注　意！**

後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進状態に戻します。

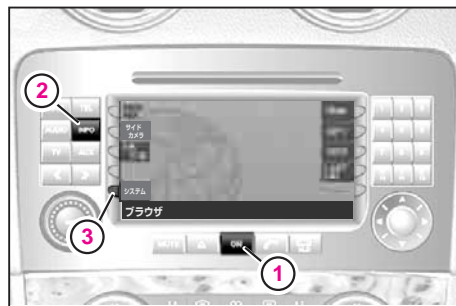
**注　意！**

ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

### 音声案内の切り替え

リアビューアシストカメラ作動時の音声案内を停止 / 作動できます。

**注　意　!**

マルチファンクションコントローラーに地図ディスクを入れていないときは、音声案内は行なわれません。

① ONキー
② INFOキー
③ "システム" ソフトキー

▶ ONキー①を押します。

▶ INFOキー②を押します。

上記の画面が表示されます。

"システム" ソフトキー③を押します。

④ "駐車設定" ソフトキー

システム情報・設定画面が表示されます。

▶ "駐車設定" ソフトキー④を押します。

**知　識**

それまでのマルチファンクションコントローラーの操作内容によっては、INFOキーを押したときにシステム情報・設定画面が表示されます。

⑤ "ON" ソフトキー / "OFF" ソフトキー
⑥ "戻る" ソフトキー

▶ "ON" ソフトキーまたは "OFF" ソフトキー⑤を押します。

**知 識**

音声案内が停止しているときは "ON" が、音声案内が作動しているときは "OFF" が表示されます。

システム情報・設定画面に戻るには、"戻る" ソフトキー⑥を押します。

## エアコンディショナー（ML 350）

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

**環　境**

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**注　意！**

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

**知　識**

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ドアウインドウやスライディングルーフ＊が開いていると、設定温度を維持することができません。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

  フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

## コントロールパネル

| | |
|---|---|
| ① | 送風温度調整ダイヤル<br>（助手席側） |
| ② | AUTOスイッチ |
| ③ | デフロスタースイッチ |
| ④ | 送風量調整スイッチ(強) |
| ⑤ | 送風口選択スイッチ<br>（フロントウインドウ送風口 ／サイド送風口 ／ドアウインドウ送風口） |
| ⑥ | リアエアコンディショナーオフスイッチ |
| ⑦ | 送風温度調整ダイヤル<br>（運転席側） |
| ⑧ | ACスイッチ ／ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ |
| ⑨ | 送風口選択スイッチ<br>（サイド送風口 ／ 中央送風口 ／ ドアウインドウ送風口） |
| ⑩ | 送風口選択スイッチ<br>（足元送風口 ／ サイド送風口 ／ ドアウインドウ送風口） |
| ⑪ | 送風量インジケーター |
| ⑫ | 送風量調整スイッチ(弱) |
| ⑬ | リアデフォッガースイッチ |
| ⑭ | 内気循環スイッチ |
| ⑮ | 室内温度センサー |
| ⑯ | オフスイッチ |

※エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄や配列などは、予告なく変更される場合があります。

# エアコンディショナー（ML 350）

## 通常の使いかた（AUTOモード）

① 送風温度調整ダイヤル（助手席側）
② AUTOスイッチ
⑦ 送風温度調整ダイヤル（運転席側）

### エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTOスイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

▶ 送風温度調整ダイヤル①または⑦をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

### 知　識

- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- 送風温度は左右別々に設定できます。
- リア送風口の送風温度は助手席側の送風温度に連動します。
- AUTOモードでエアコンディショナーを作動させると、自動的にACモード**（6-9）**および外気導入モード**（6-11）**に設定されます。

## エアコンディショナーの停止

⑯ オフスイッチ

### エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑯を押します。

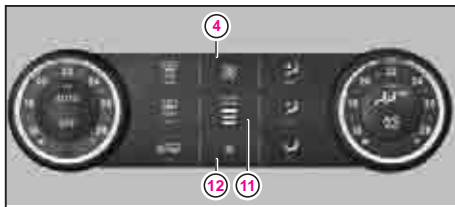
スイッチの表示灯が点灯します。

再度、オフスイッチ⑯を押すと表示灯が消灯し、元の設定で作動します。

**知　識**

ドアウインドウやスライディングルーフ＊が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 送風量の調整

④ 送風量調整スイッチ（強）
⑪ 送風量インジケーター
⑫ 送風量調整スイッチ（弱）

送風量を手動で調整できます。

**送風量を上げる**

▶ 送風量調整スイッチ（強）④を押します。

送風量インジケーター⑪の点灯数が増えます。

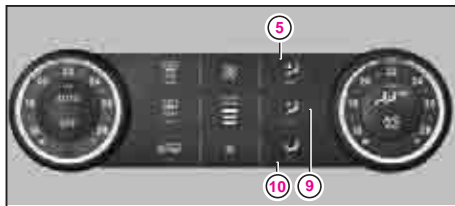
**送風量を下げる**

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑫を押します。

送風量インジケーター⑪の点灯数が減ります。

**知 識**

- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。
- 送風量調整スイッチを操作すると、リア送風口からの送風量も増減します。

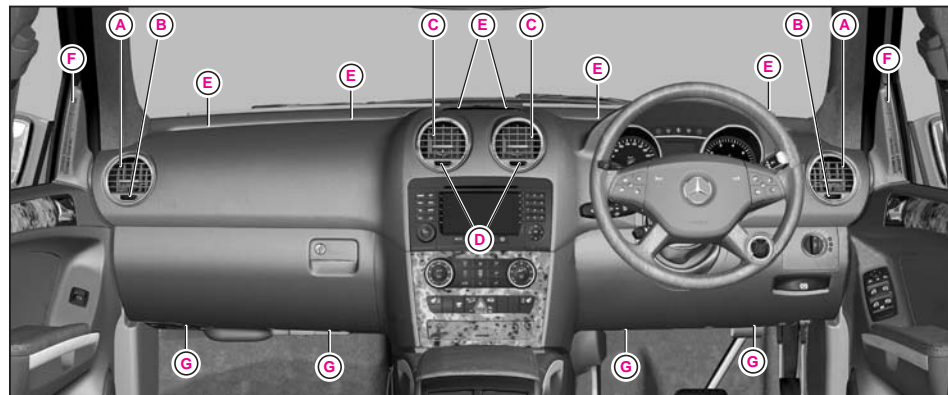
## 送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

### 送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ⑤⑨⑩のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

### 送風口の選択を解除する

▶ 選択されているスイッチを押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

| 送風口<br>選択スイッチ | 主に送風される送風口 |
|---|---|
| ⑤ | フロントウインドウ送風口Ⓔ ドアウインドウ送風口Ⓕ<br>サイド送風口Ⓐ |
| ⑨ | ドアウインドウ送風口Ⓕ 中央送風口Ⓒ サイド送風口Ⓐ |
| ⑩ | ドアウインドウ送風口Ⓕ サイド送風口Ⓐ 足元送風口Ⓖ |

**知 識**

- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、送風口選択のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。

  再度、送風口選択スイッチを押してすべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTOモードに戻ります。
- 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風できます。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

## 送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒを開閉できます。

### 送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

### 送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒷⒹを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

**知 識**

- 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。
- サイド送風口Ⓐを閉じると、ドアウインドウ送風口Ⓕも閉じます。

## 送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは風向きを調整することができます。

### 風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

**知　識**

換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

## ACモード

⑧ ACスイッチ

**環　境**

ACモードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ACモードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

### ACモードを解除する

▶ ACスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

**注　意　!**

ドアウインドウやスライディングルーフ＊が開いているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。

### ACモードを設定する

▶ 再度、ACスイッチを押します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**知　識**

- 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。
- ACスイッチを押したときに表示灯が点滅もしくは消灯したままのときは、エアコンディショナーの冷媒が減っています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ACモードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

## 内気循環モード

⑭ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディングルーフ＊を開閉できます。

### 内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑭を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑭を2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとスライディングルーフが自動で閉じます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように外気導入をはじめます。

| | |
|---|---|
| 外気温度が5℃以上のとき | 約30分後 |
| 外気温度が5℃以下のとき | 約5分後 |
| ACモードを解除しているとき | 約5分後 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ⑭を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑭を2秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが、前回開いていた位置まで自動で開きます。

**注 意 ！**

- ドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

  ウインドウが曇りはじめたときは内気循環モードを解除してください。曇り具合がひどいときはデフロスターモードにしてください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体を引き込まれるおそれがあります。

**知 識**

- 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- ACモードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフを内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

## デフロスターモード

③ デフロスタースイッチ

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

**デフロスターモードに設定する**

▶ サイド送風口が開いていることを確認します **(6-8)**。

▶ デフロスタースイッチ③を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 除湿された空気が送風されます。

**知　識**

送風量は、外気温度により自動的に調整されます。

### デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ③を押します。

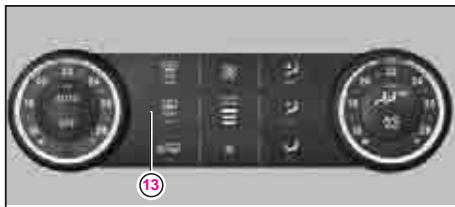
スイッチの表示灯が消灯します。

**知　識**

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスターモードを解除すると、送風量と送風温度、送風口の選択は、デフロスターモードに設定する前の設定に戻ります。
- デフロスターモードを解除すると、ACモードを解除していた場合はACモードに設定されます。ACモードを解除していて内気循環だった場合は、外気導入になります。

### ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウやフロントドアウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りをとるときには、ワイパーを作動させてください。

## リアデフォッガー

⑬ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

**注 意 ！**

- ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

### リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

### リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは約6～20分後に自動的に停止します。

**知 識**

- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

## 余熱ヒーター・ベンチレーション

⑧ 余熱ヒーター・ベンチレーション スイッチ
⑯ オフスイッチ

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

**余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する**

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口の選択や送風温度は自動的に調整されます。

**余熱ヒーターベンチレーションを停止する**

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑧を押します。

または

▶ オフスイッチ⑯を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーション スイッチ⑧の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 使用を開始してから約30分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

**知　識**

- バッテリーを保護するために、送風量は弱の設定で一定に保たれます。
- エンジン冷却水の温度が低いときや外気温度が高いときは、暖気が送風されないことがあります。
- リア送風口からは送風されません。

## リア送風口

リア送風口には、以下の二つの送風口があります。

- センターコンソール後端部のリア中央送風口
- フロントシート下のリア足元送風口

**知　識**

リア送風口の送風温度や送風量は、助手席側のエアコンディショナーの設定に連動します。

ただし、車内温度や外気温度、日射の強さなどによっては、助手席側のエアコンディショナーで設定した送風温度や送風量で送風が行われないことがあります。また、リア中央送風口またはリア足元送風口いずれかからの送風になる場合があります。

## リア送風口からの送風の停止

⑥ リアエアコンディショナーオフスイッチ

フロントのコントロールパネルでリア送風口からの送風を停止できます。

### リア送風口からの送風を停止する

▶ リアエアコンディショナーオフスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

### リア送風口から送風する

▶ 再度、リアエアコンディショナーオフスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

**知　識**

フロントエアコンディショナーの送風量を最大にするときは、リア送風口からの送風を停止してください。

## リア中央送風口の風向き調整

| | |
|---|---|
| ⑰ | リア中央送風口（左側） |
| ⑱ | リア中央送風口（右側） |

リア中央送風口⑰⑱は、風向きを調整できます。

▶ リア中央送風口⑰⑱のノブを上下左右に動かします。

# エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

## エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

**環　境**

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**注　意　！**

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

**知　識**

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ドアウインドウやスライディングルーフ＊が開いていると、設定温度を維持することができません。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

  フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

## コントロールパネル

| | |
|---|---|
| ① | 送風温度調整ダイヤル（助手席側） |
| ② | AUTOスイッチ |
| ③ | 送風口選択スイッチ（助手席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口） |
| ④ | デフロスタースイッチ |
| ⑤ | 送風量調整スイッチ（強） |
| ⑥ | リアデフォッガースイッチ |
| ⑦ | 送風口選択スイッチ（運転席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口） |
| ⑧ | リアエアコンディショナーコントロールスイッチ |
| ⑨ | 送風温度調整ダイヤル（運転席側） |
| ⑩ | オフスイッチ |
| ⑪ | 送風口選択スイッチ（運転席側：足元 / サイド / ドアウインドウ送風口） |
| ⑫ | 送風口選択スイッチ（運転席側：サイド / 中央 / ドアウインドウ送風口） |
| ⑬ | ACスイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ |
| ⑭ | ディスプレイ |
| ⑮ | 送風量調整スイッチ（弱） |
| ⑯ | 内気循環スイッチ |
| ⑰ | 送風口選択スイッチ（助手席側：サイド / 中央 / ドアウインドウ送風口） |
| ⑱ | 送風口選択スイッチ（助手席側：足元 / サイド / ドアウインドウ送風口） |
| ⑲ | 室内温度センサー |
| ⑳ | 運転席モードスイッチ |

※エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄や配列などは、予告なく変更される場合があります。

# エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

## 通常の使いかた（AUTOモード）

① 送風温度調整ダイヤル（助手席）
② AUTOスイッチ
⑨ 送風温度調整ダイヤル（運転席）

### エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTOスイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

▶ 送風温度調整ダイヤル①または⑨をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

### 知 識

- 送風温度は左右別々に設定できます。また、リアエアコンディショナー**（6-35）**の送風温度も独立して設定できます。
- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- AUTOモードでエアコンディショナーを作動させると、自動的にACモード**（6-25）**および外気導入モード**（6-27）**に設定されます。

## エアコンディショナーの停止

⑩ オフスイッチ

### エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑩を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

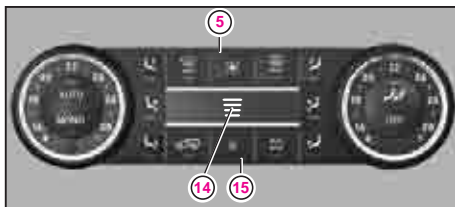
再度、オフスイッチ⑩を押すと、表示灯が消灯し元の設定で作動します。

**注 意 ！**

ドアウインドウやスライディングルーフ＊が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

# エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

## 送風量の調整

⑤ 送風量調整スイッチ（強）
⑭ 送風量インジケーター
⑮ 送風量調整スイッチ（弱）

送風量を手動で調整できます。

**送風量を上げる**

▶ 送風量調整スイッチ⑤を押します。

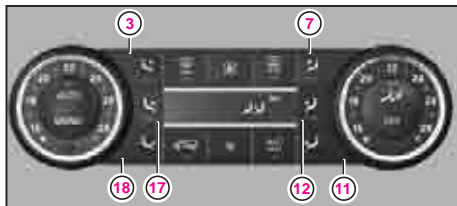
ディスプレイの送風量インジケーター⑭の点灯数が増えます。

**送風量を下げる**

▶ 送風量調整スイッチ⑮を押します。

ディスプレイの送風量インジケーター⑭の点灯数が減ります。

**知　識**

エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。

## 送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

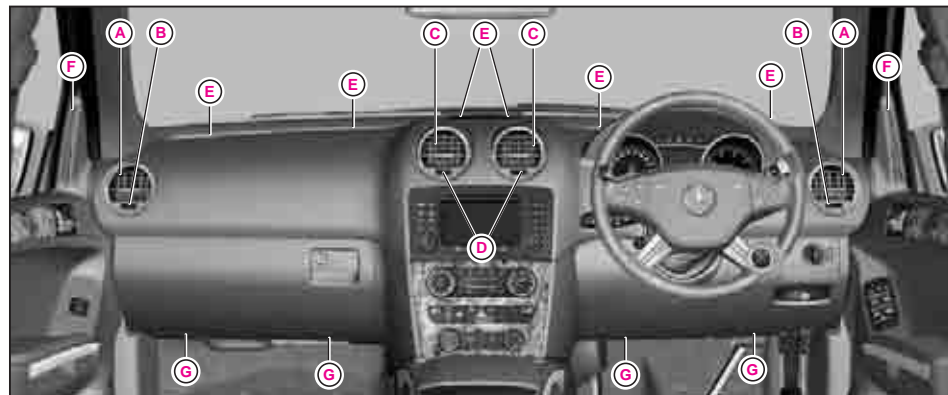
### 送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ③⑦⑪⑫⑰⑱のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

### 送風口の選択を解除する

▶ 選択されているスイッチを押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

| 送風口選択スイッチ | 主に送風される送風口 |
|---|---|
| ③ ⑦ | フロントウインドウ送風口Ⓔ ドアウインドウ送風口Ⓕ サイド送風口Ⓐ |
| ⑫ ⑰ | ドアウインドウ送風口Ⓕ 中央送風口Ⓒ サイド送風口Ⓐ |
| ⑪ ⑱ | ドアウインドウ送風口Ⓕ サイド送風口Ⓐ 足元送風口Ⓖ |

**知　識**

- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、押した側の席の送風口選択のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。

  再度、送風口選択スイッチを押してすべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTOモードに戻ります。
- 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風することができます。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

## 送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒを開閉できます。

### 送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

### 送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒷⒹを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

**知　識**

- 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。
- サイド送風口Ⓐを閉じると、ドアウインドウ送風口Ⓕも閉じます。

## 送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは風向きを調整することができます。

### 風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

**知　識**

換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

## ACモード

⑬ ACスイッチ

**環　境**

ACモードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ACモードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

### ACモードを解除する

▶ ACスイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

**注　意　！**

ドアウインドウやスライディングルーフ＊が閉じているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。

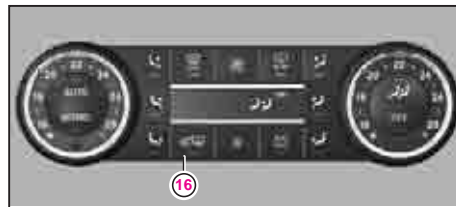
### ACモードを設定する

▶ 再度、ACスイッチを押します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

知　識

- 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。
- ACスイッチを押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーの冷媒が減っています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ACモードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

### 内気循環モード

⑯ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディングルーフ＊を開閉することができます。

### 内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑯を2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとスライディングルーフが自動で閉じます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間を経過すると以下のように外気導入をはじめます。

| | |
|---|---|
| 外気温度が5℃以上のとき | 約30分後 |
| 外気温度が5℃以下のとき | 約5分後 |
| ACモードを解除しているとき | 約5分後 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）**

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑯を2秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが、前回開いていた位置まで自動で開きます。

**注　意　！**

- ドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

  ウインドウが曇りはじめたときは内気循環モードを解除してください。曇り具合がひどいときはデフロスターモードにしてください。

- 内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体を引き込まれるおそれがあります。

**知　識**

- 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- ACモードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフを内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

## デフロスターモード

④ デフロスタースイッチ

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

### デフロスターモードに設定する

▶ サイド送風口が開いていることを確認します（6-24）。

▶ デフロスタースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 除湿された空気が送風されます。

**知　識**

送風量は、外気温度により自動的に調整されます。

### デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

**知 識**

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスターモードを解除すると、送風量と送風温度、送風される送風口は、デフロスターモードに設定する前の設定に戻ります。
- デフロスターモードを解除すると、ACモードを解除していた場合はACモードに設定されます。ACモードを解除していて内気循環だった場合は、外気導入になります。
- デフロスターモードに設定すると、リアエアコンディショナー（6-35）が停止します。

### ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウやフロントドアウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りをとるときには、ワイパーを作動させてください。

# エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

## リアデフォッガー

⑥ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

**注　意　！**

- ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

### リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

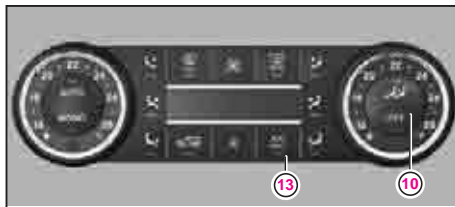
### リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは約6～20分後に自動的に停止します。

**知　識**

- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

## 余熱ヒーター・ベンチレーション

⑩ オフスイッチ
⑬ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

**余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する**

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口や送風温度は自動的に調整されます。

**余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する**

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬を押します。

または

▶ オフスイッチ⑩を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬の表示灯が消灯します。

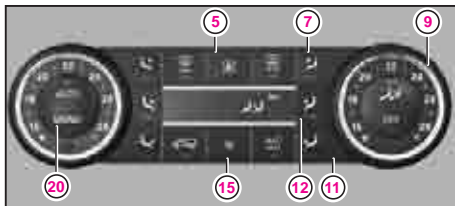
以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 使用を開始してから約30分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

**知　識**

- バッテリーを保護するために、送風量は弱の設定で一定に保たれます。
- エンジン冷却水の温度が低いときや外気温度が高いときは、暖気が送風されないことがあります。
- リア送風口からは送風されません。

# エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

## 運転席モード

⑤⑮　送風量調整スイッチ
⑦⑪⑫　送風口選択スイッチ（運転席側）
⑨ 送風温度調整ダイヤル（運転席側）
⑳ 運転席モードスイッチ

助手席およびリアエアコンディショナーの設定の一部を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席およびリアエアコンディショナーの設定も変更されます。

### 運転席モードに設定する

▶ 運転席モードスイッチ⑳を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

助手席の送風温度および送風口の選択が運転席の設定に連動します。

また、リアエアコンディショナーがAUTOモードで作動し、送風温度の設定が運転席の設定に連動します。

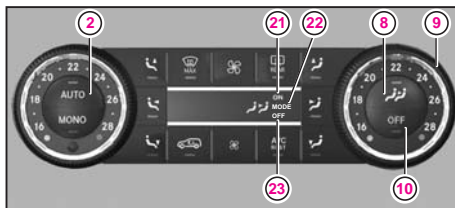
### 運転席モードを解除する

▶ 再度、運転席モードスイッチ⑳を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

**知　識**

助手席やリアエアコンディショナーの設定を変更したときは、運転席モードは自動的に解除されます。

## フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作する

② AUTOスイッチ
⑧ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨ 送風温度調整ダイヤル（運転席側）
⑩ オフスイッチ
㉑ リアエアコンディショナー作動インジケーター
㉒ リアエアコンディショナーモードインジケーター
㉓ リアエアコンディショナー停止インジケーター

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを作動 / 停止させたり、リアエアコンディショナーの送風温度を調整できます。

### リアエアコンディショナーを作動させる

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナー作動インジケーター㉑とリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルのAUTOスイッチの表示灯 **(6-35)** が点灯し、リアエアコンディショナーがAUTOモードで作動します。

**知　識**

リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑧を押してから約3秒間何も操作をしないと、スイッチ⑧の表示灯とディスプレイのリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が消灯し、フロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

## エアコンディショナー（ML 550 / ML 63 AMG）

### リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ リアエアコンディショナースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約3秒以内に送風温度調整ダイヤル（運転席側）⑨で送風温度を調整します。

設定した送風温度のインジケーターが点灯します。

リアエアコンディショナーコントロールパネルの送風温度調整ダイヤル**（6-35）**の内側のインジケーターが、設定した送風温度に移動します。

### リアエアコンディショナーを停止する

▶ リアエアコンディショナースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約3秒以内にオフスイッチ⑩を押します。

ディスプレイにリアエアコンディショナー停止インジケーター㉓が表示されます。

リアエアコンディショナーが停止します。

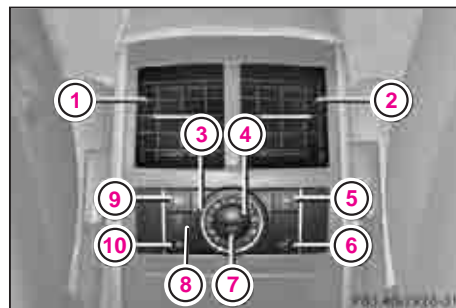
### 知　識

- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- フロントのコントロールパネルから、リアエアコンディショナーの送風口の選択や送風量の調整を行なうことはできません。
- フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネル**（6-35）**は操作できません。

## リアエアコンディショナー

リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーが作動しているときに作動させることができます。

### 知　識

- フロントシートの下にリア足元送風口があります。
- フロントのエアコンディショナーがデフロスターモードのときはリアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。
- フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているとき（6-33）は、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

| | |
|---|---|
| ① | リア中央送風口（左側） |
| ② | リア中央送風口（右側） |
| ③ | 送風温度調整ダイヤル |
| ④ | AUTOスイッチ |
| ⑤ | 送風口選択スイッチ（リア中央送風口） |
| ⑥ | 送風口選択スイッチ（リア足元送風口） |
| ⑦ | オフスイッチ |
| ⑧ | 送風量インジケーター |
| ⑨ | 送風量調整スイッチ（強） |
| ⑩ | 送風量調整スイッチ（弱） |

## リアエアコンディショナーの作動 / 停止

### リアエアコンディショナーをAUTOモードで作動させる

▶ AUTOスイッチ④を押します。

AUTOスイッチの表示灯が点灯します。

送風量の調整と送風口の選択は自動的に行なわれます。

▶ 送風温度調整ダイヤル③をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

**知　識**

通常は22℃に設定することをお勧めします。

### リアエアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑦を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが停止します。

再度、オフスイッチ⑦を押すと、リアエアコンディショナーが元の設定で作動します。

**知　識**

フロントエアコンディショナーの送風量を最大にするときは、リアエアコンディショナーを停止してください。

## リアエアコンディショナーの送風量調整

リアエアコンディショナーの送風量を手動で調整できます。

### 送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ⑨を押します。

送風量インジケーター⑧の点灯数が増えます。

### 送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ⑩を押します。

送風量インジケーター⑧の点灯数が減ります。

**知　識**

リアエアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、送風量のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチ④の表示灯が消灯します。

## リアエアコンディショナーの送風口選択

リアエアコンディショナーの送風口を手動で選択できます。

### 送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ⑤⑥のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

| 送風口選択スイッチ | 送風される送風口 |
|---|---|
| ⑤ | リア中央送風口①② |
| ⑥ | リア足元送風口 |

**知　識**

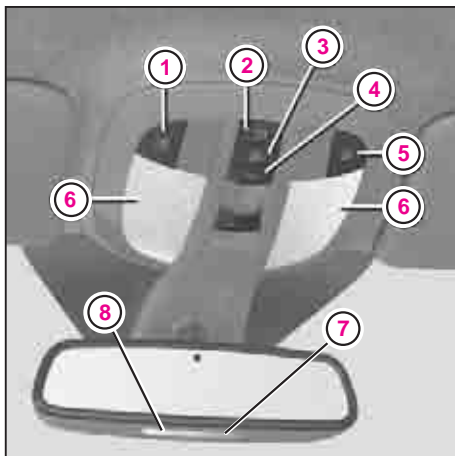
リアエアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、送風口選択のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチ④の表示灯が消灯します。

再度、送風口選択スイッチを押して、すべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTOモードに戻ります。

## リア送風口の風向き調整

リア中央送風口①②は、風向きを調整できます。

▶ リア中央送風口①②のノブを上下左右に動かします。

## ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② ラゲッジルームランプスイッチ
③ 点灯モード選択スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ
⑥ フロントルームランプ
⑦ フロント読書灯（右側）
⑧ フロント読書灯（左側）

## ルームランプの点灯モードの選択

### 自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押されていない状態にします。

以下の操作をするとフロントルームランプやリアルームランプ 、ラゲッジルームランプおよびテールゲート裏側のランプ＊が点灯 / 消灯します。

- ルームランプ消灯遅延機能 (4-40) が設定されているときは、エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約10秒後に消灯します。
- リモコン操作で解錠すると点灯し、約30秒後に消灯します。
- いずれかのドアまたはテールゲートを開くと点灯します。

◇エンジンスイッチが2の位置のときは、ドアやテールゲートを閉じるとただちに消灯します。

ドアやテールゲートを開いたままのときは、消灯しません。

◇エンジンスイッチが0か1の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアやテールゲートを閉じると約7秒後に消灯します。

ドアやテールゲートを開いたままのときは、約5分後に消灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**注　意　！**

車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

**知　識**

- 車種や仕様により、周囲が明るいときは、自動点灯モードにしていても、ルームランプなどが点灯しないことがあります。
- 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作で施錠すると、数秒後に自動的に消灯します。

#### 常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する
- ドアまたはテールゲートを開く

### フロントルームランプの点灯 / 消灯

#### フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

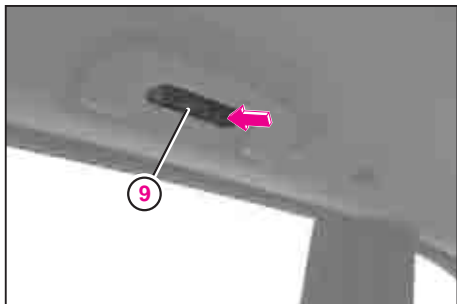
▶ フロントルームランプスイッチ④を押します。

フロントルームランプ⑥が点灯 / 消灯します。

### フロント読書灯の点灯 / 消灯

#### フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ フロント読書灯スイッチ①⑤を押します。

フロント読書灯⑦⑧が点灯 / 消灯します。

## リアルームランプの点灯 / 消灯

⑨ リアルームランプ（左側）

リアルームランプは左右リアドアウインドウの上方にあります。

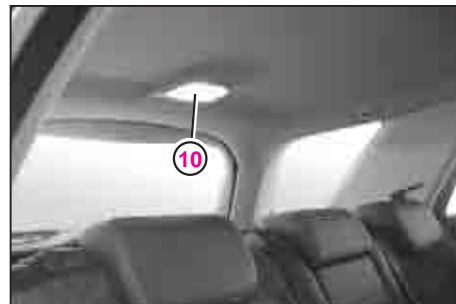
**リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する**

▶ リアルームランプ⑨の前部（矢印の部分）を押します。

リアルームランプが点灯 / 消灯します。

**注　意　！**

リアルームランプを長時間点灯すると、リアルームランプが熱くなります。火傷をするおそれがありますので、操作するときなどは注意してください。

## ラゲッジルームランプの点灯 / 消灯

⑩ ラゲッジルームランプ

ラゲッジルームランプはラゲッジルームの上方にあります。

**ラゲッジルームランプを手動で点灯 / 消灯する**

▶ ラゲッジルームランプスイッチ②（6-38）を押します。

ラゲッジルームランプが点灯 / 消灯します。

### フットウェルランプ

フロントシートおよびリアシートの足元＊に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- リモコン操作で解錠すると低い照度で点灯し、約30秒後に消灯します。
- エンジンスイッチを**2**の位置にすると低い照度で点灯し、**2**以外の位置にすると約7秒後に消灯します。
- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。

  ◇エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを閉じると減光します。

  ◇エンジンスイッチが**2**以外の位置のときは、ドアを閉じると減光し、約7秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約5分後に消灯します。

### センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに点灯します。



※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

# ルームランプ

## ドア下部のランプ

ドア下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- エンジンスイッチが**2**以外の位置でドアを開いたままのときは、約5分後に消灯します。

## ドアミラー下部のランプ

運転席側ドアミラー下部に乗降用のランプがあります。

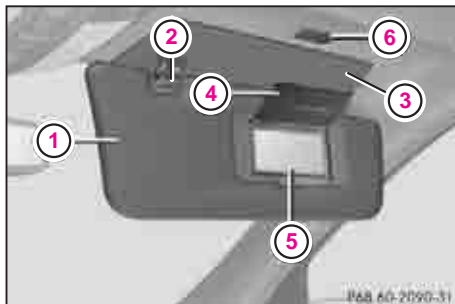
ルームランプが自動点灯モード**（6-38）**のときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- いずれかのドアを開くと点灯し、ドアを閉じると約7秒後に消灯します。
- ドアを開いたままのときは、約30秒後に消灯します。

**知　識**

車種や仕様により、周囲が明るいときは、自動点灯モードにしていても、ドア下部のランプ、ドアミラー下部のランプなどが点灯しないことがあります。

## サンバイザー / バニティミラー

### サンバイザー

① サンバイザー
② フック
③ 補助サンバイザー＊
④ バニティミラーカバー
⑤ バニティミラー
⑥ 照明

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**前方からの眩しさを防ぐ**

▶ サンバイザー①を下げます。

**横方向からの眩しさを防ぐ**

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザーをフック②から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

前方からの眩しさを防ぐときは、補助サンバイザー＊を下げます。

使用後は、補助サンバイザーを元の位置に戻してから、サンバイザーを元の位置に戻します。

**注 意 ！**

サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー④を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

**知 識**

車種や仕様により、横にまわしたサンバイザーを、軸方向にスライドすることができます。

### バニティミラー

**バニティミラーを使用する**

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ バニティミラーカバー④を上方に開きます。

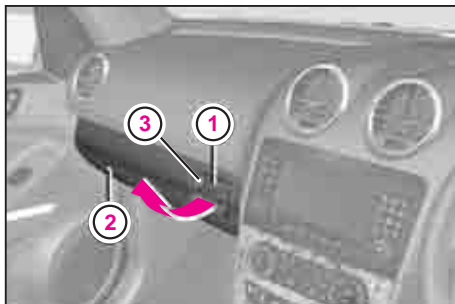
照明⑥が点灯します。

**注 意 ！**

眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーを使用しないでください。

**知 識**

サンバイザーをフック②から外すと、照明⑥は点灯しません。

## グローブボックス

① ハンドル
② カバー
③ キーシリンダー

**注 意 !**

走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や衝突時に収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

### グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引きます。

カバー②が開きます。

### グローブボックスを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

**知 識**

- グローブボックスにはCDチェンジャーと外部音声入力端子（AUX）が装備されています。

  詳しくは、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をご覧ください。
- グローブボックスにはペンホルダーがあります。
- エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

## グローブボックスの施錠

キーシリンダー③にエマージェンシーキーを差し込んで、グローブボックスを施錠 / 解錠できます。

### グローブボックスを施錠する

▶ キーを水平位置にまわします。

確実に施錠されていることを確認します。

### グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置にまわします。

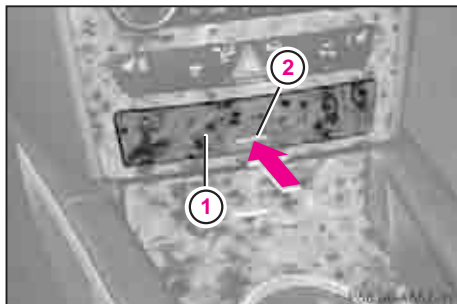
**注 意 !**

貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

**知 識**

駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

## 小物入れ

### コントロールパネル下部の小物入れ＊

① カバー
② マーク

#### コントロールパネル下部の小物入れを開く

▶ カバー①のマーク②を押します。

小物入れが開きます。

#### コントロールパネル下部の小物入れを閉じる

▶ カバー①のマーク②を押してロックします。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### フロントアームレストの小物入れ

① レバー
② カバー

フロントシートのアームレスト内部に小物入れがあります。

#### 小物入れを開く

▶ レバー①を引いてカバー②を開きます。

#### 小物入れを閉じる

▶ カバー②を下げてロックします。

## 小物入れ

**注　意　！**

- 走行中は必ず小物入れのカバーを閉じてください。急ブレーキ時や衝突時に収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。
- カバー②が閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物が損傷するおそれがあります。
- 小物入れには食料品を収納しないでください。

### 携帯電話の接続

フロントアームレストの小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

#### 携帯電話を取り付ける

▶ 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

#### 携帯電話を取り外す

▶ コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

**注　意　！**

携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。

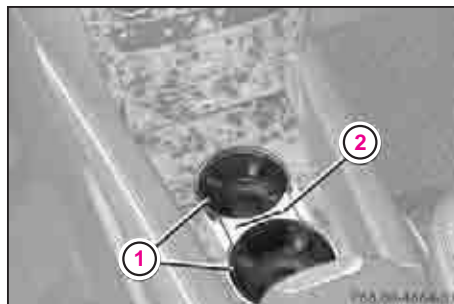
※ 電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

## カップホルダー

**注 意 !**

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。
- カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

  スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

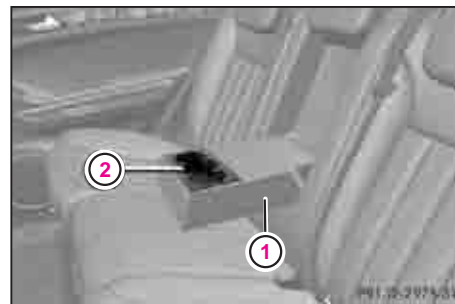
## センターコンソールのカップホルダー

① カップホルダー
② カードホルダー

センターコンソールにはカップホルダー①が装備されています。

また、2つのカップホルダーの間にはカードホルダー②があります。

**知 識**

カードホルダー②は上方に引き上げて取り外すことができます。

## リアアームレストのカップホルダー

① アームレスト
② カップホルダー

リアアームレストにはカップホルダーがあります。

### リアアームレストのカップホルダーを使用する

▶ アームレスト①を引き下げて使用します。

収納するときはアームレスト①を引き上げます。

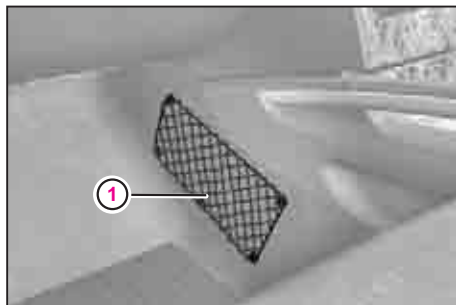
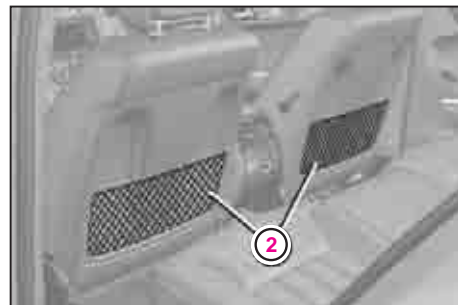
**注 意 !**

容器を置いたままリアアームレストを収納しないでください。

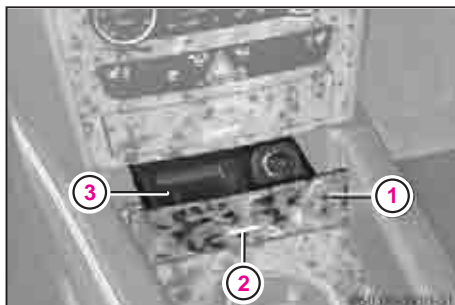
## 収納ネット

助手席の足元とフロントシートの背面に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

**注　意　！**

- 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

① 助手席足元の収納ネット

② フロントシート背面の収納ネット

# 灰皿

## フロントの灰皿

① カバー
② マーク
③ 灰皿

### 灰皿を開く

▶ カバー①のマーク②を軽く押します。

### 灰皿を閉じる

▶ カバー①を前方に押して閉じます。

### 灰皿を取り外す

▶ 灰皿③を上方に引き上げて取り外します。

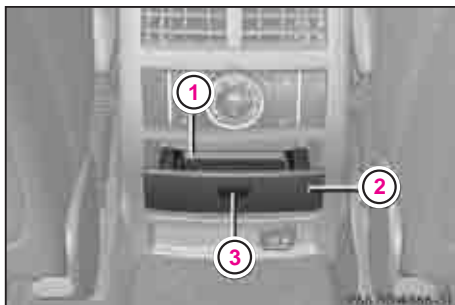
### 灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③がロックするまで押し込みます。

**知　識**

灰皿を取り外すと小物入れとして使用できます。

**注　意　！**

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。
- 灰皿を取り外して小物入れとして使用しているときは、灰皿として使用しないでください。

## リアの灰皿

① 灰皿
② カバー
③ ボタン

リアの灰皿は、リアセンターコンソールにあります。

**灰皿を開く**

▶ カバー②のボタン③を軽く押します。

**灰皿を閉じる**

▶ カバー②を押して閉じます。

**灰皿を取り外す**

▶ 灰皿①を引き上げて取り外します。

**灰皿を取り付ける**

▶ 灰皿①がロックするまで押し込みます。

**知　識**

灰皿を取り外すと小物入れとして使用できます。

**注　意　！**

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。
- 灰皿を取り外して小物入れとして使用しているときは、灰皿として使用しないでください。

## ライター

① ライター

**警　告** 

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

**ライターを使用する**

▶ ライター①を押し込みます。

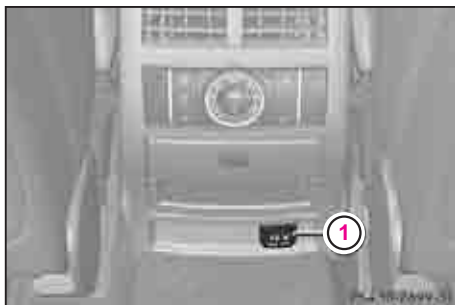
熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

**注　意　！**

- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電流15A以下の規格に合った電気製品を使用してください。
- 電動エアポンプ＊（**7-15**）のプラグをライターのソケットに差し込まないでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 12V電源ソケット

リアセンターコンソールの電源ソケット
① ソケットカバー

リアセンターコンソールとラゲッジルームに12V電源ソケットを装備しています。

エンジンがかかっているときに使用してください。

**知　識**

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のときや、エンジンスイッチからキーを抜いてあるときも使用することができますが、バッテリーの電圧が低下すると自動的に機能を停止します。

ラゲッジルームの電源ソケット
① ソケットカバー

### 12V電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー①を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

**注　意　!**

- 電源ソケットにライターを差し込まないでください。
- ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。
- エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。
- 接続する電気製品の最大消費電流が20Aを超えないようにしてください。
- 必ずDC12Vの電気製品を使用してください。

## アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

**警　告**

SRSウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

**注　意　！**

- アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。
- 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。
- コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

## 事故・故障のとき

**警　告** 

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

### 事故が起きたとき

すみやかに以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

### 路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

### 車が動かなくなったとき

シフトポジションをNにして、同乗者や付近の人に救援を求め、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションをNにできないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

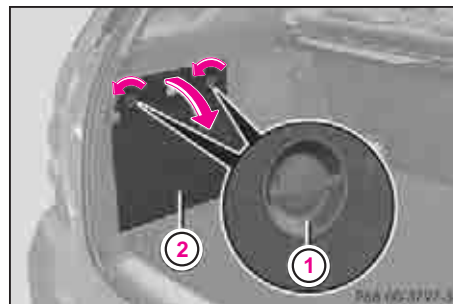
**注　意！**

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

## 非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに備えています。

**知　識**

- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

## 救急セット

① クリップ
② カバー

救急セットはラゲッジルーム左側の小物入れに収納されています。

救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

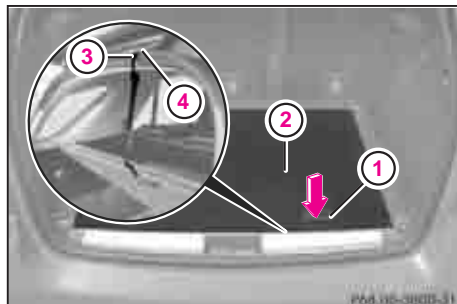
### 救急セットを取り出す

▶ 2つのクリップ①を矢印の方向に約90度まわし、カバー②を取り外します。

▶ 救急セットを取り出します。

### 救急セットを収納する

▶ 救急セットを入れてから、カバー②を閉じます。

## 車載工具

① ハンドル
② ラゲッジフロアボード
③ フック
④ テールゲート開口部上端

車載工具はラゲッジルーム内のラゲッジフロアボードの下に収納されています。

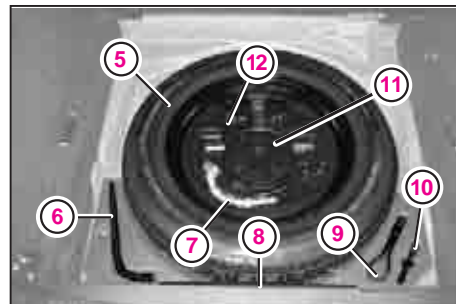
**ラゲッジフロアボードを開く**

▶ 矢印の部分を押してハンドル①を起こし、ラゲッジフロアボード②を引き上げます。

▶ ラゲッジフロアボード裏にあるフック③をテールゲート開口部上端④にかけます。

**注　意　！**

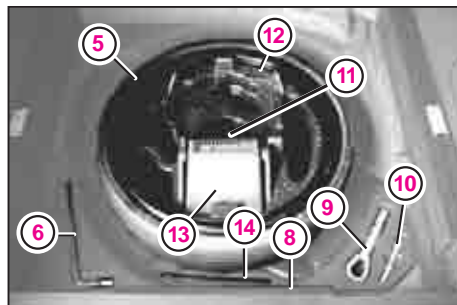
フック③をテールゲート開口部上端④にかけたまま、テールゲートを閉じないでください。フックやテールゲートを損傷するおそれがあります。

### ML 350 / ML 550

⑤ 応急用スペアタイヤ
⑥ ホイールレンチ
⑦ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト＊
⑧ 停止表示板ケース
⑨ けん引フック
⑩ ガイドボルト
⑪ スクリュー
⑫ トレイ

※車種や仕様により車載工具の内容が異なる場合があります。

※応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤ用ホイールに添付されていたり、応急用スペアタイヤの下や横に収納されていることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ML 63 AMG

⑤ 応急用スペアタイヤ
⑥ ホイールレンチ
⑧ 停止表示板ケース
⑨ けん引フック
⑩ ガイドボルト
⑪ スクリュー
⑫ トレイ
⑬ 電動エアポンプ
⑭ ジャッキハンドル

※電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

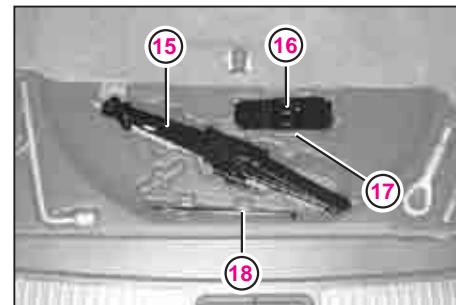
## 応急用スペアタイヤを取り出す

応急用スペアタイヤの下にも、ジャッキや輪止めなどが収納されています。

▶ ML 350とML 550は、スクリュー⑪を反時計回りにまわして取り外し、トレイ⑫を取り出します。

ML 63 AMGは、電動エアポンプ⑬とトレイ⑫を取り出してから、スクリュー⑪を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ⑤を取り出します。

▶ ML 63 AMGは、応急用スペアタイヤの下のシートを取り出します。

応急用スペアタイヤを取り出した状態
（ML 350 / ML 550）

⑮ ジャッキ
⑯ 輪止め
⑰ ヒューズ配置表（英文）
⑱ ジャッキハンドル



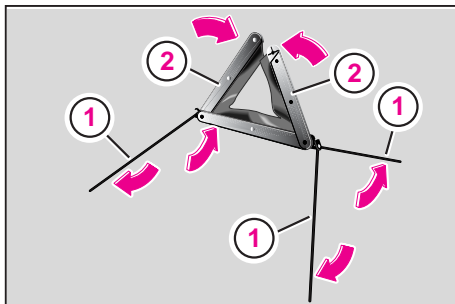
**注 意 !**

トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

※車載工具の内容や収納場所は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## 停止表示板 / 輪止め

### 停止表示板

① スタンド
② 反射板

※停止表示板の形状が異なる場合があります。

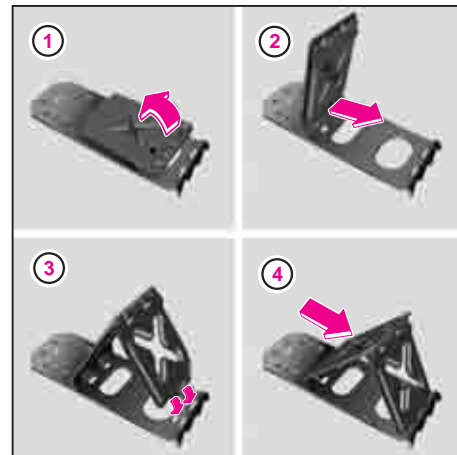
### 停止表示板を組み立てる

▶ 停止表示板ケース（7-4、5）から停止表示板を取り出します。

▶ 反射板②を引き出し、頂点をかみ合わせてロックします。

▶ 左右のスタンド①を引き出します。

▶ スタンド①を拡げて地面に立てます。

### 輪止め

輪止めは図の順番で組み立てます。

**注　意　！**

輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

## パンクしたとき

**警　告** 

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

**注　意　！**

- 車速感応ドアロック（4-44）を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

**知　識**

高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

▶ AIRマティックサスペンション装備車は、車高が通常走行レベルになっていることを確認します（5-69、81）。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを**P**にします。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ホイールレンチ、ガイドボルト、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト＊を準備します。

ML 63 AMGは、電動エアポンプも準備します。

## 応急用スペアタイヤを取り出す

**警　告** 

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。

  また、ESPの機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。

▶ 応急用スペアタイヤを取り出します **(7-5)**。

**注　意　!**

- トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

▶ 輪止め、ジャッキ、ジャッキハンドルを取り出します。

## 輪止めをする

▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。

◇ 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。

◇ 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

**知　識**

輪止めは1個車載されています。もう1個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

## ジャッキアップ

① ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5本）を約1回転ほどゆるめます。

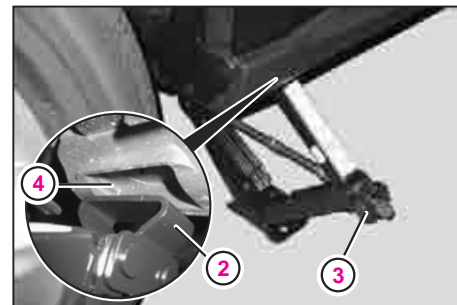
この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

**知　識**

伸縮式のホイールレンチが装備されているときは、ホイールレンチの柄を引いて伸ばしてください。

**注　意！**

ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

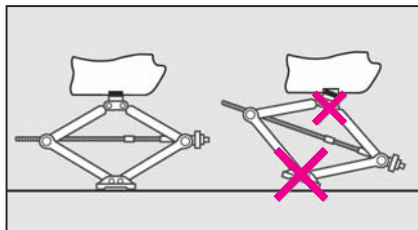
- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

② ジャッキ先端
③ ダイヤル部
④ ジャッキサポート

▶ ダイヤル部③を手でまわしてジャッキを伸ばしながら、交換するタイヤに近いジャッキサポート④にジャッキ先端②をあてます。

このとき、ジャッキ先端②がジャッキサポート④に接してぐらつかない程度までダイヤル部③をまわします。

7

**注　意　!**

- ジャッキサポート以外の位置でジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。
- ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

**知　識**

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部4カ所に設けられています。

⑤ ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル⑤を、"AUF UP" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

▶ ジャッキハンドル⑤を繰り返し操作し、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

**警　告** 

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。
ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

**注　意　！**

- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から3cm以内にしてください。

## タイヤの取り外し

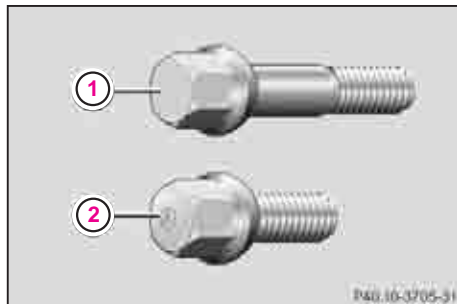
⑥ ガイドボルト

▶ 上側のホイールボルトを1本外します。

▶ そのネジ穴にガイドボルト⑥をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

**注　意　！**

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。
- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、指定サービス工場に連絡してください。

## ホイールボルト

装着されているホイールにより、応急用スペアタイヤに使用するホイールボルトが異なります。

**17インチホイール装備車**

標準ホイールに使用されている、短いホイールボルト②を使用してください。

**18 / 19インチホイール装備車**

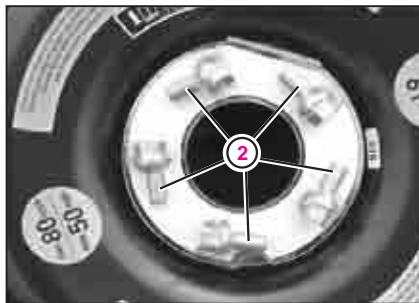
標準ホイールに使用されている、長いホイールボルト①は使用しないでください。

応急用スペアタイヤ用の短いホイールボルト②を使用してください。

**20インチホイール装備車**

標準ホイールに使用されている、長いホイールボルト①を使用してください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

**知　識**

応急用スペアタイヤのホイールに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②

応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤのホイールに添付されているか、トレイ（**7-4**）の上、または応急用スペアタイヤの下や横に収納されています。

**警　告** 

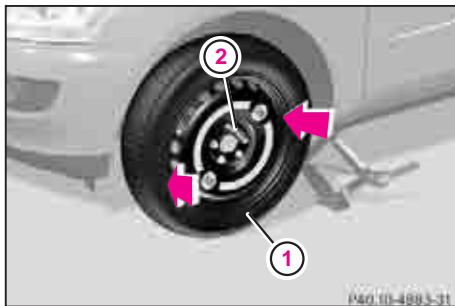
ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

**注　意！**

18インチホイール装備車、および19インチホイール装備車に応急用スペアタイヤを装着する場合は、必ずホイールボルト②を使用してください。

標準タイヤのホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けると、ホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れたりブレーキシステムを損傷するおそれがあります。



※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## 応急用スペアタイヤの取り付け

① 応急用スペアタイヤ
② ガイドボルト

- ▶ 応急用スペアタイヤ①のホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。
- ▶ ガイドボルト②に合わせて応急用スペアタイヤを取り付けます。
- ▶ 4本のホイールボルトを取り付けて、対角線の順番に軽く締め付けます。
- ▶ ガイドボルトを取り外し、5本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

**警　告** 

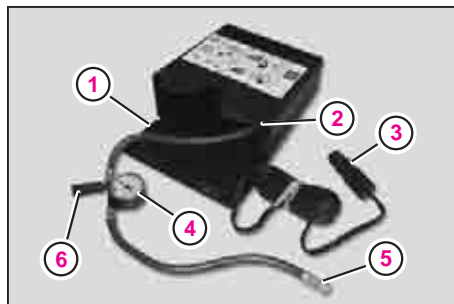
ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

## 応急用スペアタイヤに空気を入れる (ML 63 AMG)

車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

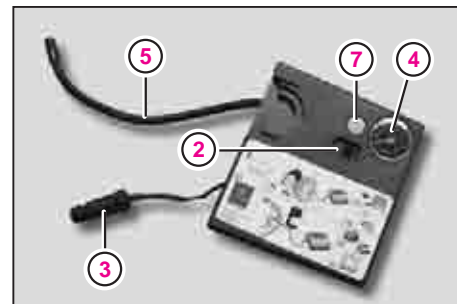
**警　告**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

### 空気圧ゲージ別体型

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

▶ フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 空気圧調整バルブ⑥が閉じていることを確認します。

### 空気圧ゲージ一体型

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。
　使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**O**（停止の位置）にします。

▶ 12V電源ソケット**（6-52）**に、電源プラグ③を差し込みます。

**注　意　！**

センターコンソールのライター用ソケットには電源プラグ③を差し込まないでください。

▶ エンジンスイッチを**1**の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 空気圧ゲージ④が3.5バールになったら電動エアポンプの電源スイッチ②を**O**（停止の位置）にします。

3.5バールを超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して空気を抜いて調整します。

▶ 12V電源ソケットから電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース⑤を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

**注　意　！**

- 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。
- 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。
- 電動エアポンプの最大連続作動時間を守ってください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。最大連続作動時間は、電動エアポンプに貼付されているステッカーに記載されています。
- 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。
- 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。
- 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

### ジャッキダウン

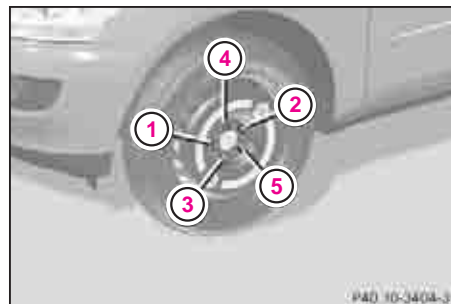
▶ ジャッキハンドルを、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

▶ ジャッキハンドルを繰り返し操作し、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

**注 意 !**

ジャッキハンドルは、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキダウンできません。

### ホイールボルトの締め付け

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は15kg-m（150Nm）です。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤはラゲッジルーム内に収納し、確実に固定してください。

タイヤサイズにより、応急用スペアタイヤの収納スペースに収納できる場合があります。

7

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

**注　意　！**

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

## けん引

**注　意　！**

- けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- トランスミッションを損傷しているときは、車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

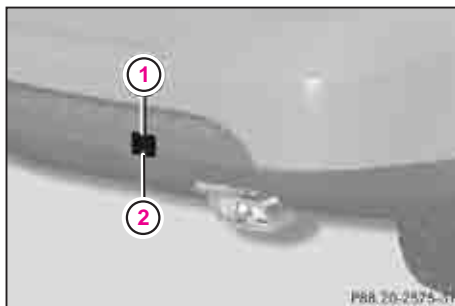
## けん引フックの取り付け

フロント
① カバー
② マーク

### けん引フックの取り付け位置（フロント）

フロントバンパーの向かって左側にあります。

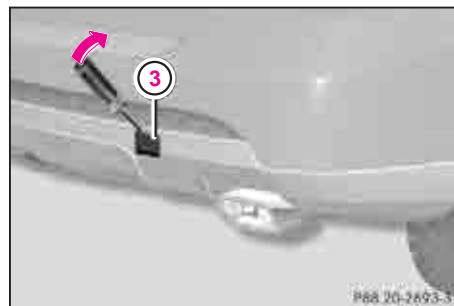
▶ マーク②を押し、カバー①を手前に引いて外します。

カバーは完全に取り外さないでください。

リア
① カバー
② マーク

### けん引フックの取り付け位置（リア）

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ マーク②を押し、カバー①を手前に引いて外します。

カバーは完全に取り外さないでください。

AMGスポーツパッケージ装備車
③ カバー

車種や仕様により、カバーの形状が異なります。

▶ AMGスポーツパッケージ装備車は、カバー③のくぼみにドライバーなどを差し込み、矢印の方向に押してカバー③を取り外します。

### けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（7-4、5）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

## けん引する

### エンジンが始動できるとき

- ▶ エンジンを始動し、シフトポジションを N にします。

### エンジンが始動できないとき

- ▶ エンジンスイッチを**1**または**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを N にします。

## フロントまたはリアをつり上げてけん引するとき

- ▶ シフトポジションを N にします。
- ▶ エンジンスイッチを**0**の位置にします。

**注 意 !**

フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。

ESPが作動して接地している車輪にブレーキがかかります。

また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

## バッテリーがあがっているとき

バッテリーがあがっているときは、シフトポジションが P にロックされることがあります。シフトポジションを N にするには、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーから電力を供給してください（**7-24**）。

それでもシフトポジションを N にできないときは指定サービス工場に連絡してください。

**注 意 ！**

- けん引されるときは、けん引防止警報機能＊を解除してください（3-64）。
- けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（4-44）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- エンジンを始動していないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが作動しません。ステアリングをまわすときやブレーキペダルを踏み込むときに非常に大きな力が必要になります。
- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。距離が50kmを超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- プロペラシャフトの取り付けナットは再使用できません。プロペラシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。
  - ◇ ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
  - ◇ ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
  - ◇ ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
  - ◇ けん引フック以外にはロープをかけないでください。
  - ◇ ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
  - ◇ 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。。
- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## けん引するときの注意

トランスファー＊やアクスルが故障しているときは、以下の点に注意してけん引してください。

この作業はできるだけ専門業者に依頼してください。

**注 意 ！**

トランスファーやアクスルが故障したときは、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。詳しくは（10-11）をご覧ください。

### トランスファーが故障しているとき

▶ 前後のアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

### フロントアクスルが損傷しているとき

▶ リアアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

### リアアクスルが損傷しているとき

▶ フロントアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ リアアクスルを上げてけん引します。

### ぬかるみからけん引するとき

ぬかるみに埋まって動けなくなったときは、以下の点に注意してけん引してください。

- 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

  この場合はトレーラーを外し、車両後部のトレーラーカップリングを引くようにして、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ引き出してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## オーバーヒートしたとき

**オーバーヒートしたときは、以下のような症状があらわれます**

- 冷却水温度が約120度以上を示している
- 冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されている
- エンジンルームから蒸気が出ている

**警　告** 

- エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。
- 水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

**注　意！**

- マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-12）**をご覧ください。
- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

**オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください**

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却します。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足していたら補給します**（8-7）**。

**注　意！**

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

## バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

他車のバッテリーとブースターケーブルを接続するときは、エンジンルームの向かって左側にある⊕端子と⊖端子にブースターケーブルを接続します。

**注 意 ！**

マルチファンクションディスプレイに、バッテリーに関する故障／警告メッセージが表示されたときは（10-3、7、8）をご覧ください。

**警 告**

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 運転席シート下部にあるバッテリーに、直接ブースターケーブルを接続しないでください。ショートして火災が発生するおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、以下の点に注意してください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
  - ◇ バッテリーを傾けないでください。
  - ◇ たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させないでください。
  - ◇ 静電気を発生させないように注意してください。

**知 識**

バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときはエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します（3-37）。

## 始動の方法

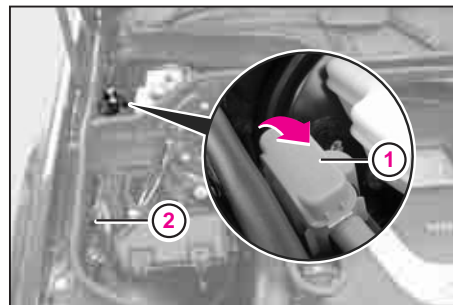
▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを P にします。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

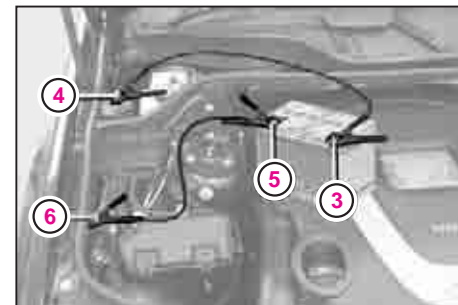
▶ 両車のエンジンスイッチを0の位置にして、電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

① 自車の⊕端子カバー
② 自車の⊖端子

▶ 自車の⊕端子カバー①を矢印の方向に開きます。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子③に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊕端子④に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

③ 救援車の⊕端子
④ 自車の⊕端子
⑤ 救援車の⊖端子
⑥ 自車の⊖端子

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子⑤に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊖端子⑥に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

## バッテリーがあがったとき

▶ シフトポジションがPになっていることを確認してください。

▶ 自車のエンジンを始動します。

**注 意 !**

電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにエアコンディショナーやリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。

▶ 取り付けたときと逆の手順でケーブルを外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

**注 意 !**

- 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。
- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- 触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。
  - ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  - ◇ エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しないでください。
  - ◇ エンジン始動を2～3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場に連絡してください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  - ◇ ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
  - ◇ ケーブルがエンジンファンやVベルトに巻き込まれないようにしてください。
- エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

**知　識**

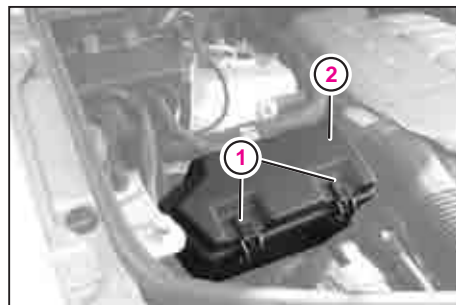
- 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずに50℃以上にならないようにバッテリー全体を暖め、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。
- バッテリーの電圧が低くなるとマルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞｯﾃﾘｰﾎｺﾞ" と表示され、一部の電気装備が自動的に停止することがありますが、電力が回復すると自動的に作動を開始します。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。
  - ◇ マルチファンクションコントローラーの再設定
  - ◇ ドアウインドウのリセット
  - ◇ スライディングルーフ＊のリセット
  - ◇ 施錠時のドアミラー格納のリセット

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

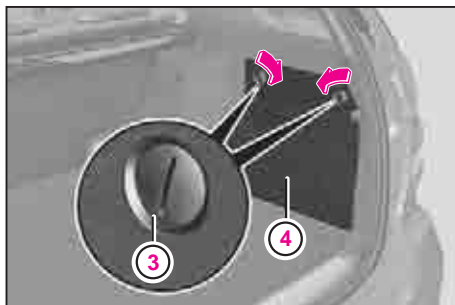
## ヒューズの交換

**注　意　！**

- カバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水分やほこりなどが入らないようにしてください。
- カバーを取り付けるときは、ヒューズボックスのシールが正しく密着するようにしてください。

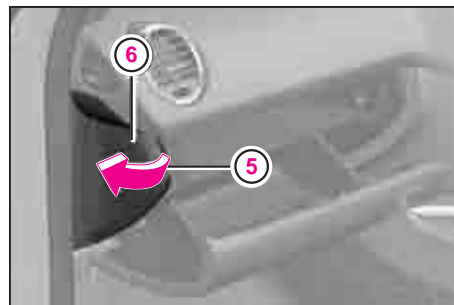
## エンジンルームのヒューズボックス

ML 63 AMG
① フック
② カバー

▶ 2カ所のフック①を外し、カバー②を取り外します。

### ラゲッジルームのヒューズボックス

③ クリップ
④ カバー

▶ コインなどを使用して、クリップ③を矢印の方向にまわします。

▶ カバー④を取り外します。

### グローブボックス横のヒューズボックス

⑤ 切り欠き部
⑥ カバー

▶ グローブボックスを開きます。

▶ 切り欠き部⑤に指をかけて、矢印の方向にカバー⑥を開きます。

カバーを取り付けるときは、最初にカバーの前部をAピラーの内側に差し込みます。

## ヒューズの交換

電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。

ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズ一覧は(9-6)をご覧ください。

**警　告** 

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。また、針金などで代用しないでください。火災などが発生するおそれがあります。

**知　識**

ヒューズ配置表（英文）は、応急用スペアタイヤの下（7-5）にあります。

### ヒューズを交換する

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

**注　意　！**

以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

## 電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、規格に合った同容量の電球と交換してください。

LEDやキセノンヘッドランプはユニット交換になるため、必ず指定サービス工場で交換作業を行なってください。その他の電球の交換も、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

やむを得ずユーザー自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球一覧は（9-5）をご覧ください。

**警　告** 

- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、キセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

### マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-13）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

**知　識**

ドアミラー部以外の方向指示灯の電球が切れると、方向指示灯作動時に方向指示表示灯の点滅と作動音の間隔が通常より短くなって、運転者に知らせます。

### スタンバイランプ機能

方向指示灯、ブレーキランプ、車幅灯、テールランプなどの電球が切れると、他の電球が代替として点灯する場合があります。

### 電球の取り扱い

電球を交換するときは、以下の点に注意してください。

- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用して、直接手で電球に触れないようにしてください。

  電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。電球に触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。
- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になるおそれがあります。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているため、破裂するおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。

## メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー社指定の点検整備

  ダイムラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1年および2年点検整備

  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

  次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

### メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています(4-13)。

### 整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

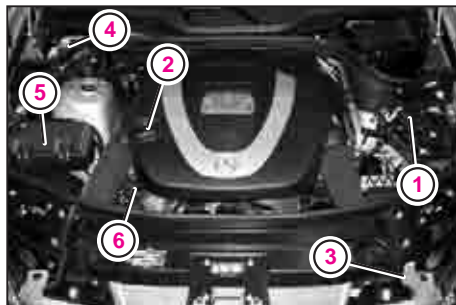
### 日常点検

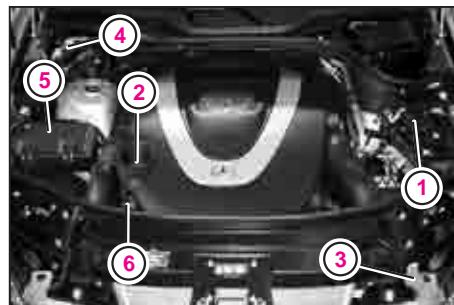
長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときに、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

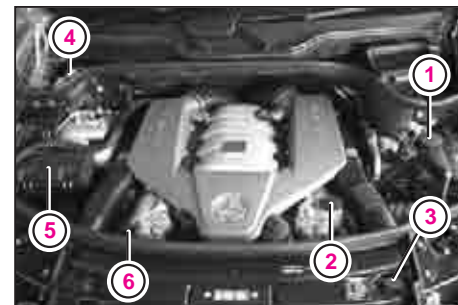
点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

## エンジンルーム

### ML 350 4MATIC

| | | |
|---|---|---|
| ① | 冷却水リザーブタンク | 8-6 |
| ② | エンジンオイル<br>フィラーキャップ | 8-9 |
| ③ | ウォッシャー液<br>リザーブタンク | 8-14 |
| ④ | ブレーキ液<br>リザーブタンク | 8-11 |
| ⑤ | ヒューズボックス | 7-28 |
| ⑥ | エンジンオイル<br>レベルゲージ | 8-8 |

### ML 550 4MATIC

| | | |
|---|---|---|
| ① | 冷却水リザーブタンク | 8-6 |
| ② | エンジンオイル<br>フィラーキャップ | 8-9 |
| ③ | ウォッシャー液<br>リザーブタンク | 8-14 |
| ④ | ブレーキ液<br>リザーブタンク | 8-11 |
| ⑤ | ヒューズボックス | 7-28 |
| ⑥ | エンジンオイル<br>レベルゲージ | 8-8 |

### ML 63 AMG

| | | |
|---|---|---|
| ① | 冷却水リザーブタンク | 8-6 |
| ② | エンジンオイル<br>フィラーキャップ | 8-9 |
| ③ | ウォッシャー液<br>リザーブタンク | 8-14 |
| ④ | ブレーキ液<br>リザーブタンク | 8-11 |
| ⑤ | ヒューズボックス | 7-28 |
| ⑥ | エンジンオイル<br>レベルゲージ | 8-8 |

## エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

**警　告** 

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高い場合はエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

**環　境** 

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

## エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

**注 意 ！**

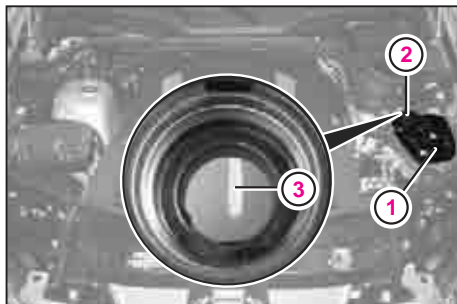
- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所を選んで行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

### Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないか点検してください。

## 冷却水

### 冷却水の量を点検する

ML 350
① リザーブタンク
② キャップ
③ バー

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク①の白と黒の境目まで液面があれば適量です。

または

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンクのキャップ②を反時計回りにゆっくり約1/2回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク内のバー③の上面に達していれば適量です。

**知　識**

水温が高いときは液面が若干高くなります。

**警　告** 

- 水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

**注　意　！**

冷却水の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

## 冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約1/2回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

### 不凍液の濃度

| 不凍液混合率 | 凍結温度 |
|---|---|
| 約50% | －37℃ |
| 約55% | －45℃ |

**注　意　！**

- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は50%から55%の間にしてください。濃度を55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- 冷却水の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

### 冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

## エンジンオイル

### エンジンオイルの量を点検する

ML 350
① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限（max）
③ 下限（min）

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、5分ほど待ちます。

エンジンが冷えているときは、約30分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

**注　意　！**

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **(10-13、14)** をご覧ください。

**知　識**

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

## エンジンオイルを補給する

ML 350
④ エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。

**警　告** 

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

**注　意　！**

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは (10-13、14) をご覧ください。

## エンジンオイル

### エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

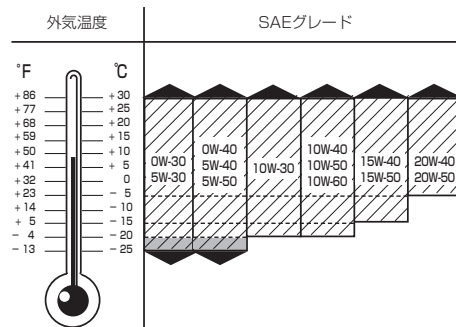
ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

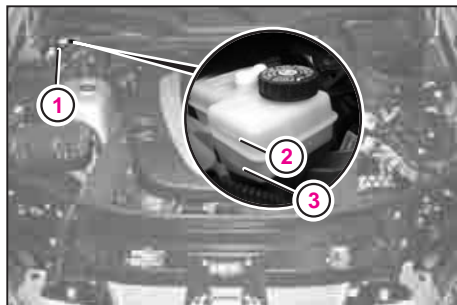
**注　意　！**

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

### 使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

## ブレーキ液

### ブレーキ液の量を点検する

ML 350
① ブレーキ液リザーブタンク
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンク①のレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

**注　意　！**

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-8）**をご覧ください。

### ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

**警　告**

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯（3-85）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注 意 ！

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

- レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

**ベーパーロック：**長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

## ウォッシャー液

### ウォッシャー液を補給する

ML 350
① ウォッシャー液リザーブタンクの
キャップ

**警　告** 

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

**使用するウォッシャー液**

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（9-10）。

**知　識**

- ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。
- ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

**注　意！**

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-14）をご覧ください。

## タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

### タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であるか点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

**警　告** 

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります**(8-18)**。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

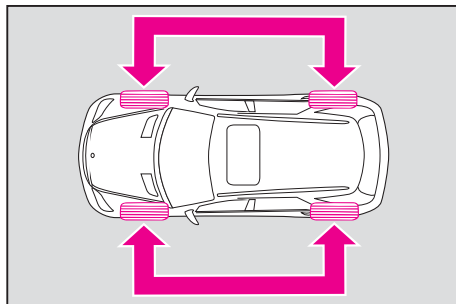
**注　意　!**

- タイヤに空気を入れてもすぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または承認された製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および4輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

**知　識**

- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

## タイヤローテーション

タイヤローテーションの方法

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000～10,000kmを目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

**タイヤローテーションを行なう**

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

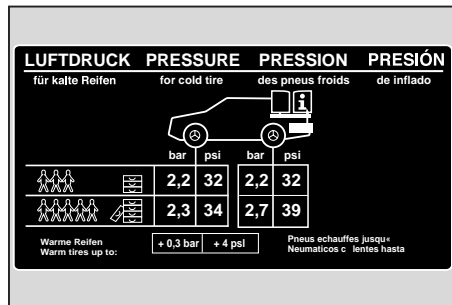
**注　意　！**

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車の安定性や操縦性が確保できません。

**知　識**

- タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。
- タイヤを入れ替えた後に空気圧を調整してください。
- 空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。
- ホイールボルトの締め付けトルクは15kg-m（150Nm）です。タイヤローテーションを行なったあとは、指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

## タイヤ空気圧ラベル

① タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベル①は燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒kg/cm²）」と「psi」で示しています。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

**警　告**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

**知　識**

- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。
- 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3bar（kg/cm²）ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧については（9-13）をご覧ください。

**環　境**

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

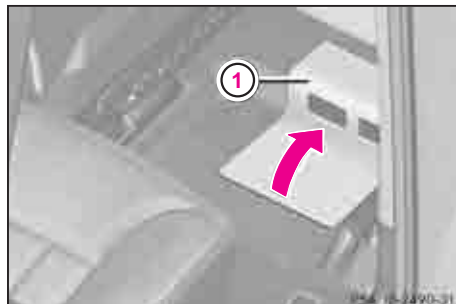
## バッテリー

### バッテリーの位置

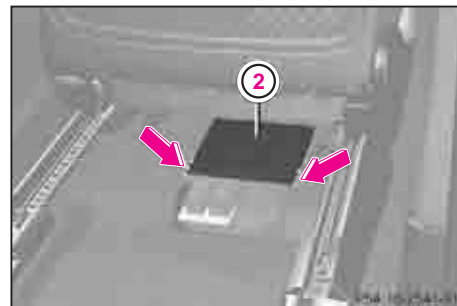
バッテリーは運転席シート下部にあります。

**知　識**

他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときは、エンジンルーム内の端子にブースターケーブルを接続してください（7-25）。

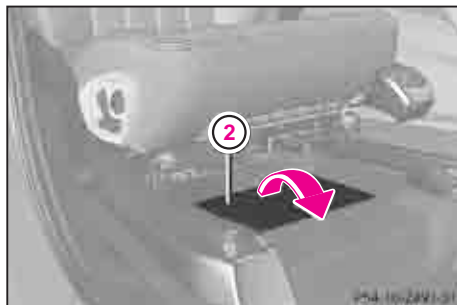
### バッテリーの交換

① バッテリーカバー

この作業は指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

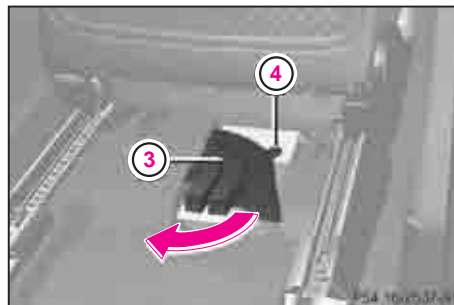
- ▶ パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを P にします。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 運転席シートをいっぱいまで前方に動かします。
- ▶ バッテリーカバー①を矢印の方向に持ち上げて取り外します。

② カーペット

- ▶ ミシン目がある位置まで、白い点線に沿ってカーペット②にカッターなどで切り込みを入れます。

**注　意　！**

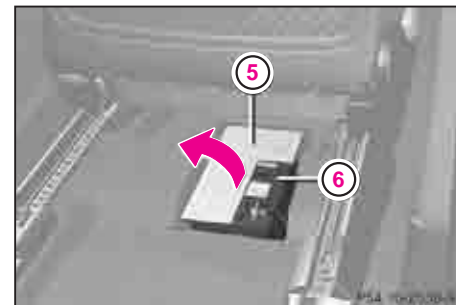
カッターなどでカーペットに切り込みを入れるときは、けがをしないように十分注意してください。

② カーペット

▶ 運転席シートをいっぱいまで後方に動かします。

▶ カーペット②の後端を矢印の方向にめくります。

③ エアダクト
④ 固定クリップ

▶ 運転席シートをいっぱいまで前方および上方に動かします。

▶ 固定クリップ④を取り外します。

▶ エアダクト③を矢印の方向に引き抜きます。

⑤ 保護カバー
⑥ バッテリー

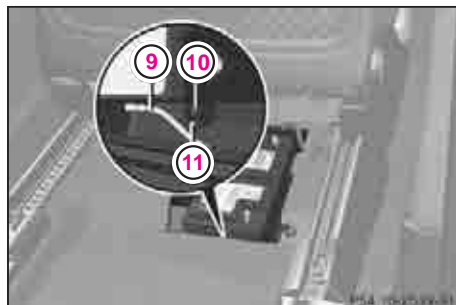
▶ 保護カバー⑤を取り外します。

⑦ ⊕端子
⑧ ⊖端子

▶ バッテリーから⊖端子⑧を取り外し、後から外す⊕端子⑦と接触しない場所に置きます。

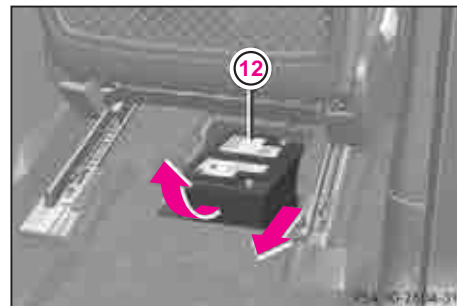
▶ ⊕端子⑦のカバーを取り外します。

▶ バッテリーから⊕端子⑦を取り外します。

## バッテリーの取り外し

⑨ ブリーザーホース
⑩ 取り付けボルト
⑪ ブラケット

▶ ブリーザーホース⑨を取り外します。

▶ 取り付けボルト⑩を取り外します。

▶ ブラケット⑪を取り外します。

⑫ バッテリー

▶ バッテリー⑫を矢印の方向に持ち上げて取り出します。

### バッテリーの接続 / 取り付け

**注 意 !**

バッテリーを接続するときは、以下の手順を守って、絶対に端子の取り付けを間違えないようにしてください。けがをするおそれがあります。また、車両の電気装備を損傷するおそれがあります。

▶ 電気装備をすべて停止します。

▶ 取り外したときと逆の手順でバッテリーを取り付けます。

▶ ⊕端子⑦を取り付け、カバーも取り付けます。

▶ ⊖端子⑧を取り付けます。

▶ 取り外したときと逆の手順で車両を元の状態に戻します。

**知 識**

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることができます。

- マルチファンクションコントローラーの再設定
- ドアウインドウのリセット
- スライディングルーフ＊のリセット
- 施錠時のドアミラー格納のリセット

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

バッテリーの充電、交換などの作業は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

**環　境**

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

**警　告**

**静電気に注意**

静電気が発生すると、可燃性のガスに引火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 布などでバッテリーを拭かないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。

また、バッテリーに火気を近付けないでください。

**バッテリー液に注意**

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。

**子供に注意**

バッテリーを取り扱うときは、子供を近寄らせないでください。

**ショートに注意**

バッテリーをショートさせると、可燃性のガスに発火して、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えないように注意してください。

**注 意 ！**

- 指定のバッテリーを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- エンジンがかかっているときや始動するときは、バッテリー端子を外したり、ゆるめないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。
- 車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。
- バッテリー端子の接続をゆるめたり、外すときは、エンジンスイッチを**0**の位置にするかキーを抜き、すべての電気装置を停止してください。
- バッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。
- バッテリー端子を取り外したときは、以下のような作業が必要になることがあります。
  - ◇ マルチファンクションコントローラーの再設定
  - ◇ ドアウインドウのリセット**(3-68)**
  - ◇ スライディングルーフ＊のリセット**(3-74)**
  - ◇ 施錠時のドアミラー格納のリセット

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

## VRLAバッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERYのラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検については指定サービス工場におたずねください。

## 寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

### 冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

### エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

### ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

### ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です（**8-31、32、9-12**）。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書にしたがってください。

### 冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

### 積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

### ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを傷付けないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

### ボディ下部の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

### ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、テールゲート、ドアウインドウ、スライディングルーフ＊などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

### 乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

### 雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

### 雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

**警　告**

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

### 駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

### ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABSやESP、4MATICの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください（9-12）。

**注 意 ！**

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールを使用しないでください。

  また、オフロード・ドライブ・プログラム＊を作動させたりローレンジ＊にしないでください。
- ウィンタータイヤ / ホイールは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所で保管してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書にしたがってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約50km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着中は、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

※ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください

**注 意 !**

- スノーチェーンを装着したときは、ＡＤＳ＊のサスペンションモードをSPORTモードにしないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、オフロード・ドライブ・プログラム＊を作動させたりローレンジ＊にしないでください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

**警　告** 

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車をしてください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、ガソリンおよびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

**車内**

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウッドトリムなどの部分は、水で湿らせた柔らかい布を使用して拭き取ります。頑固な汚れには少量の石けん水を使用します。

  また、有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しないでください。ウッドトリムなどを損傷するおそれがります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

**警　告** 

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

## 洗車

- ▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。
- ▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。
- ▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。
- ▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

## 洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーやその周辺に注意してください。マフラーやその周辺に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。また、乾いた布などで強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。

- パークトロニックセンサー＊を清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

## 高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサー、パーキングアシストリアビューカメラやサイドビューカメラには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーやカメラ、塗装面を損傷するおそれがあります。

## 自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーの作動モード（5-31、34）を停止の位置にしてください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

**警　告**

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外のものを使用しないでください。事故やけがの原因になります。

**注　意　!**

- 以下の場所の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーのコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

  ◇ エアバッグ収納部
  ◇ シートベルト
  ◇ インストルメントパネル
  ◇ センターコンソール
  ◇ ドア
  ◇ シート
  ◇ ピラー付近
  ◇ サイドシル付近

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズとして作用し、火災が発生するおそれがあります。

**知　識**

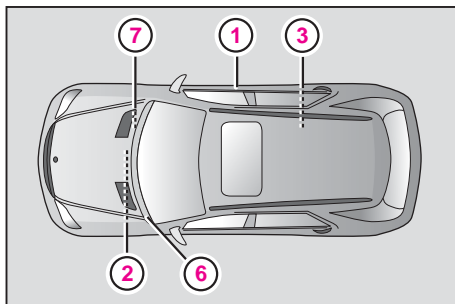
純正部品以外の部品を代用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

**環　境**

ダイムラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

## ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

① ニューカープレート
② エンジン番号
③ 車台番号
⑥ 車台番号
⑦ オプションコードプレート

## ニューカープレート

① ニューカープレート

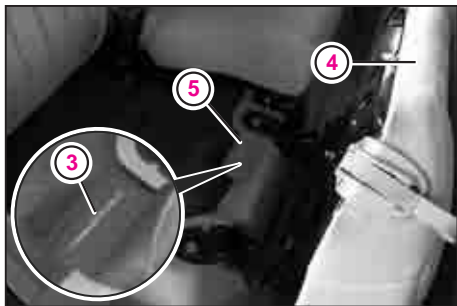
運転席側または助手席側のセンターピラー下部に車台番号およびカラーコードが記載されたニューカープレート①が貼付してあります。

## エンジン番号

ML 350
② エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号②が打刻されています。

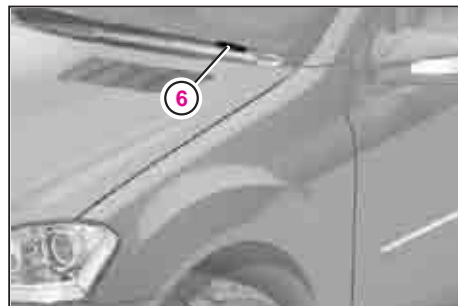
## ビークルプレート

### 車台番号

③ 車台番号
④ リアシートクッション
⑤ カーペット

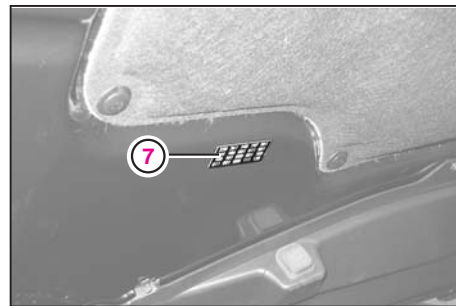
右側リアシート下部のボディフレームに車台番号③が打刻されています。

**車台番号を確認する**

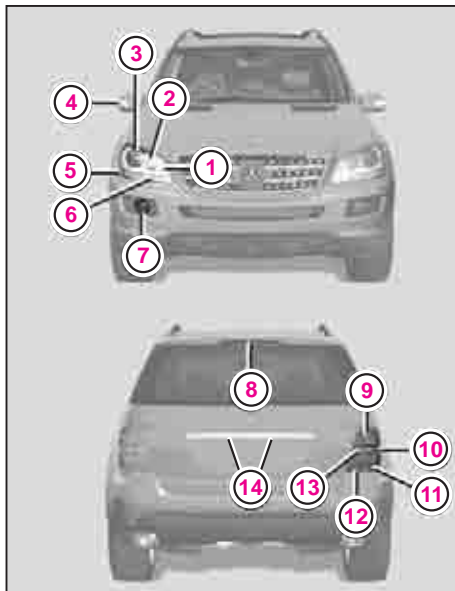
▶ 右側のリアシートクッション④を引き起こします。

▶ カーペット⑤をめくり上げます。

⑥ 車台番号

ダッシュパネルの図の位置にも車台番号⑥が打刻されています。

### オプションコードプレート

⑦ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを示すプレート⑦が貼付してあります。

## 電球一覧

**注　意　！**

電球を交換するときは、実際に車両に装着されている電球の規格を確認してください。

| | ランプ | ワット数（規格） |
|---|---|---|
| ① | パーキングランプ / 車幅灯 | 5W |
| ② | ヘッドランプ（上向き） | 55W (H7) |
| ③ | ヘッドランプ（上向き / 下向き） | 35W (キセノンD1S) |
| ④ | ドアミラー方向指示灯 | LED（発光ダイオード） |
| ⑤ | フロント方向指示灯 | 5W（黄色） |
| ⑥ | フロント方向指示灯 | 21W（黄色） |
| ⑦ | フロントフォグランプ | 55W (H11) |
| ⑧ | ハイマウントブレーキランプ | LED（発光ダイオード） |
| ⑨ | ブレーキランプ | 21W |
| ⑩ | リア方向指示灯 | 21W（黄色） |
| ⑪<br>⑫ | テールランプ / パーキングランプ<br>/ リアフォグランプ（右側のみ） | 21W（2個使用） |
| ⑬ | バックランプ | 21W |
| ⑭ | ライセンスランプ | 5W |

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## ヒューズ一覧

### ヒューズボックス（エンジンルーム内）

| ヒューズ番号 | アンペア数 | 装置名 |
|---|---|---|
| 100 | 30A | フロントワイパー |
| 101 | 15A | エンジン制御 |
| 102 | 10A | エンジンコントロールユニット |
| 103 | 25A | エンジン制御 |
| 104 | 15A | エンジン制御 |
| 105 | 15A | エンジン制御<br>エンジンスターター |
| 106 | - | 未使用 |
| 107 | 40A | 二次エアポンプ |
| 108 | 40A | AIRマティックサスペンションコントロールユニット |
| 109 | 25A | ESP |
| 110 | 10A | ホーン<br>（盗難防止警報システム） |
| 111 | 30A | オートマチック<br>トランスミッション |
| 112 | 7.5A | ヘッドランプ光軸自動調整 |
| 113a | 15A | ホーン |
| 114 | 5A | 診断ソケット、エンジンコントロールユニット |
| 115 | 5A | ESP |
| 116 | 7.5A | オートマチック<br>トランスミッション |
| 117 | 7.5A | オプション |
| 118 | 5A | エンジンコントロールユニット |
| 119 | - | 未使用 |
| 120 | 10A | エンジンコントロールユニット |
| 121 | 20A | 余熱ヒーター |
| 122 | 25A | エンジンスターター |
| 123 | - | 未使用 |
| 124 | - | 未使用 |
| 125 | - | 未使用 |

### ヒューズボックス（グローブボックス横）

| ヒューズ番号 | アンペア数 | 装置名 |
|---|---|---|
| 10 | 10A | リアエアコンディショナーブロアモーター |
| 11 | 5A | インストルメントパネル |
| 12 | 15A | エアコンディショナーモジュール |
| 13 | 5A | ステアリング調整、<br>スイッチパネル |
| 14 | 7.5A | エンジンスイッチ、<br>CDチェンジャー |
| 15 | 5A | コンパスモジュール |
| 16 | - | 未使用 |
| 17 | - | 未使用 |
| 18 | - | 未使用 |

## ヒューズボックス（ラゲッジルーム内右側）

| ヒューズ番号 | アンペア数 | 装置名 |
|---|---|---|
| 20 | 5A | アンテナ |
| 21 | 5A | リアコントロールパネル |
| 22 | 5A | パークトロニック、余熱ヒーター |
| 23 | 10A | 携帯電話ユニット |
| 24 | 40A | シートベルトテンショナー |
| 25 | 15A | ラジオ |
| 26 | 25A | 助手席側ドアコントロールユニット |
| 27 | 30A | 助手席シート調整 |
| 28 | 30A | 運転席シート調整 |
| 29 | 40A | シートベルトテンショナー |
| 30 | 40A | 燃料ポンプコントロールユニット |
| 31 | 10A | オプション |
| 32 | 15A | AIRマティックサスペンションコントロールユニット |
| 33 | 25A | オプション |
| 34 | 25A | 運転席側ドアコントロールユニット |
| 35 | 30A | オーディオアンプ |
| 36 | 10A | VICSシステム |
| 37 | 5A | パーキングアシストリアビューカメラ |
| 38 | 10A | マルチファンクションコントローラー |
| 39 | 7.5A | タイヤ空気圧警告システム |
| 40 | 40A | EASY-PACK 自動開閉テールゲート |
| 41 | 25A | ルーフユニット |
| 42 | 25A | スライディングルーフ |
| 43 | 20A | オプション |
| 44 | - | 未使用 |
| 45 | 20A | 12V電源ソケット（センターコンソール後端、ラゲッジルーム） |
| 46 | 15A | ライター |
| 47 | 10A | オプション |
| 48 | 5A | EASY-PACK自動開閉テールゲート、リアディファレンシャルロックコントロールユニット |
| 49 | 30A | リアデフォッガー |
| 50 | 15A | リアワイパー |
| 51 | 5A | エンジンコントロールユニット |
| 52 | 5A | シートベルトテンショナー、リアディファレンシャルロックコントロールユニット |
| 53 | 5A | AIRマティックサスペンション、燃料ポンプコントロールユニット |
| 54 | 5A | ヘッドランプ光軸自動調整 |

## ヒューズ一覧

| ヒューズ番号 | アンペア数 | 装置名 |
|---|---|---|
| 55 | 7.5A | インストルメントパネル、ランプスイッチ |
| 56 | 5A | 自己診断ソケット |
| 57 | 20A | 燃料ポンプ |
| 58 | 7.5A | 診断ソケット |
| 59 | 7.5A | NECK PROアクティブヘッドレスト |
| 60 | 5A | グローブボックスランプ<br>フロントワイパー<br>VICSシステム |
| 61 | 10A | エアバッグシステム |
| 62 | 30A | 助手席シート調整 |
| 63 | 30A | 運転席シート調整 |
| 64 | - | 未使用 |
| 65 | - | 未使用 |
| 66 | 25A<br>または<br>30A | マルチコントロールシートバック |
| 67 | 25A | リアファン |
| 68 | - | 未使用 |
| 69 | 30A | リアディファレンシャルロックコントロールユニット |
| 70 | - | 未使用 |
| 71 | - | 未使用 |
| 72 | - | 未使用 |

（2006-05-05・A164 004 99 99）

**知　識**

- 仕様・装備などの違いにより、ヒューズが異なることがあります。
- 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## オイル・液類

必ずダイムラー社の純正品または指定品のみを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

| | 車種 | 容量（ℓ） | 指定品目 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| エンジンオイル | ML 350 4MATIC | 約8.0 | 承認オイル | オイルフィルター分を含む |
| | ML 550 4MATIC | 約9.0 | | |
| | ML 63 AMG | 約9.7 | | |
| ディファレンシャルオイル | 全車 | − | 承認オイル | ハイポイドギアオイル SAE90、85W90 |
| パワーステアリングオイル | 全車 | − | 純正パワーステアリングオイル | 専用オイル |
| ブレーキ液 | 全車 | − | 純正ブレーキ液 | DOT 4規格 |

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## オイル・液類

| | 車種 | 容量（ℓ） | 指定品目 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 冷却水 | ML 350 4MATIC | 約9.5 | 純正不凍液 | 水に純正不凍液を混ぜて使用。濃度に注意(8-7) |
| | ML 550 4MATIC | 約10.0 | | |
| | ML 63 AMG | 約11.5 | | |
| ウォッシャー液 | 全車 | 約7.7 | 純正ウインドウウォッシャー液 冬用、夏用 | 水と純正ウォッシャー液を混ぜて使用 |

**注　意　！**

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご参照ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

| | 車種 | 容量（ℓ） | 指定品目 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| **バッテリー** | 全車 | | 12V / 95Ah | 運転席シート下部に装備 |
| **エアコンディショナー冷媒** | 全車 | | R134a | R-12を使用しないこと |
| **燃料** | 全車 | 約95.0 | 無鉛プレミアムガソリン | 警告灯点灯時の残量約13ℓ (ML 63 AMGは約15ℓ) |

**注 意 ！**

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。

- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## タイヤとホイール

### 標準タイヤ / ウインタータイヤ

| 車種 | タイヤサイズ | ホイールサイズ | オフセット | ホイール材質 |
|---|---|---|---|---|
| ML 350 4MATIC | 235 / 65R17 | 7.5J×17 | 56mm | 軽合金 |
| ML 350 4MATIC<br>スポーツパッケージ装着車 | 255 / 50R19 | 8.0J×19 | 60mm | 軽合金 |
| ML 350 4MATIC<br>ラグジュアリーパッケージ装着車 | 235 / 65R17 | 7.5J×17 | 56mm | 軽合金 |
| ML 550 4MATIC | 255 / 55R18 | 8.0J×18 | 60mm | 軽合金 |
| ML 550 4MATIC<br>AMGスポーツパッケージ装着車 | 255 / 50R19 | 8.5J×19 | 58mm | 軽合金 |
| ML 63 AMG | 295 / 40R20 | 10.0J×20 | 46mm | 軽合金 |

**注 意 !**

ウィンタータイヤのサイズはダイムラー社が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

**知 識**

- 燃料給油フラップの裏側にタイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。
- ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## 応急用スペアタイヤ

| 車種 | タイヤサイズ | ホイールサイズ | オフセット | ホイール材質 | タイヤ空気圧 |
|---|---|---|---|---|---|
| ML 350 4MATIC | T155 / 90 D 18 | 4.00B×18 | 40mm | スチール | 4.2bar / 61psi / 420kpa |
| ML 550 4MATIC | T155 / 90 D 18 | 4.00B×18 | 40mm | スチール | 4.2bar / 61psi / 420kpa |
| | T155 / 80 R 19 | 4.5B×19 | 40mm | スチール | 4.2bar / 61psi / 420kpa |
| ML 63 AMG | 185 / 65-19 | 5.5B×19 | 13mm | 軽合金 | 3.5bar / 51psi |

**注　意　!**

応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

# 積載荷物の制限重量

## 積載荷物の制限重量

| 車種 | ルーフレール |
|---|---|
| 全車 | 100kg |

**知 識**

ルーフレールの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

## 故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

**知 識**

- 故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。
- 重要度の低いメッセージは、数秒後に自動的に消えます。
- ステアリングの ▭ ▭ や ⇧⇩、またはリセットボタン（3-86）を押すと、メッセージが消え、故障内容が記憶されます。
- 重要度の高いメッセージは、故障や異常が解消するまで、メッセージが消えない場合があります。

**注 意 !**

- 走行する前にエンジンスイッチを2の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを必ず確認してください。
- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車の操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

## 文字メッセージ

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| ABS | ABS ト ESP ｼﾖｳﾌｶﾉｳ!<br>ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>システムの自己診断が完了していないなどのため、一時的にABSとESPが作動しない状態になっている。同時にBASの機能も解除されている。<br>上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 | ▶ 約20km/h以上の速度で短い距離を走行してください。メッセージが消えれば、作動できる状態になります。 |
| | | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>電圧低下のため、ABSとESP、PRE-SAFEの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。<br>上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ABS ト ESP ｺｼｮｳ<br>ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>故障のため、ABSとESP、PRE-SAFEの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。<br>上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| ﾊﾞｯﾃﾘｰ ﾎｺﾞ: | ｺﾝﾌｫｰﾄ ｷﾉｳ<br>ｹﾞﾝｻﾞｲ<br>ﾌｶﾉｳ | バッテリーの電圧が低下しているため、リアデフォッガーなどの電気装備に電力の供給ができない。 | 電圧が回復すると、電気装備を作動できるようになります。 |

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| ESP | ESP ｼｽﾃﾑ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!<br>ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>システムの自己診断が完了していないなどのため、一時的にESPが作動しない状態になっている。同時にBASの機能も解除されている。 | ▶ 約20km/h以上の速度で短い距離を走行してください。メッセージが消えれば、作動できる状態になります。 |
| | | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>電圧低下のため、ESPとBAS、PRE-SAFEの機能が解除されている。<br>上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ESP ｺｼｮｳ<br>ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>故障のため、ESPとBAS、PRE-SAFEの機能が解除されている。<br>メーターパネルのESP / ETS表示灯が点灯している。<br>上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ｺｼｮｳ<br>ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ | 走行中にメッセージが表示され、メーターパネルのESP / ETS表示灯が点滅しているときは、ブレーキの過熱を防ぐためETSの機能が解除されている。 | ブレーキが冷えれば、ETSは自動的に待機状態になります。メッセージが消え、ESP / ETS表示灯も消灯します。 |

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| P ﾚﾝｼﾞ ﾊ | ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ | 走行中にシフトポジションを P にしようとした。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。<br>▶ シフトポジションを P にしてください。 |
| ｾﾚｸﾀｶﾞ | ｿｳｺｳｲﾁ | シフトポジションが D 、 R 、 N のいずれかのときに運転席ドアを開いた。 | ▶ 車から離れるときは、シフトポジションが P になっていて、パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。 |
| | ｺﾝﾌｫｰﾄ ｷﾉｳ<br>ｦ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｽ | バッテリーの電圧が回復し、電気装備が作動できるようになった。 | |
| | ｷﾞﾔﾁｪﾝｼﾞ ｾｽﾞﾆ<br>ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ | 故障のため、シフトポジションを変更できない。 | **シフトポジションが D のとき**<br>▶ シフトポジションを D から動かさないようにして、指定サービス工場まで走行してください。<br>**シフトポジションが N 、 R 、 P のいずれかのとき**<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |
| ｴﾝｼﾞﾝｽﾀｰﾄ<br>ﾉ ﾀﾒ | P ﾏﾀﾊ N ﾆｼﾌﾄ | シフトポジションが D か R のときにエンジンを始動しようとしている。 | ▶ シフトポジションを P か N にしてください。 |
| ﾌﾟﾚｾｰﾌ | ｺｼｮｳ<br>ﾏﾆｭｱﾙ ｦ<br>ｻﾝｼｮｳ | PRE-SAFEが故障している。<br>エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 | ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ | ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ！ | タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの空気漏れを検知した。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。<br>▶ タイヤを点検してください。<br>▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。<br>▶ 必要であれば該当するタイヤを交換してください（**7-7**）。<br>▶ タイヤを交換し、適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（**4-9**）。 |
| ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ | ｿﾉｺﾞ<br>ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ<br>ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ<br>ｻｲｼﾄﾞｳ | タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 | ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。<br>▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（**4-9**）。 |
| ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ | ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ<br>ｺｼｮｳ | 故障のため、タイヤ空気圧警告システムの機能が解除されている。 | ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ<br>ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ | ｺｼｮｳ | クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。 | ▶ 指定サービス工場でクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターの点検を受けてください。 |
| ｸﾙｰｽﾞ<br>ｺﾝﾄﾛｰﾙ | - - - km/h | 設定条件を満たしていないときにクルーズコントロールを作動させようとした。 | ▶ 設定条件を満たしているときは、約30km/h以上の速度で走行して、クルーズコントロールを設定してください。<br>または<br>▶ クルーズコントロールの設定条件を確認してください。 |

## イラストメッセージ

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| | | テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 | ▶ テールゲートを閉じてください。 |
| | | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>**盗難防止警報システム装備車**<br>ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。<br>▶ ボンネットを閉じてください。 |
| | | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 | ▶ ドアを閉じてください。 |
| | | ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 | ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 |
| | | 以下の原因によりバッテリーが充電されていない。<br>• オルタネーターの故障<br>• Ｖベルトの損傷<br>• 電気システムの故障 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、ただちに停車してください。<br>▶ Ｖベルトを点検してください。<br>**Ｖベルトが切れているとき**<br>▶ 走行しないでください。<br>▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。<br>**Ｖベルトが切れていないとき**<br>▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| | バッテリー/オルタネータ<br>テイシャ シテクダサイ! | バッテリーが故障している。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。<br>▶ 走行しないでください。<br>▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 |
| | ブレーキ パッド マモウ | ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 | ▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。 |
| | EBV, ABS, ESP<br>コショウ<br>マニュアル ヲ サンショウ | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>故障のため、EBVとABS、ESPとPRE-SAFEの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。<br>上記の機能は作動しないが、通常のブレーキ時の制動力は確保されている。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ブレーキ オイル<br>レベル テンケン | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。<br>▶ 走行しないでください。<br>▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。<br>▶ 状況を問わず、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。 |
| | パーキングブレーキ<br>カイジョ シテクダサイ! | パーキングブレーキを解除しないで走行している。 | ▶ パーキングブレーキを解除してください。 |

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| SRS | SRS ｼｽﾃﾑ<br>ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ | 乗員保護補助装置が故障している。 | ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ﾌｭｰｴﾙ ﾌｨﾙﾀ<br>ｾｲｿｳ | 燃料フィルターに水がたまっている。 | ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼﾖｳﾌｶ | 以下のときには車高の調整ができない。<br>• 設定しようとしている車高レベルに対して、走行速度が速すぎる<br>• けん引車両がある<br>• けん引装置を使用している | ▶ 速度を落としてから、車高を調整してください。<br>▶ けん引装置を使用していないか確認してください。 |
| | ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ ﾚｲｷｬｸ<br>ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ | 車高レベルを頻繁に変更したためにエアポンプを冷却する必要があるときに、車高を上げようとした。 | ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。<br>▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。<br>▶ エアポンプが冷却されるまで待ってください。<br>エアポンプが冷却されるとメッセージが消え、選択した車高レベルに設定されます。 |
| | ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ<br>max. 30 km/h | 車高がオフロードレベル3＊に設定されようとしている。 | ▶ 約30km/h以下の速度で走行してください。 |
| | max. 30 km/h | 車高がオフロードレベル3＊に設定されている。 | ▶ 約30km/h以下の速度で走行してください。 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| | ｶｺｳﾁｭｳ<br>max. 30 km/h | 車高がオフロードレベル3＊からオフロードレベル2＊に設定されようとしている。 | ▶ 車高がオフロードレベル2に設定されるまで約30km/h以下の速度で走行してください。 |
| | ｿｸﾄﾞ 30 km/h ｲｶﾆ<br>ｹﾞﾝｿｸ | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>車高がオフロードレベル3＊のときに、走行速度が約30km/hを超えた。 | ▶ 約30km/h以下の速度で走行してください。<br>▶ 変化したハンドリング特性に合わせて走行してください。<br>▶ 急激および大きなステアリング操作をしないでください。<br>▶ ハンドリング特性の違いに注意して走行してください。 |
| | ﾃﾞﾌﾛｯｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ<br>ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ | ディファレンシャルシステム＊が故障している。 | ▶ 約80km/hを超えないように走行してください。<br>▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ﾃﾞﾌﾛｯｸｼｽﾃﾑ ｶﾈﾂ<br>ｽｺｼ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ | ディファレンシャルシステム＊が過熱しているため、ディファレンシャルロックが解除されている。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ ディファレンシャルシステムが冷却されるまで待ってください。<br>ディファレンシャルシステムが冷却されるとメッセージが消え、ディファレンシャルがロックされます。 |
| DSR | ｺｼｮｳ | 故障のため、DSRの機能が解除されている。 | ▶ 指定サービス工場でDSRの点検を受けてください。 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

| ディスプレイ表示 | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| ﾃｲｼｬ<br>ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ | ローレンジ / ノーマルレンジの切り替えが完了していない。<br>トランスファー＊がニュートラルになっていて、エンジンと駆動輪がつながっていない。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。<br>▶ パーキングブレーキを確実に効かせてください。<br>▶ 走行しないでください。<br>▶ 再度ローレンジ / ノーマルレンジの切り替え操作を行なってください。 |
| ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ<br>ﾃｲｼｬｼﾞ Pﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ | トランスファー＊が故障している。 | ▶ 約80km/hを超えないように走行してください。<br>▶ 駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。<br>▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| max. 70 km/h<br>ﾃﾞ ｿｳｺｳ | 走行速度が約70km/hを超えているため、ローレンジからノーマルレンジへの切り替え操作ができない。 | ▶ 約70km/h以下の速度で操作してください。 |
| max. 40 km/h<br>ﾃﾞ ｿｳｺｳ | 走行速度が約40km/hを超えているため、ノーマルレンジからローレンジへの切り替え操作ができない。 | ▶ 約40km/h以下の速度で操作してください。 |
| ﾀﾝｼﾞｶﾝ N ﾆ<br>ｼﾌﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ | シフトポジションが N になっていないときに、トランスファー＊を操作しようとした。 | ▶ シフトポジションを N にしてください。 |
| ｼﾌﾄ ﾄﾞｳｻ ｷｬﾝｾﾙ<br>ｻｲｷﾄﾞｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ | ローレンジ / ノーマルレンジの切り替えが完了していない。 | ▶ 再度切り替え操作を行なってください。 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| | ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、<br>ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ! | 冷却水の温度が高すぎる。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。<br>▶ エンジンを停止してください。<br>▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。<br>▶ 冷却水温度画面（4-11）で冷却水温度を点検してください。<br>▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | | Vベルトが切れている可能性がある。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。<br>▶ エンジンを停止してください。<br>▶ Vベルトを点検してください。<br>**Vベルトが切れているとき**<br>▶ 走行しないでください。<br>▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。<br>**Vベルトが損傷していないとき**<br>▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 |
| | ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ | 冷却水量が不足している。 | ▶ 冷却水を補給してください（8-7）。<br>▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。 |

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| | ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ[1] | 左ヘッドランプ(ロービーム)が切れている。 | ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ｵｰﾄﾗｲﾄ<br>ｺｼｮｳ | ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。 | ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（4-37）。<br>▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。 |
| | ﾗﾝﾌﾟ ｦ<br>ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ! | ランプスイッチを の位置にしたままエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 | ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。 |
| | ｴｱｸﾘｰﾅ<br>ｺｳｶﾝ | エアフィルターの交換時期になっている。 | ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ<br>ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾃﾝｹﾝ | エンジンオイル量が限界まで下がっている。 | ▶ エンジンオイル量を点検して、必要であれば補給してください（8-8、9）。<br>▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。 |
| | ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ<br>1ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ! | エンジンオイル量が不足している。 | ▶ エンジンオイルを補給して、エンジンオイル量を点検してください（8-8、9）。<br>▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。 |

1) 他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

## 故障 / 警告メッセージ

| ディスプレイ表示 | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| | ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ<br>ﾃｲｼｬ ｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼ | エンジンオイルがほとんどなくなっている。エンジンを損傷するおそれがある。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。<br>▶ エンジンを停止してください。<br>▶ エンジンオイルを補給して、エンジンオイル量を点検してください（8-8、9）。 |
| | ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ<br>ｵｲﾙｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ | エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや触媒を損傷するおそれがある。 | ▶ エンジンオイルを抜いてください。オイルを廃棄するときは規則に従ってください。 |
| | ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｼﾃｲﾉ<br>ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ! | エンジンオイル量が限界まで下がっている。 | ▶ エンジンオイルを補給して、エンジンオイル量を点検してください（8-8、9）。<br>▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。 |
| | ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ<br>ｿｸﾃｲﾌｶﾉｳ | エンジンオイル量計測システムが故障している。 | ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ｷｰ ｦ<br>ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ | キーが機能しなくなっている。 | ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ<br>ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ | 燃料の残量が少なくなっている。 | ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。 |
| | ｳｫｯｼｬｴｷ<br>ﾎｼﾞｭｳ | ウォッシャー液量がリザーブタンクの約1/3まで減っている。 | ▶ ウォッシャー液を補給してください（8-14）。 |

## トラブルの原因と対応

### スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。 | 多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートヒーターが自動的に停止している。 | ▶ 必要のない電気装備を停止してください。<br>電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。 |
| エアコンディショナーのACスイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。<br>エアコンディショナーのACスイッチを押しても、除湿 / 冷房されない。 | エアコンディショナーの冷媒が不足しているか、冷却システムが故障している。 | ▶ 指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。 |
| リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。<br>リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。 | 多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、リアデフォッガーが自動的に停止している。 | ▶ 必要のない電気装備を停止してください。<br>電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。 |

## メーターパネルの表示灯 / 警告灯

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| (ABS) エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。 | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>故障のため、ABSの機能が解除されている。同時にBASとESP、PRE-SAFEなどの機能も解除されている。<br>通常のブレーキ時の制動力は確保されているが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにタイヤがロックする可能性がある。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。<br>▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>電圧低下のため、ABSの機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。<br>同時にBASとESP、PRE-SAFEなどの機能も解除されている。<br>通常のブレーキ時の制動力は確保されているが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにタイヤがロックする可能性がある。 | ▶ 必要のない電気装備を停止してください。<br>電圧が回復すると、ABSは作動できる状態になります。 |

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
| --- | --- | --- |
| エンジンがかかっているときに黄色のESP / ETS表示灯、赤色のブレーキ警告灯、黄色のABS警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。 | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>故障のため、EBVの機能が解除されている。同時にABSとBAS、さらにESPとPRE-SAFEなどの機能も解除されている。<br>通常のブレーキ時の制動力は確保されているが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにタイヤがロックする可能性がある。 | ▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| 走行中に黄色のESP / ETS表示灯が点滅する。 | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りをしているため、ESPやABSまたはトラクションコントロールが作動している。<br>クルーズコントロールも自動的に解除される。 | ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。<br>▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。<br>▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。<br>▶ ESPの機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。 |
| エンジンがかかっているときに黄色のESP / ETS表示灯が点灯する。 | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>ESPの機能が解除されている。<br>車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 | ▶ ESPを待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。<br>▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 |

## トラブルの原因と対応

| トラブル | | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|---|
| ⚠ | エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯が点灯する。 | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>故障のため、ESPの機能が解除されている。車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 | ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（10-4）に従ってください。<br>▶ 十分注意して走行してください。<br>▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| SRS | エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。 | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>乗員保護補助装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 | ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| (!) | 走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も聞こえる。 | パーキングブレーキを解除しないで走行している。 | ▶ パーキングブレーキを解除してください。<br>警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。 |
| | エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も聞こえる。 | ⚠ **事故のおそれがあります**<br>リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 | ▶ 走行しないでください<br>▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。<br>▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（10-8）に従ってください。<br>▶ 状況を問わず、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。 |

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。 | 以下に異常がある。<br>• 燃料噴射システム<br>• 排気システム<br>• イグニッションシステム<br>排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 | ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。 |
| フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。 | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>前席の乗員がシートベルトを着用していない。 | ▶ シートベルトを着用してください。<br>シートベルト警告灯が消灯します。 |
| | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>助手席シートの上に荷物を置いている。 | ▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。<br>シートベルト警告灯が消灯します。 |
| 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。 | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>前席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。 | ▶ シートベルトを着用してください。<br>シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。 |
| | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。 | ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。<br>シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。 |
| エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。 | 燃料の残量が少なくなっている。 | ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。 |

# トラブルの原因と対応

## 警告音

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| 盗難防止警報が作動した。 | 盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、運転席ドアをエマージェンシーキーで解錠して開いた。<br>盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、車内のレバーを引いてドアまたはテールゲートを開いたか、ボンネットのロックを解除した。 | ▶ キーのまたはを押してください。<br>または<br>▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。 |
| 警告音が鳴った。 | マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 | ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（10-2～）。 |
| | パーキングブレーキを解除しないで走行している。 | ▶ パーキングブレーキを解除してください。 |
| | ランプスイッチがの位置のときにエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 | ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。 |
| エンジンスイッチを2の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が約6秒間鳴る。 | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 | ▶ シートベルトを着用してください。 |
| 速度が約25km/h以上になったときに警告音が鳴る。 | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 | ▶ シートベルトを着用してください。 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## 事故のとき

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| 燃料が漏れている。 | ⚠ **爆発のおそれがあります**<br>燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。 | ▶ ただちにエンジンを停止してください。<br>▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。<br>▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。<br>漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |
| 損傷の程度がわからない。<br>または<br>損傷箇所が見当たらない。 | | ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |
| 運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。 | 後方からの追突などの事故により、NECK PROアクティブヘッドレストが作動した。 | ▶ NECK PROアクティブヘッドレストをリセットしてください **(3-24)**。 |

# トラブルの原因と対応

## 燃料と燃料タンク

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| 燃料が漏れている。 | ⚠ **爆発のおそれがあります**<br>燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 | ▶ ただちにエンジンを停止してください。<br>▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。<br>▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。<br>漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |
| 燃料給油フラップが開かない。 | 燃料給油フラップが解錠されていない。キーの電池も消耗している。 | ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（3-37）。<br>▶ 車内からテールゲートを開いてください（3-46）。<br>▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（3-61）。 |
| | 燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 | ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |

## エンジン

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| エンジンが始動しない。<br>エンジンスイッチを**3**の位置にするとスターターモーターの音がする。 | • エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。<br>• 燃料供給に異常がある可能性がある。 | ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを**0**の位置に戻してください。<br>▶ 再度、始動操作を行なってください（**5-4**）。<br>ただしエンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。<br>**何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき**<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |
| エンジンが始動しない。<br>エンジンスイッチを**3**の位置にしてもスターターモーターの音がしない。 | バッテリーがあがっている可能性がある。 | ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（**7-24**）。<br>**エンジンが始動しないとき**<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |
| | 過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 | ▶ スターターモーターが冷えるまで、約2分間待ってください。<br>▶ 再度、始動操作を行なってください。<br>**エンジンが始動しないとき**<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |
| エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。 | エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 | ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。<br>▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。<br>触媒を損傷するおそれがあります。 |

## トラブルの原因と対応

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
| --- | --- | --- |
| 冷却水温度が約120℃を超えている。<br>警告音も鳴っている。 | リザーブタンクの冷却水量が不足している。<br>冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 | ▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。<br>▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。<br>▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください（**8-6、7**）。 |
| | 冷却水量が正常なときは、エンジンファンが故障している。<br>冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 | ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 |
| エンジンが停止しない。 | | ▶ エンジンルーム内にあるヒューズボックスを開きます。<br>▶ エンジンルーム内ヒューズボックスの120番のヒューズを抜きます（**7-30、9-6**）。<br>**エンジンを再始動するとき**<br>▶ ヒューズを交換してください。 |
| | 過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 | ▶ スターターモーターが冷えるまで、約2分間待ってください。<br>▶ 再度、始動操作を行なってください。<br>**エンジンが始動しないとき**<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |

## オートマチックトランスミッション

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
| --- | --- | --- |
| トランスミッションが正しく変速しない。 | トランスミッションオイルが減っている。 | ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。 |
| 加速性能が悪化している。<br>トランスミッションが変速しない。 | トランスミッションに異常がある。 | エマージェンシーモードにして、2速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。<br>▶ 停車してください。<br>▶ シフトポジションを P にしてください。<br>▶ エンジンを停止してください。<br>▶ 約10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。<br>▶ シフトポジションを D にします。<br>2速ギアになります。<br>または<br>▶ シフトポジションを R にします。<br>リバースギアになります。<br>▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。 |

# トラブルの原因と対応

## パークトロニック＊

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
| --- | --- | --- |
| パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2秒間警告音が鳴った。<br>約20秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。 | パークトロニックに異常があり、機能が停止している。 | ▶ 指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。 |
| パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニックが解除された。 | パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 | ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（**8-36**）。<br>▶ 再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。 |
| | 外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。 | ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（**5-102**）。 |

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

## ヘッドランプ / 方向指示灯

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。 | 外気の湿度が高くなっている。 | ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。 |
| | ヘッドランプユニットやドアミラー方向指示灯ユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。 | ▶ 指定サービス工場でヘッドランプやドアミラーの点検を受けてください。 |

## ワイパー

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| ワイパーが正しく作動しない。 | ウインドウに障害になる物が付着している。ワイパーモーターの作動が停止している。 | ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。<br>▶ 障害物を取り除いてください。<br>▶ 再度、ワイパーを作動させてください。 |
| ワイパーが作動しない。 | ワイパーが故障している。 | ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（**5-31**）。<br>▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。 |

# トラブルの原因と対応

## ウインドウ

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| ドアウインドウを閉じることができない。 | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>• ドアウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている。<br>• ドア内部のガイドレールなどに障害になる物が挟まっている。 | ▶ スイッチから手を放してください。<br>その位置からドアウインドウが少し開きます。<br>▶ ドアウインドウを開いてください。<br>▶ 障害物を取り除いてください。<br>▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。<br>ドアウインドウに挟まれないように注意してください。 |
| ドアウインドウを閉じることができない。 | ⚠ **けがのおそれがあります**<br>原因がわからない場合。 | ▶ ドアウインドウが閉じないときは、一度スイッチから手を放し、すぐにスイッチを軽く引き続けます。<br>または<br>▶ ドアウインドウが自動で全閉しないときは、約5秒以内にスイッチをいっぱいに引きます。<br>挟み込み防止機能が働かない状態でウインドウが閉じます。<br>ウインドウに挟まれないように注意してください。<br>数秒後に、挟み込み防止機能が働く状態になります。<br>▶ それでも全閉しない場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。 |

## ミラー

| | | |
|---|---|---|
| ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。 | | ▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（3-80）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。 |

## キー

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| リモコン操作で解錠 / 施錠できない。 | キーの電池が消耗している。 | ▶ キーの先端を運転席ドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。<br>**リモコン操作ができないとき**<br>▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（3-37）。<br>▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（3-15）。 |
| | キーが故障している。 | ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（3-37）。<br>▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 |
| キーのボタンを押しても表示灯が点灯しない。 | キーの電池が消耗している。 | ▶ キーの電池を交換してください（3-15）。<br>電池は指定サービス工場で入手できます。 |
| キーを紛失した。 | | ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。<br>新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。<br>▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。<br>▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。 |

# トラブルの原因と対応

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| エマージェンシーキーを紛失した。 | | ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。<br>新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。<br>▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。<br>▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。 |
| エンジンが始動しない。 | バッテリーの電圧が低下している。 | ▶ 必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。<br>**それでもエンジンスイッチがまわらないとき**<br>▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。<br>または<br>▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（**7-24**）。<br>または<br>▶ 指定サービス工場に連絡してください。 |

## 車を使用しないとき

| トラブル | 考えられる原因および症状 | 対応 |
|---|---|---|
| エンジンを始動しない期間が約6週間以上におよぶとき。 | | ▶ 対応について、指定サービス工場におたずねください。<br>▶ バッテリーからケーブルを外してください。 |

## ア

## タ



## ナ

## ハ

## マ

## ラ



## ワ



## 英字・数字

“ESP® ” はダイムラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2008年２月現在のものです。

**対象モデル**

ML 350 4MATIC
ML 550 4MATIC
ML 63 AMG